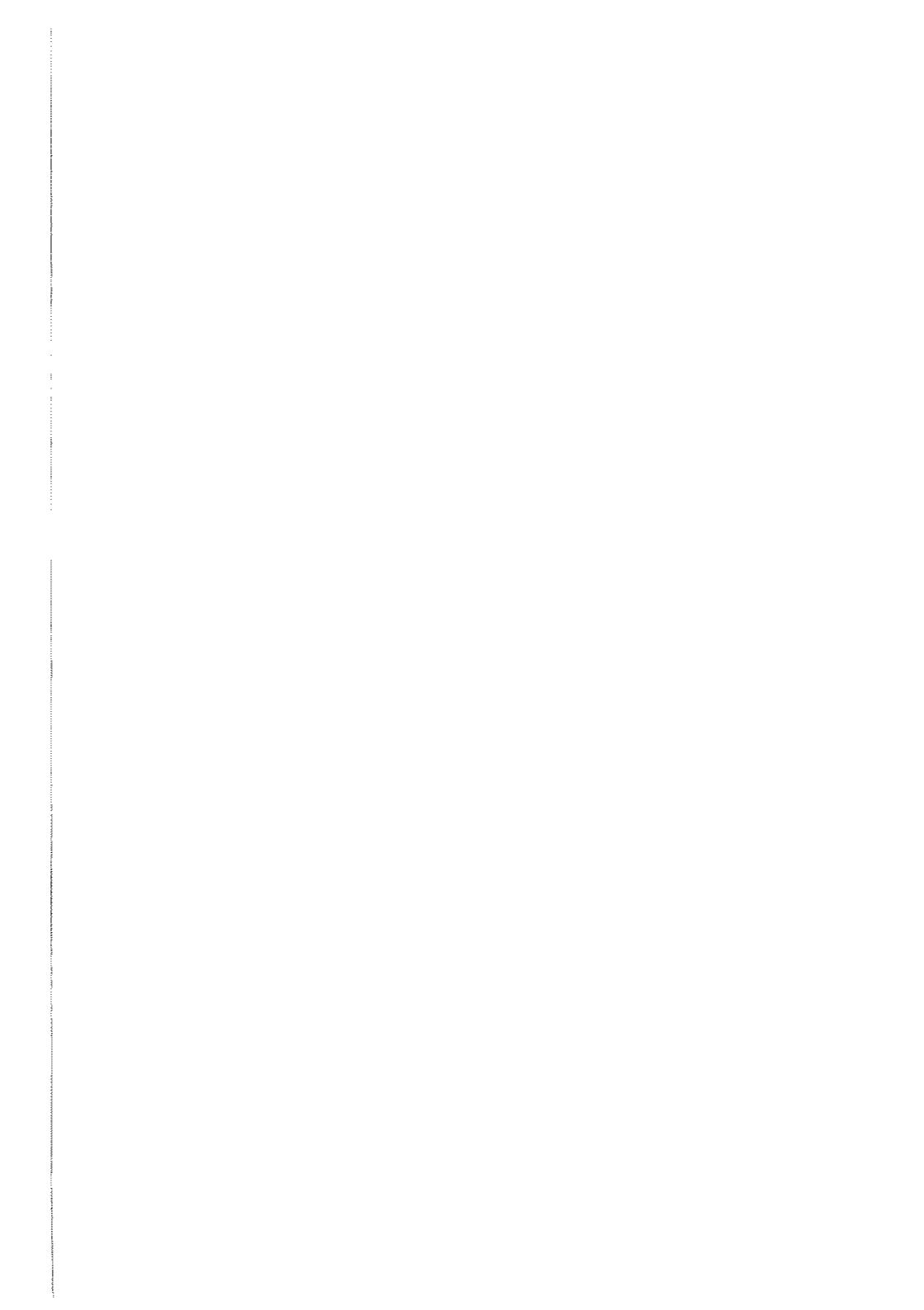


ダントンボの綿毛 photo by hiyoko(ph)

連続フォーラム「チョゴリときもの」

～名前から考える～

財団法人 京都市国際交流協会



はじめに たかが「なまえ」、されど「名前」

仲尾 宏

このフォーラムで名前のことを持ちあげることは今回が初めてではない。他のテーマのお話しを聞かせていただいている在日のかたがたの物語の中にも、「自身の名前についての思いが大抵の場合語られていた。この十七年の間に、日本社会の中の在日の状況、おかれた社会的地位にいくらかの変動、変化があつたにせよ、これだけ名前のことが登場する、ということは在日の名前の問題というのは、民族的マイノリティにとって依然として大きな問題である、ということではないだろうか。そのようなことを考えつつ、スタッフの方とともに今回の三つの主題「国際結婚による名前の選択」「『名前』とアイデンティティ」、そして「民族名」と『日本名』というタイトルを考えたのだが、果して名前の問題はどの方にとっても「自分の人生の中でたえず目の前に突き出されている課題である」とがよく理解できた。結婚、就職、子どもの名の命名、など人生の節目、節目に避けて通れない課題として名前は存在するのである。ここで考えねばならないことは、この「民族名」と「日本名」という問題は、日本社会特有の現象であるということである。根っこからの多民族社会であるアメリカ合衆国や中華人民共和国はもちろん、ヨーロッパ諸国でもアフリカやその他のアジア諸国でも「名前問題」ということは社会生活上、殆ど登場してはいない。これは日本社会の近現代史が作りだしてきた特有の問題である、ということを認識しなくてはならない。さらにいえば米国のオバマ大統領の氏名がどういう民族的出自を背負っているのか、ということに思いついた日本人は数少ない。そのような民族的マジョリティの存在自体が在日の名前問題の源泉ではないだろうか。これからも在日の名前問題は続くであろう。さて今年で二〇周年をむかえた京都市国際交流会館の記念行事として最終回は朴一（パク・イル）さんのお話を聞くことになった。この人は関西弁の在日として、豊富な社会学、歴史学、現象学の知識と多様なひとびとの接触、取材を通じ、その著作やテレビなどのマス媒体に在日の存在自体の問題、日本社会特有の在日に対する日本人の意識をあるいは表面の現象のありようを抉り、あるいは深層心理に立ち入って考察してこられた。今回もきわめて分かりやすい事例や有名・無名の在日の人びとをめぐる問題をわかりやすく提起された。そ

「でも「名前ありき」であったことはいうまでもない。

最後にこの会館の運営主体である(財)京都市国際交流協会がかくも長く、このフォーラムを開催していた
だいでいる」とに対して、「二〇周年記念の場をお借りして心より感謝の思いを申しあげる。京都市と「国際
化」をつなぐ基軸としてこれからも協力を続けたい。

目 次

「チョコリ」ときもの 「～名前から考える～」

第一回 「国際結婚による名前の選択」

第二回 「『名前』とアイデンティティ」

第三回 「『民族名』と『日本名』」

第四回 「朴一（ぱく・じる）氏講演会

～在日芸能人と出自をめぐって～

第一回「国際結婚による名前の選択」

パネリスト

金 光敏氏

孫 片田 晶氏

コーディネーター

仲尾 宏氏（京都造形芸術大学客員教授）

二〇一〇年一月二十六日（金）開催

チヨゴリときもの

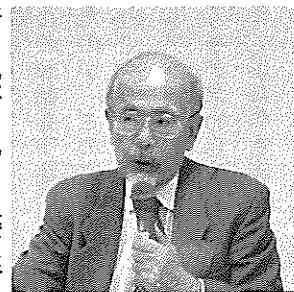
司会…本日はお足元の悪い中ご参加頂きましてありがとうございます。チヨゴリときもの第一七回を開催致します。本年度は協会にとりまして設立二〇周年の節目の年となりました。三周年記念として開始致しましたこのフォーラムを今一度見つめ直して、この事業の意味というものを考えてみたいと思いました。

世界には同じ人は一人もいません。それぞれの人達を見分けたりその人自身を表したりする名前というものについて、在日コリアンの方達は時間の経過の中でどんな風に多様な変化をされてきたのか。それを取り巻く日本の社会がどんな風に変化してきたのか、あるいはしてこなかつたのか。お話を伺いながら皆様と一緒に考えてみたいと思います。

今年度は本日第一回から三回まではいつものようにパネリストをお招きしてお話を伺います。最終回四回、三月の十九日ですが、これは先程申しました周年の記念講演と致しまして、大阪市立大学大学院の教授朴一さんのお話を予定しております。テーマは名前ということで、今回朴一さんの方からタイトルとして頂戴しましたのが、このフォーラムとはあまり関係の無さそうなものだったんですけども、「在日芸能人の名前と出自をめぐつて」というものです。ただ、このタイトルをつけられたのは意味があると思います。その後側に在日コリアン、あるいは日本人、他の外国籍の市民それがどんな風に考えてどんな風に動いてゆくのか、どういう事が求められているのか、望まれているのかという事を考える一つの機会になると思います。どうぞ最後までご参加頂きますようお願い致します。

それでは本日のパネリストとコーディネーターをご紹介致します。最初にお話し頂きますのは金光敏さんです。金さんは市内の希望の家保育園で保育士としてお仕事をされています。本日は、ダブルの子ども達のお母様でもありますので、お母様の立場からお話し頂きます。次にお話し頂きますのは孫井田晶さんです。この方は京都大学の

大学院の学生さんです。ダブルの子どものご本人の立場からお話を頂きます。コーディネーターはいつものよう
に京都造形芸術大学客員教授の仲尾宏先生です。どうぞよろしくお願ひ致します。



仲尾 宏氏

仲尾 宏…皆さんこんには。毎年この季節になるとここへ四週間通うのが私はとても楽しみで、寒い季節ではありますが、なんとなくお二人ずつの話を聞いていると心が温まるような思いをする事がしばしばあります。

今年は「韓國併合」百年という節目の年にあたります。よく日韓併合といわれますが、これは事実としても当時の用語としても間違いなんです。韓國が日本によって一方的に併合されたという意味で日本もそのつもりであったので、当時の新聞記事を見ても韓國併合の詔書、詔書というのは天皇の親書ですが、そういう記事が載つておりまして、「日韓併合」という言葉は使われていませんでした。日韓併合という場合は大日本帝国と大韓帝国という二つの国が対等に合併した、こういう意味合いがでてきます。これは事実としても当時の表現としてもそうではなかつたというので、韓国併合という言葉の通りの時代が始まつたというように考えるべきだと思います。

その韓国併合の日本による植民地支配の三六年間でいろんな出来事が起りますけども、その一つが名前の問題です。創氏改名、氏を創り、名を改めるところの如くに言われております。ところがそれは今日お配りしました資料の一一番左にありますように、前の総理大臣麻生さんが朝鮮の人が苗字をくれと言つたからだと。こういうよううに思い込んでいる人もいるんです。そういう事も無きにしも非ずだつたけれども、事実はそうでないという事を京都大学の水野さんが二年前に創氏改名はどのように実施されたのかという事を本（『創氏改名』岩波新書）の中で書いております。それを紹介したいと思うのですが、麻生さんがこういう事を言つたのは一〇〇ページント間違ではないという事もあります。と言うのは、日本が韓国を併合する前に既に一九〇五年から保護国と

しておりました。統監府という役所を置いて伊藤博文がその初代だったんですね。その頃からその統監府で働くつまり役人になるためには日本的な名前を使つた方がいいという事から、自ら長谷川太郎とか日本式の名前を名乗つて官吏になつた人もいました。しかしそれは禁止されるんです。なぜ朝鮮人が日本の名前を名乗るのかという事で禁止されたのですが実は、同じ統監府、後の総督府で働いていても日本人の方が給料が二倍も三倍も高いんです。だから朝鮮人が日本式の名前を名乗つて働いているとまちがつて朝鮮人よりももつと高い、日本人並みの給料をあげてしまふ。これはいかんという事で、日本の統監府、後の総督府が禁止するという事がありました。

最初の頃のそういう事が消えまして、元通りの朝鮮式の呼び名が普通になつたわけです。ちなみに朝鮮で姓や名がいつからあつたのかと言いますと、元は朝鮮語の固有の言葉で名前があつたようです。ところが中国文明の影響が非常に強く入つてきた。漢字が入つてきた。そうすると漢字を使った中国風の名前が流行のようになって、特に上流階級の方からだんだん下の方に浸透していった。そういう事がござります。ですからほとんど一字姓で、その読みを金さんとか朴さんとか李さんとか朝鮮語の音で発音すると。そのように変わつていつたようです。それで日本の植民地時代になるとどうなるかというと、資料の右の上を見て頂きますと改正朝鮮民事令という言葉が使われております。

ここで注目して欲しいのは民事令です。これは日本でいう民法にあたります。この民事令というのは法ではなくて令になつてゐる。何故かと言うと植民地支配下の朝鮮半島では法律は無かつたんです。全て日本の天皇の命令だつたんです。そういう意味で民事法ではなくて民事令となる。日本の朝鮮支配の中の指令である。法律ではない。これは法治國家と言ひながらそれは日本本土だけで植民地では法律を適用していなかつたという事の証明でもあります。これが一九四〇年、昭和一五年にその改正があつて、施行された。まず氏を創るという事になつた。金とか朴とか李とかいうのは姓であつて、氏ではない。そこは日本と違う。日本でも姓はあつたんです。例えば源、平、藤原、橘、これは姓です。これは天皇家の子ども達が臣籍に降下する時にその姓を賜つて姓になつ

たんですね。それは氏、我々の氏名ではないんです。氏はいつ頃から始まったかという事ですが、次の南次郎総督の写真が出ている所に書いてあります。以来朝鮮には血族団体、血族団体というのは家族と共同体的な意味を考えでいいと思うんですが、李とか朴とかいう姓はあるが日本古来の家の称号たる氏というものが無いとこう書いてあります。日本古来の風習である氏というものが無いと言うんですが、じやあ日本の氏はどうなのかな。氏は武士達が自分の出身地の地名をとつて、足利とか新田とか三浦とかそういう名前を使い出した。これがそもそもの始まりです。鎌倉時代ですね。農民やその他の庶民には依然として名前がありませんでした。例えば私の家の家系図を調べてみたらこんな事がわかつてきました。私の祖父は日露戦争に従軍していた世代ですけれどもその時に初めて私の仲尾という氏があった。私の曾祖父は、過去帳を見ると北国屋なんとかと書いてある。これは富山県の出身らしいです。富山県の仲尾という自分の出身地の地名できてたんだですが、京都にきて商売をする。ということで北国屋という屋号を称していたのです。だから私の祖父さんまでは仲尾という氏は無かつたんですね。先祖が平安貴族の血を引くとか、あるいは後に大名になつてゆく武士階級の人でなければ皆さん方でも氏が無かつたと思うんです。

ところがこの南總督は日本古来の家の称号であると、これは日本の美風であるといふような言い方をしていますが、これは全く物事を知らないのも甚だしい事なんです。そんなわけで日本に氏は無かつた。明治時代名前をつけようという事になつた。これは朝鮮と同じです。近代国家というのは國家が全一的に人民を支配するという事になる。そうすると名前が無いと戸籍にも登記できない。徵兵制の台帳もできない。税金を取り立てる台帳にもならない。だから、一人一姓一名と言つてました。一姓というのが氏にあたります。名前は一つだけ。江戸時代だったら受領名も含めて三つも四つも名前があるでしょう。徳川家康も元は竹千代とか、いろんな名前がつく。そんものは複雑でいろんな誤解や間違いが生じるから駄目だと。一人一名だというふうにした。女性は名前が無かつたんですよ。女性の江戸時代の家系図を見ると、誰々の娘とかね。「女」と書いて娘。名は書いていな

い。家中では呼び名はあったでしようけどね。おそらく町人もそうであつて、大阪弁で、娘さんのことをいとさん、一番末の娘さんはこいさんと言いますね。あれは名前が無い事の証拠なんですよ。

そういう社会でもあつたんですが、それを日本古来の家の称号であつて、それが美風であると。朝鮮のように夫と妻が別々の姓を称しているなどは我が国と一致しないから、だから一致させるんだと。そして天皇を中心とする國体の本義に徹せしめる主旨の下に氏制度を作つたとこう書いてますね。詳しい話をすると時間が経ちますので省略しますが、要するに、日本では家族制度がある。それは古来からあつたと言う。これはさつき言つたよう間に違ひです。

もう一つは天皇家族主義なんです。天皇が日本の代表、主権者であつてこれが言わばお父さんであると。その下に日本の国民は全て、國民というか当時は臣民でしたけどね、家族となつていくんだけ、それに朝鮮人を入れ込むんだ、台湾人を入れ込むんだ、そういうところからこうした創氏改名制度が作られたという事が現実のようですね。しかもこれが半ば強制でした。名前を改めないといろんな地域から村八分にされる。学校で子どもがいじめられる。先生が無理矢理つけさせるという事があつて中程の上に表が出ておりますけれども、約半年の登録期間の間に八〇ペーントが日本式の氏名を名乗るという事になつたわけです。どんな名前をつけていいかわからん時は相談所に來いという事で、上に創氏相談所という全州市の写真が出ておりますが、こういう事さえ行われました。下の一一番左の表は、昭和一八年、太平洋戦争が始まって日本の敗色が濃くなりだした頃ですが、昭和一九年度徴兵適齢者所在調査の件という事で名前が出てきております。そこに八名の名前がありますけども、元の朝鮮の姓の人は三番目の元さん、つまり、ウォンさんと、その次の人と二人だけですね。あとは日本式の姓名に変わっている。こうして日本帝国の軍隊に徴兵された人は星山一等兵であるとかあるいは本田六郎上等兵であるとかそういうふうになつて天皇の軍隊の一員として天皇に忠誠を尽くせとこういうふうに結びついていつたわけです。こういった徴用、徴兵の際に効果を持たせるためにも、そして軍隊としての一体感を植えつけるために創氏

改名の命令というものが一九四〇年に出されました。ちょうど日本国内でも国民精神総動員法というものができた準戦時体制に入つていったその時期であります。日本に渡つてきた人もほとんどが日本式の姓名を持つという事になりました。

四〇年以前に渡つてきた人はどうかと言うと、いろんな一世の方のお話を聞いていると、日本に着いた、どこへ連れて行かれるかわからんけれども、行かれた先が炭鉱であつたり造船所であつたりしたわけですが、そこで飯場の親方がお前は今日から金山にしとけ、お前は佐藤にしとけというふうに言つていつたそうです。それで給料の台帳もそれが記される。あるいは班の編成もそれで決めようというような事で職場でつけられたんだと。私自身でこうしようと選んだ事はない。そういう事を言つております。もう一人は、京都の在日の方ですが、藤原という氏を自分で決めた。ところがそれで叱られた。藤原というのは平安貴族の名前でしよう、道長みたいな貴族とお前が一緒というのにおかしい。やめろと言われたんです。ところがその人は切りかえしました。いや私はそんな日本の歴史は知りませんと。何故藤原としたかと言うと私の家庭に大きな藤の木がある。だから私は藤原としたんやと言つて、藤原で通したそうです。そんな人は珍しい例ですね。大抵は決められたり、あるいは相談所に行って適当につけられた。中には非常に反骨感があつて、私の代で先祖の名前が消えるのは耐えられんと言つて自殺を図つた人がいるんです。これは去年青年劇場によつてドラマ化されて上演されましたから、ご覧になつた方もあるかもしれません。あるいはやけくそで、犬養倉衛という名前をつけたという人もいるんです。ですから、この八割の創氏改名に応じた人々が心から満足していたという事ではなかつたようです。この創氏改名の前から日本に住んだ人、それから後に日本にきた人も日本式の名前ができるまで、一九四五年の解放同時に朝鮮半島に帰つた人はそんな名前は必要ありませんからすぐ捨てたでしようけども、日本に残る事になつた人々とその家族の人は既に日本式の名前がついてるわけですからそれをすぐには捨てるという事にはならなかつたという人が大多数のようです。それが今日の在日の方々の通名ですね。それに続いているというように考えて

いいかと思います。歴史上の話はそれぐらいに致しまして、これからお二人に家族の名前の事について、現代の問題としてどんな事を考えてこられたかという事のお話を聞かせて頂きましょう。最初に金光敏さんからお願ひします。



金 光敏氏

金 光敏・金光敏です、どうぞよろしくお願ひします。普段は先程紹介にあつたように、京都駅の南の、南区東九条の在日コリアンの非常に多く住む地域の希望の家カトリック保育園で保育士をしております。その地域で結婚して子どもも二人育てて今も住んでおります。保育士を二三年やつておりますのでいろいろ地域が変わる中で、いろんな事を考えながら今まできました。子どもの前ではいつも話してますし、明日も生活発表会があつて、七四の子山羊の劇をするんですけど、そういう時はのびのびできても、こうして皆さんに注目されでお話しするのは慣れておりませんので、まとまりのない話になるかもしません。一〇分ですね、自分の事を中心に、拙い経験の中ですので、学術的な事は話せませんけれども、皆さんの参考にして頂きたいなと思います。先程創氏改名の話が仲尾先生からありましたけど、私は金で、通名、いわゆる日本名は金山つていました。うちの金というのは朝鮮ではクアンサンキムつていて、光山金という親族のまとまりで、キメキン、金海金、金海さん、とかいうのがありますし、うちの金の場合は金山か光山という通名の人が非常に多くて、金海さんは金海さんが多かったりとか、金を残して自己主張した、一字でも残したいという気持ちがあつたとか聞きます。私の友人で桜井さんという人がいて、珍しいなと思ったら、日本に来た時に非常にお世話になつて、優しくしてくれた日本人の氏を頂いたとか。そういう話も聞いたことがあります。

私は小さい時は金山光美^{ヒロミ}という名前で過ごしていました。小学校までです。どこに住んでいましたかと言ふと、

これまた在日コリアンの多い地域で、大阪の生野区で生まれて、大学へ行くまでそこで暮らしていたんです。生野区は四人に一人ぐらい在日コリアンって言われるぐらい、非常に在日の多いコリアンタウンもありますし、いかにも匂いからしてコリアンを感じるような街なんですけど、だからと言ってそこに差別がないとかそこで堂々とコリアンを名乗つて生きられるという事もなかつたんですね。実際に私の経験から言うと小学校の頃から金山光美という通名を名乗つていましたし、友達にも隠していました、自分がコリアンである事は。すごく嫌でした。自分のマイナス面というか、性格も含めて人前であんまり話せなかつたし、そういう意味ではコンプレックスの一つとして自分の民族を捉えていましたし、その中で金山光美っていう名前があつたんですね。

私は一九六一年生まれなんですけど、その当時はいわゆる無権利状態で、国民健康保険も在日の人は入れなかつたような時代でした。一九六五年の韓日条約以降、法的地位協定の中で協定永住権、健康保険もその時に保障されるという事で、うちの家族も思想信条じやなくて日本で暮していく為に健康保険が欲しいなという生活上の理由で協定永住を取得したわけなんです。その頃私は小学生で、まだ金山光美だつたんですけど、中学校の時は生野の中学校ですので、四人に一人が在日の子なんです。私は七〇年代の前半が中学生だつたので、その頃の先生達にリベラルな方もいらつしやつて、私の中学は全員本名、在日コリアンの子は全員本名を名乗つて学校で勉強する。強制ではないんですけど、指導なんですけど、ほぼ全員名札は高とか金とか李とか。私は本当に嫌だつたんですよね、本名を使うのが。その時に登校拒否寸前になつたんですけど、母親の説得でとりあえず学校に行きましたところ、四人に一人が在日のですから名札に高やら李やら金やら、とあって、それで私は自分で感性が変わつていくんですね。長く話せないんですけど、感性が変わるっていう事は簡単な例で言つたら、私は家に友達を呼んだ事が無かつたんですね。それは、家に朝鮮人形があつたから。その朝鮮人形を友達が見たら私が朝鮮人やつていう事がわかつてしまうから、人を呼んだ事が無かつたんですね。ところがだんだん自分の本名を、この時は金光敏キムグァンミンじゃなくて金光敏キンゴウミンっていう日本語読みで名乗つてたんですけど、他の子も玉姫タマモチとか

日本語読みやったんですけども、初めて自分が金という名前で名札をつけて生きたんが中学校の時やったんですね。その中でいろいろ在日の友達と触れ合う中でだんだんと自分に自信がついてきて、なにも恥ずかしくないや、仲間がこんなにいるし、私は私でいいんやって思えるようになつたんがこの時期だつたんですね。そういうするといつの間にか友達も家に呼んでいたし、あんなに嫌だつた朝鮮人形とかチマチョゴリ。結婚式になると在日の人は皆チマチョゴリを着てお祝いして踊つたりすごく賑やかなんです。家からチマチョゴリをうちの母親とかが着ていくもんですから、それが嫌で嫌でたまらなかつたんですけど、そういう事もだんだんきれいな色やなつて思えるようになつて。名前つて簡単に名前だけじやなくて、その名前を名乗る事で、心というか、感覚とか感性とかそれも同時に変わつていく。そこで初めて金という名前が自分の本当の名前として胸を張つて生きていける。そういう経験を自分自身がしてたんですね。小学校の時に自分が自分で生きていけないというか、自信を持つてなかつた、友達にも心を開いてなかつた、先生達にも心を開いてなかつた、それでもいい子ちゃんでずっとおれた。自分の子どもにはそういう思いをさせたくなかつたから、できたら最初から自分はコリアンなんだというところをしっかりと誇りを持つて育てたいなというのが私の原点なんですね。

東九条では在日の子が多いですし、私の保育園もすぐ近く在日の子が多い。本名で通つている子と通名で通つてゐる子といろいろ親の方針で違うんですけど、ただやつぱり、本名でフェシリ、とか名前が普通に飛び交つてゐるんですよね。ウヒとかチョリヨンとかそういう名前が違和感無くハングルの音で。チミンが来たよとか、子ども達は何にも意識せずにハングルの読み方の名前を、私の名前は特にキム・クアンミンっていう発音しにくい名前で。私は日本の学校にずっと大学まで通つてゐるんですが、母国語が話せないんですね。日本の方と同じなんですね。だからこの発音が非常に難しくて、自分の名前を自分でも、キム・クアンミンときちんと言えなくて、それでも一生懸命言つんですけど。本名を使うといろいろハーレーションもあって、自己紹介した時に、日本語がお上手ですねつてねつて大概言わはるんですね。日本で定着してないハングルの表記の名前で、日本語がお上手ですねつて

言われるとそこで一つずつ説明して、ここで生まれたんですよって。祖父母が韓国でっていう植民地時代の話から、名前を言う事です」く沢山エピソードがついてくるので、名前一つはすごく奥深いものがあるなというのをずっと感じてきています。

自分の子どもの話をしないといけないんですけど、夫は日本人なんですね。民族的にも国籍的にも日本人。彼と知り合って一緒に暮らしているんですけど、私達が国際結婚という形で婚姻関係を結び、上の子が生まれたのが一九八九年。日本は国際結婚の上では両系主義をとっていたので、父母どちらかの国籍が選択できたんですけども、その当時韓国が父系血統主義だったので、父親の国籍しか選べなかつたんですね。そうなると私達が婚姻関係を結ぶと日本がかつてアメリカとそうであつた逆で、日本の方では選べても、韓国は父親の国籍しか認めていなかつたから、必然的に日本国籍。韓国籍っていう事は韓国には認めもらえなかつたんですね。韓国もその後一九〇〇年代に両系主義になっていますから、今は大丈夫だと思うんです。私は名前にこだわったのと、国籍は選択するものだという事にこだわったので、一方的に婚姻関係を結ぶ事で日本国籍になるというのは納得いかなかつたんですよ。ですから子どもが選ぶ為にはどういう方法があるかと言うと、準正認知という形、婚姻関係があつて、父親がその子どもを認知するという事で初めて父親の国籍が選択できる。それも、後で話しますけど法律が変わるんすけれども。その当時は準正認知という事しか私の子どもが国籍選択できないんですね。つまり婚姻関係を結ばないことで婚外子として韓国籍を持たせて、子どもが日本国籍を選択した時に準正認知の方法をとるつもりでした。韓国籍にするか日本国籍にするかという事は私にとっては子どもに選択して欲しかつたんで、敢えて子どもが二十歳になるまで、つい最近まで婚姻関係を結ばなかつた。法的に結ばなかつた。ずっと事実婚できたんですね。二〇〇八年の四月に娘が大学が決まった時に、二つ違ひの息子もいるんですけど、二人に国籍をどうしたいかっていう事を選択させたんです。もう一人、自分達で意見が言える歳なので。一人とも同じ意見だつたんです。自分達はコリアンとして全然恥ずかしくも思つていい、誇りに思つていい、そして育

てられたけれども、こうして日本に住む限りは日本国籍で生活したいという子どもの判断だった。それは子ども達がそう決めたので、その意見を聞いて初めて婚姻届を出しに行つた。それが二〇〇八年。ところが、そのちょうど二〇〇八年の六月に画期的な最高裁の判決が出たんです。婚姻の有無により、子の国籍取得の扱いに差異を設けた現行の国籍法は憲法の平等規定に反するということで違憲判決が出たんですね。それで結局その後速く法改正がありまして、今は準正認知じやなくとも、婚姻関係を結ばなくても、父親の認知だけで日本国籍が取得できるようになります。ですから、私達別に婚姻届出さなくとも良かったんだって思つたりもしたんですけど、私達がずっと二〇年間考えてきた事だったんで貰きました。それともう一つ、名前なんんですけど、ダブルネームで、夫が村上といふんですけど、私は金なんで、子ども達は村上金という苗字をずっと名乗つていました。ところがこの村上金という名前は私達がつけたんですけど、外国人登録証にきちんと通称名として印字されたんですね。通名は創氏改名という歴史の中で負のものではあるんすけども、逆手にとつて、それやつたら勝手に名前つけたれと思つて。うちの子らは国籍選択するまで韓国人ですから、外国人登録証を持っていたんですね。外国人登録というのは、一六歳の時に本人が切り替えに行かないといけないのでその時に本人に学生証を持つて行かして、いろんな葉書を持つて行かせて、僕は村上金として生活しているので、この名前を正式な名前として認めてくれと。私は逆に通名あつたんですけど削除したんですね、外国人登録証から。それもできるんですね。今度は子ども達は通名がなかつたんですけど、通名ができましたからつて言つて、村上金つていう通名をそこに載せたんです。そういう外国人登録証をついこないだまで持つっていました。子ども達はずっと村上金つていうダブルネームで過ごして、やっぱりなんでそんな名前なん、つていうのは当然聞かれるわけでして、その度にお父さんが日本人でお母さんが韓国人だから、つていう説明を友達やら先生にしていました。子ども達がどう思つているのか、今後どうするのかっていうのはまだわからないんですけど、自分達で決めたっていう事は自覚しています。村上金という苗字は日本国籍を取得した時点で消滅しました。村上になりました、金がなくなつて。

ただ、今学生証とかは村上金なんですけど、本人達の意識で氏変更、家裁でする方法もあるとは思うんですけど、今は本名は日本名です。村上で。私は金山光美から金光敏てるみになつて金光敏クロアンになる歴史を持つていて、子ども達は最初金未優タマミだつたんですけど途中から村上金未優になつて今は村上未優なんです。一人の人生の中でも名前が変わっていく。でもそれは表面的な事じやなくて、その奥にいろんな歴史とか本人達の思いとか親の思いとかこの日本社会が、在日コリアンに対して複雑な状況を作っていくという、いろんな事が重層的に重なつていてるなと思います。とりあえず時間がないので一度私の話は終わります。また何か質問があつたらしてください。

仲尾 宏：ありがとうございます。今のお話の中では国籍の問題と名前の問題、それが非常に絡み合つているという事がある程度おわかり頂けたかと思います。また詳しい事はご質問頂けたらいいんですが、両系主義とおつしやつたのは国籍の問題ですね。それまでは日本もかつての韓国も父系血統主義、お父さんの国籍に子どもは従うという事になつていたんです。ところがそれはやはり男女均等待遇の趣旨から言つてもおかしい。両系主義、父または母どちらかひとつのみの国籍を持つていればいいと。ふたつの国籍だつたらそのどちらでもいいというようになつた、これが両系主義です。準正といふのはどういふのはわかりやすく言うと非嫡出子ですよね。そういう扱いにいつたんないと、駄目だという事だつたんです。そういう矛盾も少しづつ解消されてきたという事になるんでしょうが。



孫 片田 晶：ありがとうございます。私は今京都大学で大学院生をしていまして、博士課程なんですけど、晶さんお願い致します。

孫 片田 晶：ありがとうございます。私は今京都大学で大学院生をしていまして、博士課程なんですけど、

普通の若者というか、このような場所で皆さんに聞いて頂くような話はそんなになくて、なんの苦労もしない若者というか、普通よりちょっとぶらぶらしてるかなという感じなんですけど。私はダブルという事でたまたま今日はお話をさせてもらいます。私の名前なんですけど、孫片田晶と載せてもらっていると思います。私の元々の本名はですね、戸籍上の本名は片田晶という名前で、それがいわゆる「普通の」名前なんです。民族名は、大学になって、出会いつて使うようになって、それがソン・チヨンという名前なんですね。孫と晶という字と。これはアキと読むように付けられた名前で、誰もチヨンという読み方を狙つて付けてたんじゃないんですけど、それはチヨンという読み方だよという事を知つて、名乗る事になって、ソン・チヨンという名前とも出会いました。今両方くつづけて孫片田晶とか、ソン・カタダ・チヨンという風に名乗っています。

私は日本国籍のダブルという感じなんですけど、父は普通の日本人で、母親が在日の二世です。母親が自分の話をよく家の中してくれたので、私は自分が在日朝鮮人の母の子どもだという事はよく知つて育つていきました。でも自分の意識としては大学に来るまでは、結構長い間何人でもないという意識だったんですね。何人という事がそもそも自分にそぐわないなというような。今はいろんな経緯があつて人の前に在日として現れる事が多いですけど。

母親がよく自分の話をしてくれまして、母親は一世で戦後すぐ生まれまして、岡山の農村で育つててるんだけれども、大阪の街でも独特の差別があると思うんですけど、閉鎖的な農村に朝鮮人が一軒いるというのはすごく厳しい境遇なんですよ。そういう事をよく話してくれて、多分話上手でですね、母親が。具体的に何があつたのかという事と、その時自分がどう思つたかとか、後で振り返つて振り返り方が変わつたとか、そういう話をよくしてくれます。厳しい話が多いので、私は全然育つた境遇が違うので多分今もあんまりわかつていらないかもしれないですが、ただ聞いてて涙が出たりとか、いいなと思つて胸が温かくなつたりとかそういう感情と一緒に育つてきました。子どもの頃からよく理解していくわけではなくて、母親によると、母親が自分の話をし

て、その母親に育てられてるにも関わらずそういう話を聞きたがらなかつたとか、煙たがつたとかですね。高校の時とか母から「パツパラパー」と言われてたんですけども、全然何も考えてなくてですね、社会の事とか。だから全然理解はしてないというか、今も。ですけどそういう話があつてそこで育つてきました。

私が今使つている名前の話から自分の事を話せたらなと思うんですけど、「軽薄に」というか、いろんな所でいろんな名前を使つてまして。孫が母親の姓で、説明するのを忘れてたんですけど、母親が十代で帰化をしています。だからこの孫という名前はどこにも存在しない名前なんですけど、母が幼少時から、若い時使つていた名前なんですね。母親が末っ子なんで、孫末子つて、末っ子つて書いて孫末子という名前ですつとやつてまして、その名前を私も使つてているという事です。孫という名前を今名乗る時が多いんですけど、それは在日だという事を示したい時に便利なんで、できるだけ伝えたいという思いがあつて使つてています。いろんな場で言わないと、ここにいるとわかつてもらえないんで、ここに在日がいるよという事を示したいという思いがあつて使つています。あと、現金なんですけど、在日だという事がわかつていたら向こうから声をかけてくれる事があるので、自分もだよ、とか。そういうのが嬉しくて私はこの名前を名乗つてます。できるだけ使いたいと思つて名乗つてるんですけど、ただ制度的な名前じやないので、なんの証明もないというか、世間的には孫というのは「偽名」なんですよね。それで孫片田とくつつけておけば一番問題がないというか、両方わかつてくれるので、そういう感じで折衷的に孫片田という風に名乗つています。私がもし企業で働いてたりしたら孫片田つてなんやねんという事で問題になるとと思うんですけど、今大学院で文章を書いたりする時の名前つて結構自由にできるんですよ。だからこそこれでいいと思えてるんですけど。片田つていう名前だけを使う時ももちろんあつて、それは例えば、最近書いた覚えがあるのは、自転車に乗つてマナーが悪いみたいでよく警察に止められるんですけど。別にも悪い事はしてなくて、最近警察の人が沢山いて止めてくるんですよ。そういう時名前を書いてくれつて言わると片田晶つて書くんですね。それは素通りしたい時にそういう名前を使うというか。在日として主張した

い時はもちろん警察に言われて名前を書いたとしても孫片田と書くと思うんですけど、在日として見られなくてもいいな、さつと行きたいなという時は片田晶という名前を使っていますね。後は、孫片田とか片田孫ってやる時もあるんですけどやっぱり認められにくいので、一度拾い物をして交番に届けて片田孫って書いた事があるんですけど、じやあ片田でいいじゃないかってされてしまったりとか、カードを作る時とかでも、説明して片田孫とか孫片田ってやつてやつてそういう事を言つても、そういうのつて通りにくいんで、まあ当然なんんですけど。結局片田になつてしまふ事が多くてですね、片田っていうのもよく使っています。

私がダブルだからかもしれないし、ダブルじやなくとも在日全体が私達の世代ではそうじやないかなと私は思うんですけど、「名前がひとつでなければ」とか、「正しい民族的な名前でなければ」という考え方自体があんまり自分に馴染まなくて。在日の中でも主流というか認められやすい名前とそじやない名前があるし、そういうじゃない人、名乗りにくい位置にいる人の事を忘れてしまつて「こういう名前でなければならない」つていうように考える事が良くないんじやないかと思つてて、そういう考え方もあって自分はいろんな名前をいろんな所で名乗つてゐるっていう状態です。

私が民族名と出会つた経緯をお話しさせてもらひうど、そもそも下の名前から出会つていて、チョンという名前を呼ばれる事になつて、チョンという名前が自分の名前だなという思いから私は民族名と出会つてゐるんですけど、大学に入つて二回生ぐらいの時だつたと思うんですけど、東九条マダンという所に行つてまして、偶然知り合つた人が韓学同という在日の学生団体をやつてゐる人で、その人に誘つてもらひて。韓学同というのは在日韓国学生同盟といふ、どんな組織や（笑）つていう名前なんんですけど、それがですね、いろんな歴史があつて、いわゆる民団とか総聯とかあつてその下にも学生団体はあるんですけどそういうのではなくて、学生だけで、自分達で舵をとつて自分達に必要な事をやつていこうという組織なんですけど、私がそこに入つてみて、というか入るつもりもなく行つてみた時に、初めて「」では民族名を名乗ろうという事になつてて、チョンという名前に

なるんだけどいい？」って言われてその時初めてこの名前はチヨンって読むんだという事を知ったし、そういう事があるという事を知つて。卒業した団体なんで、今のは私がしやべるべきではないんですけど、すごくいい活動をしてたと思つてまして、いい活動をしているなどその時も思つたんですよ。でもその時は、自分というの「在日」なんかどうかっていうのはあんまりわかつてなかつたんですけど。私がチヨンという風に初めて呼ばれた時にあつたなと思うのは、そういう名前は嫌だなというか、抵抗感が結構あつて。多分自分の中にも朝鮮というものへの偏見があつて、悪いイメージを持つてたんだと思うんですね。それが自分にくつづいてくるのが、おつ、と思つたのも覚えてます。

チヨンっていうのは本当はさつき光敏さんも言つてましたけど、ちゃんと発音すると片仮名でチヨンって書くのとは違う音なんですけど、普通に私達もチヨンって言う時は片仮名で、平仮名でも、「ん」ですね。そしたら、バカチヨンカメラとか言う時のチヨンと一緒になんで、余計この名前変やなと思つて、どうかなと思つたんですけど、そういう思いはすぐ消えていきました。沢山の在日の子と出会つて話していく内に。でもずっと残つていた思いというのが、民族名を名乗るべきなのかどうかという事についての反発は長い事残つてました。そこにこだわりを持つてやってきたんですけど。在日が集まつている団体に行つて、私の母親が帰化をしている事であるとか私自身が日本国籍であるつていう事は、向こうからしたら理解しづらい事であつたりとか。皆悪気はないんですけど、いけない事というか、可哀そうな事のように語られてしまうところがあります。在日社会でも日本社会でもそうだと思いますけど。私はそれに対するすごい反発があつたので、私がなぜチヨンと名乗らなくてはいけないのかと、もつと皆に自分の母親の事とかわかつてほしいというか、「在日」つていう事の意味を私の母親のような人も入れてつくつしていくべきじやないのかつていう思いがすごくあつたんで、結構反発もありました。ただその時、これは偶然なんですけど私のように同じように日本国籍でダブルの先輩が一人いて、その先輩がその人自身の考え方で下の名前は日本名を、その組織の中で民族名として名乗つてたんです。僕はどうしても

この名前を使いたいからそれで呼んでくれっていう考えの人がいて、その先輩を見て、この人がこれをやつてくれるんだつたら自分は別の方に行つてもいいなと思って、チョンという名前でいいなと思って活動をずっとしていました。活動と言つても皆でいつもいつも集まって勉強会したり遊んだりとか、京都の東九条とかウタロトとかに行つていろいろ勉強させてもらうのがメインの活動だったんですけど、たくさん話し合つて在日つていうものを創つていこうつて考えていました。その中で私も自分の名前もつくつていこうと思つて、このチョンという名前を大事に思うようになつて、それで孫晶つていう民族名が自分の中に出できました。チョンつていう名前はそんなに韓国の感覺、韓国つて言つてしましましたけど朝鮮半島の感覺からしても変じやない名前らしいんですけど、在日の中ではそんなに美しい名前ではないんですよ。日本語でもちよつと変だと思うし。そういう自分の名前が今では美しい民族名じやなくて良かつたという思いもあって、いわゆる韓国的なあるいは朝鮮的な綺麗な発音の名前ではなくて、自分自身がつくつた名前だつて言える名前、在日らしいというか、美しくない名前かもしれないけど、それが逆に好きだなと思えるようになつて、その名前と出会いました。

こういういろんな在日の同世代の人との出会いとか、同世代の人と出会うとその人の親の話も聞くので、私の母親の世代への見方も広がつていつたと思います。沢山の在日と出会う中で思うようになつたのは、在日つていうのは血でも国籍でもなくして、家族の歴史が自分を在日にしてるんだなというふうに考えるようになつて、そういう考え方をすぐ応援してもらつて。在日つて言つた時に血とか国籍つていうのが前に出てくる事が多いと思うんですけど、自分としてはそうじやなくて、そこに家族の歴史があるから自分は在日だと思うし、立場というか感性みたいなものかもしれないんですけど、必ずしも国籍ではないし血ではないなというふうに考えるようになりました。今でも多いのは、在日の人をひとりひとりと数えたりする時に、大抵は国籍で数えますよね。日本国籍の人は外しておいて、外国籍の、韓国籍、朝鮮籍の在日を数えると思うし、もつと言つたら民族的な度合いといふか、「本名」を名乗つてるかとか、そういうので在日を定義している時が多いんですけど、在日の数え方と

いうか、それでいくと「どんどん在日が減っているよね」、とか「もういなくなるよね」みたいな言い方が成り立つてしまうと思うんですけど、そういう見方には感情的に抵抗してしまうところがあつて、やつぱり私の母親のような人、帰化を選んだ人という事かもしれないし、あまり「民族的」でない人という事かもしれないんですけど、が、私にとっては在日なので、在日という事は国籍や血ではないなと自分は思っています。今ではそういう、どうしても在日を国籍で、もちろん便宜的にそうするんだとは思うんですけど、そういうのに出会つても、結構反発してしまう時もあるんですけど、割とさらっと、ちょっとセンス悪いなあと思つて、その人はそういう考え方だし自分はこういう考え方だつていう感覚でいるようになりました。

ここにダブルという事で呼んでもらつたんですけど、私はダブルっていう名乗り方はそんなに慣れてなくてですね、ダブルという言い方がいいのかどうかもはつきりは言えないと文化が二個あって、二倍という感じなんんですけど、自分の感覚では文化が二個あるという感じではなくて、なのでダブルという言葉を名乗り方としてあまり使つていません。その前に、今日「国際結婚」というタイトルが出てまして、「国際結婚」と言われたらまたぎよつとしてしまつ所があつて、もちろんこれは私の母親が日本国籍だからで、そもそも国際じやないじやないかというのもあるかも知れないですが、でも国際つて言うと、ぱきっと離れたふたつのものがあるという感じですけども、在日と日本人の溝であつたりとかつながりつていうのはそんなに小綺麗なものじやないし、もっと深いものじやないかと思うので、国際つて言うと、えつていう感じなんですけど。まあその「国際結婚」、あるいは在日と日本人の親を持つて生まれて、私は在日として人の前に現れていこうとする事が多いんですけど、はつきりしているのは、これはダブルの全体を代弁する事は絶対できなくて、私だけなんんですけど、私は自分の事を日本人とは思つてないなつていうのがあります。なぜ日本人ではないのかつて考えた時に、「日本人」と言えば「在日ではない」という意味がついてるというか、純粹なものというか一体的なものをイメージして言われているような感じがするので、それには抵抗していきたい自分がいるので、

日本人ではないと思うんですね。自分に日本人としての部分があるというような考え方があんまりした事がなくて、普通ダブルと言うと日本人としての部分があるんじゃないかなって言えると思うんですけど、私にある日本人としての部分っていうのは日本語を普通にしゃべってたりとか、この社会を普通によく知つてて、渡つていけるとか、この社会を構成しているとかいう意味、そしたら在日の多くの人、一世はちょっと違うかもしねないけど、いやある程度一世もそうだと思うんですけど、在日全体に言える事だと思うんで、必ずしもダブルだからというふうには自分は考えてないです。じゃあ何が在日なのかと言われたら困るというか、国籍でも血でもないと私が考えているなら、じゃあなんのと言われた時に、そんなにすつとは言えないんですけども、こういう話をする機会を頂いて私が思ったのは、在日という事を聞くと思いが動くというか、勝手に思い入れてしまいます。そういう意味で私は在日だなと思うんですけど、独りよがりかもしれないけれど、在日という事にすごく思いい入れを持っているという事なんです。例えばなんんですけど私が電車に乗つていて私が座ついたら年配の女性が乗つてこられて、年配と言つてもすぐ席を譲ろうという程の年配の方じゃなかつたんですけど、おばさんが前に立たれて、そしたら朝鮮人参の飴の匂いがおばちゃんからしてきて、この人在日かもしけんと思つたら、親近感を感じるんですね、勝手に。話しかけたくなるというか。話しかけたりはできないんですけど。どういう苦労をしてきはつたんかなとか、どういう生き方をしてはるんだろうとか思つてしまつというか。そういう気持ち自分が在日だという気持ちの中身なのかなと今思つています。これは独りよがりなところもあって、別な時に、またまたチャンゴっていう朝鮮の太鼓を抱えて乗つてたんですよ。席が空いて座つてて、新快速で。そしたらおばあちゃんが私の事を見てくるなと思って、偏見なんんですけど、風貌を見てウトロの一世の人と少し似てた事もあって、この人絶対在日だなとまた思い込んで、私がチャンゴを持つてるからおばあちゃんは私の事見てるんだなと思つたんですけど、ちょっと経つてみたら、あれはもしかして席を譲つて欲しいっていう事だつたんじやないかなと思つて恥ずかしくなりまして。ちょっと距離が遠かつたし他の人もいたんで譲るうと思いつかなかつ

たのもあつたんですけど、もしかしたらそんな事も気づかないで在日かもしれないとか思つてた自分つていうのもあつて。思いがすぐ共感を生むとかじやなくてただ私の中にある思いというだけなんですが、そういう事が在日じやないかなと思つています。

最後にもう一度名前の事に戻つて言いますと、私の中でいろんな在日社会との出会いを経て思う事なんですけど、名前というと、本名という言い方は今使わないですけども、どこかに正しいような状態があつて、例えば一番理想的な状態というのが、祖国、朝鮮半島の人がなにかいい状態であつて、その次に在日の中でも本名を名乗つてはいるとか、民族的なものがわかりやすい人がいて、その下に日本国籍で、在日として民族的に可哀そな事になつてはいるというか、歪んだ事になつてはいる人がいるというような見方がそれは日本社会の見方でもあるんじやないかなと思つて。在日のそういう感覚つていうのは日本社会の感覚を移したものじやないかなと思うんですけど。上下があつてつていうようなのは全然私には馴染まないし、いいと思わんんですけど。上下があるといふのは仕方がない事かもしれないけれども、そういう捉え方をしてしまつたら在日にとつての民族の意味といふか、在日である事の意味がうまくのせられないんじやないか、そういう見方をする事自体が在日である事の大変さつていうのを捉えきれないんじやないかと自分は感じていて、そういう事もあつて私はこれが本当の名前でじやあもう終わりという風には絶対思えないだらうなと思ってます。在日であるということを言いたいから、ある名前を使うし、でもどうしても法的に改名して名前を孫ひとつに定めるべきだと今は思つていないです。働く時の名前をどうしても決めないといけないってなつた時にまた考へるかもしれないけど、今はどつちつかずの状態というか変な名前を名乗つていて、必ずしもそれがいけないとは思つていらないという状態です。まとまりがない話でしたけども、ありがとうございました。

仲尾 宏：ありがとうございました。お話を聞いてみると、僕自分の歴史から名前を見直して日本と世界、朝

鮮半島と日本を見つめようという事がよくわかりました。法律でも国籍でもない名前という表現を最初の方になさいましたけども、それが今の生活の中でうまく自分を見つめていくひとつの中になつてたんじやないかとそんな事も思いました。

それでは休憩に入りますので皆さん方からのご質問をお持ちしております。

司会：では一部終了いたします。ただいま六分くらいですので、第二部は二〇分から開始致します。お手元に質問用紙がございますので、是非それにお書き頂きましてボックスの方にお願いします。それとひとつ訂正がござります、慌ててしまいまして国際結婚の国際が間違つてしまってすいません。今日の日付をお書き頂きまして簡単なアンケートがふたつあります。ご質問のない方ももしよろしければ今後の参考にさして頂きたいと思いまのでそれを丸印をつけて頂きまして箱の方にお入れください。よろしくお願いします。

司会：すみませんお待たせいたしました。「感想」質問本当に沢山頂戴できましたもので、長時間になつてしましました。早速始めたいと思います。よろしくお願ひします。

仲尾 宏：それでは第二部に入ります。非常に沢山の「質問」「感想」を頂きました。全部読ませて頂きます。「質問についてはお一人から適宜答えて頂く事に致します。

まず、「お一人に似たような」質問がありましたので、重ねてひとつにして答えて頂こうと思います。最初の方は、「在日の人達は本国で全く同じ感覚で付き合いでできるのですが」もう一人の方は「お一人にとって祖国、母國とは」こういう「質問です。これは同じような趣旨だと思いますので、お一人にこの方の「質問に対する感

想をお聞かせください。まず金さんから。

金 光敏：はい。簡単には答えられないんですけれども、アイデンティティの問題っていうのは若い頃に深く悩みましたので、特に私の世代、私は三世なんですけれども、祖国、本国とのつながりをどういう立場でつながっていくのかというは課題でした。私の場合は一九八〇年に学生をしておりましたので、当時韓国で光州の闘いがあって、韓国は軍事独裁政権でしたので、民衆が独裁政権に抑圧され、それでも闘つていく人々と連帯しようと思って、それが私にとって韓国とのつながりでした。友人とかはいますけれども、それは韓国から来ている留学生の友達で在日の事も深く理解してくれる友人です。ただ私は旅行に三度ソウルに行つたぐらいなので、向こうの感覚つて言つたらまだそんなにわからないんですけど、最初に行つた時は鶴橋と一緒になど思いました。

孫 片田 晶：私は祖国、母国というようなものは一言で言うとしたら、ないと思つています。朝鮮半島に対する思い入れつていうのは複雑ないろんな感情がありまして、そういう意味ではつながりはあるんですけど、祖国とか母国とか思つた事はないです。日本の事もあんまり思つてないんですけど。在日が韓国語をできない事を韓国人なら、あるいは朝鮮語ができる事を共和国の人なら複雑な目線で見たりするんですけど、私の友達が韓国人に、在日としやべりたいなら日本語を習え、つて韓国語で言いたいが為に韓国語を勉強するつていう友達がいたんですけど。私は努力をしてなくてですね、全くできない状態です。ちょっとはできますけど。しゃべれないんですけど、別にそれで悪いとは思つてないです。

仲尾 宏：私は在日の学生を連れて韓国へ研修旅行に何度か行つた事がありますが、あなたの故郷はどうや、あ、そこはバスで通るからよく見ておけよと言つたんですね。これは全然無反応でした。自分達には祖国、母国

と言わてもびんと来ない。お祖父さん、お祖母さんの出身地である、そういう事はわかるし、それなりの気持ちはあるけれどもそれだけだ、といふ言ひ方をしていましたね。そういう点で在日の世代が三、四世となると母國、祖国という事は大変思いにくいという気が致します。

次へ行きます、次は「感想です。「在日という事を忘れないとか、日本に住んでいて流されて生きていこうとか私なら思つてしまいそうなのに、お二人方は偉いと思いました。こんな事を考えなくてよい世の中になつて欲しいと思いました。」」こういう「感想です。

次、今度は私の名前が出ております。「テレビのニュースで犯罪の報道は外国人の国籍が必ず伝えられていますが、よいニュースの報道、東京新大久保駅のホームでの救出劇等は必ずしも国籍が報道されていません。マスコミ業界、あるいは社会の中で無意識に外国人に対する差別意識があるのでしようか。」これは私はやはりあると思います。新大久保駅の事はちゃんと韓国からの留学生だと書いてありましたね。これはむしろ例外かもしれません。このあいだ気になつていたのは、島根県の全然手がかりがない女子学生殺しの時にですね、彼女が一生懸命英語を勉強して外国へ行こうと思つていると。その事があつた次の報道がひょっとして相手は外国人かもしれませんと、そういう事を見出しで書いておりましたね。こういう事はあくまで予断と偏見に基づく報道だと思うんです。という事はやはり外国人、外国籍者の犯罪が日本社会を脅かしていると思ってる人がマスコミの中にもいる事は確かでしうね。ところが私も気になつて警察庁と法務省の合同で出した統計が出てるんです。毎年出てるんですが、まとめて何年かとに記事になる事があります。外国籍者、登録した人だけですけれども、今の日本では二〇〇万を超えた時代になっています。けれども、それに応じて外国人の犯罪発生もありますけれども、外国人登録人口の増加に比べると、発生件数はむしろ少ないです。凶悪犯についても同じなんですね。だから外国人が増えたから犯罪が増えるという事は少なくとも法務省あるいは警察庁の公式発表ですら事実ではないという事が証明されてるんですね。そうするとこれはやはりマスコミの責任はとても大きいんじゃないかなと

思いました。

次、「地方参政権の問題が政界で挙がっていますが、どうお考えですか。在日の多い中学校で民族名を名乗るようになり、仲間が沢山いたので抵抗がなくなつたとおっしゃつておられましたが、逆にそのような環境でなければ現状はどうなつていったと思われますか。」これは金さんですね、「血でも国籍でもないのが在日とおつしやつておられましたが、五世、六世、一〇〇年後一五〇年後の在日とはどういうものになるのでしょうか。」大変難問です。まず最初の地方参政権についての感想、あくまで個人の意見という事で結構ですのでお二人一言ずつお願ひします。

金 光敏：これは自分の意見ですが、まず憲法解釈 자체が全ての人々と書かれた時に、日本の場合は国民という事で日本国籍を持つている人という解釈がされていますけど英語訳はall Japanese peopleではなくて、all of peopleになっているわけです。全ての人々という事の国民という枠の中でしか考えられないというところに私たち在日が生きていく中で権利を言い切れないなという部分があります。私は特別永住者で、日本国籍を持つていませんので、今回入管法も変わりましたけども、政治的な活動は禁止されています。一応条文上は、それは暴力行為とか破壊行為とかいう範囲ですけれども、入管法に関してはいろんな細かい区切りがありまして、基本的に政治的な権利がないという事があります。地方参政権に関しては韓国は認めています。そういう事もありますし、まして在日の永住者の歴史を考える上で同じ地域に住む人達の義務と権利っていう事が対等であつてもいいんじゃないかっていうのが私の意見です。

孫 片田 晶：地方参政権という事なんんですけど、個人的には国政参政権も在日は持つべきじゃないかなと言ふくらいの勢いで思っています。もちろんいる人にはいるでいいんですけど。今地方参政権の問題が議論

されているというのが遅すぎるなあと思つています。在日というのは日本の政治に翻弄された存在だと思うので、あと朝鮮半島に対する日本の政治にも翻弄されてきたので、ずっと必要だったんじやないかと思つています。

仲尾 宏：お二人の言られた事を少しだけ補足しますと、まず憲法の事ですけど、特に金さんがおっしゃったように国民はイコール日本国籍者と解釈するのには無理があります。というのは第三章の基本的人権ですね、国民の権利と義務、それについては全ての日本国民は基本的人権を保障されるという主旨でしよう。国民という言葉がいっぱい出てきます。そこから外国籍者を外したら法体系が成り立たないんですよ。在日の方であろうとアメリカ籍の方であろうとケニア籍の方であろうと日本に居住している限りはその基本的人権は保障されるわけでしょう。そうすると英文のpeopleという事を率直に理解して考えれば国民イコール日本国籍者と限定するには無理があるという事が言われております。

もうひとつは地方参政権ですが、地方自治法の場合は国民という言葉は一切使われておりません。住民、その地方自治体の管轄する所に居住する住民という言葉ですね。ですから国籍条項はないんです。ですから地方参政権については基本的に地方自治法も認める方法は簡単なんじやないか。ただ一箇所、参政権については、日本国民たる要件を要すると書いてあるんですね。ですからその条項だけ修正すれば、地方参政権は法体系を全体を変える事なく実現できる、といいう事になります。

それからもうひとつの一〇〇年、一五〇年後ですね、これは前の方の質問も併せてお願ひします。

金 光敏：自分のヒストリーはすこくおおざっぱに話したのであんまり伝わってなかつたかもしませんけど、私の中学で熱心に在日の事を考えてくれる先生がひとりずつと交換日記をしたりとか、私が二行書いたら四行、一〇行書いたら二〇行書くような熱意の溢れる先生がいて、いろんな本を貸して頂いたりとか、そういう中

学だったんですね。だから逆に日本の生徒がマイノリティになっちゃって、四分の三の生徒が。ある生徒が手を挙げてその熱心な教師に、先生は朝鮮人ばかり最屨してると。しんどいのは朝鮮人ばかり違う。日本人の私だつてしんどい事はいっぱいあるんや、ちゃんと考えてくれつて。そういう学校やつたんですよ。非常に特殊だと思うんです。だから私は自分の経験はいろんな在日の中のひとつで、特別な経験を中学でしたと思います。経験上大学までずっと朝鮮人が嫌やつていうのを持つていてる同級生の子多かったです。その中で自分達で語り合つたりとか歴史を紐解いたりとか問題意識を高めあって、そこで自分達が、私も含めて変わつていった経緯があります。だからその中学校では私の感覚、感性が変わつたと思っていますし、大学に入つて学習する事によつてもう少し冷静に自分の立場を考える事ができましたと捉えています。

孫 片田 晶…血でも国籍でもないのが在日、という事だったら一〇〇年後どうなるのかという事をお話ししさせてもらいます。初めに私が話も下手だし、血とか国籍というものを軽視しているかのように話してしまつたかもしれないんですけど、そういう思いではなくて特に国籍という事については私の親しい友人でもすごく思いを持つて、意味を持つていてるというのも知つています。国籍や血が在日にとつて重要ではないと言つているわけではないです。ただ私は在日の事をニューカマーの韓国人とは少し違う存在だと思つていて、親が在日同士である事の意味とか、あるいは国籍の意味つていうのがニューカマーの韓国人の場合とは違うという事は、在日にとつて国籍の意味であつても血の意味であつてもそこに記憶というか歴史があつて、立場があると思つてるんですね。そういうものが在日ではないかと思つていて、もし一五〇年とか経つて在日が今のような形で残つていたら、それはおかしな事だなと思うんですよ。私の場合は母親とか祖父母がいるので例えば血とか国籍の意味もそこにある、私が在日である事の意味もそこにある、でももし私の子どもの子どもの子どもぐらいまでいって同じような意味がまだ残つてたら、それは日本社会と在日の関係が全然変わらなかつたという事になつてしまふと思

うんで、どうなるかとかはわからないんですけど、今はまだ三世、四世にとつては重要性を持つていて、その先は違うものがその人にとって重要なかもしれないと思っています。

仲尾 宏・豊臣秀吉の時代に数万人の朝鮮半島の人がいわば強制連行されて来てるんですね。帰れた人は数千人。おそらく何万という人が西日本に残留せざるを得なくなりました。今日の在日の方々と同じ運命ですね。その方々の世代から言うと今一四世か一五世です。約四〇〇年経っています。例えば薩摩焼や有田焼の「子孫ははつきり特定できますが、そうじやない方々はほとんど特定できませんね。四〇〇年後の姿はそういう事じやないかと歴史的には言えます。

次に行きます。「通名の変更や登録は時間や手間がかかりますか。許可は簡単に下りますか。」これは金さんお願いします。

金 光敏・基本的に通名の変更はできません。ですから私は通名を変更したんじゃなくて削除、私の場合は削除して子どもの場合は追加したんですけど、特殊です、これも。まずする人はいません。

仲尾 宏・最初に申し上げましたように、日本の戸籍や住民登録制度は名前は一人ひとつという大原則ですから、通名だから変えられるという事は有り得ないんです。次に行きます。「区役所等で氏名を日本語読みしている事について意見があれば。」これはお二人一言ずつ。

金 光敏・ハングルで読まないと、いう事が問題という質問かどうかわからないんですけども、区役所の方で学習されてる方は読めるんですけど、在日の私達自身が読めない人が圧倒的に多いですから、その人が書いた読

み方で、仮名で読まはるんじやないでしようか。私の場合はキム・クアンミンって片仮名で書きます。他是割りと日本語読み、例えば私はキム・コウビンって呼ばれる事もあるんですけど、本人の意思が尊重されてるんだと私思つてるんですけどどうじやなかつたら問題だと思います。

孫 片田 晶：私も同じようにその人が書いた通りの読み方をするべきだし、今はしてくださつてるんじやないかと思つてます。ただ、韓流ブームとかがあつて思つたのは、べとかいう名前の印象がそんな事ですごく変わらんだなつて、前つてなんだつたんだらうつですごく疑問に思いました。

仲尾 宏：はい、ありがとうございます。私の体験では私の大学の講師をしていた女性が、通名があつたんですね。そんな事もたまにはあるようです。

次に行きます。「お二人の名前にに対する思い聞かせて頂きありがとうございます。名前は普通は、という言い方は正しくないかもしれません、自分という個人を表すものだと考えていましたが、お二人にとつては個人を表すものと、それ以上に民族を表すものだという事がなあと感じました。国籍は国によって、法律によつて定められるものですし、秩序を考えると現在致し方ない側面もあるのでしようが、民族は何によつて定められるのかと考えると深いテーマだなあと思います。」こういう、感想です。これは私も同感ですね。民族と言うけども、じやあ民族つてなんなんだ。血統でもない。国籍でもない。名前でいいのかな、それでもない。いろいろ複雑な要素を民族という概念は含んでると思いますので、また引き続き考えていきましよう。

次、「金さんにお聞かします。昔は本名を名乗るのが嫌だつた、民族を知られるのが嫌だつたという事ですが、今の社会を見て差別問題も含め変わつたと感じますか。またなぜ変わつたと思われますか。」よろしくお願

いします。

金 光敏：印象としては変わったと思います。うちの母親の、その前の一戸の祖父母の頃からも、私の時も違います。だから圧倒的に目に見える形で、目の前にして、この朝鮮野郎、この朝鮮、みたいな事を言う人を見かける事はないですが、最近ちょっとそういう方達がいますけど、本質的にも、十分ではないんですけどもだんだん権利が拡大して、国籍による差別が制度的にも少なくなっています。露骨な差別は少なくなっているし、在日自体も多様化していますし、いろんな立場の在日、私の子どもも皆含めてそうですし、なぜ変わったのかと言わるといろんな差別問題に取り組んでいる努力もありますし、行政的な努力もあるのかかもしれません。韓流ブームの話がありましたけど、あんなに簡単に印象が変わるのがどうかというのも私も思いました。ですから、私の世代の四、五〇代の人達が料理の質問とか、韓国の文化に関していろいろ聞いてくれます。私はラッキーやと思つて最初はチヂミの話から始まつて、その内自分の子どもとか国籍とか歴史の話をします。韓流のビデオつてあまり見ないんですけど歴史が多いんですね。わたしより詳しいなあつて思つたりして。ひとつのかつかけでいいのかなと思ひます。ただ本当に根の深い所では残つていると思います。それが変わるつていうのは非常に長い年月がかかると思いますけど、特に私が生野であつたり東九条であつたりとか、在日の多い所ばかり選んで住んでるのでは、離れた所にいないので、露骨な差別もあるのかなとは思ひます。

仲尾 宏：じゃあ次に行きます。「在日の方は民族意識が高く、誇り高いと思います。逆に在日の方から見た日本人にそれはありましたか。」こういう質問です。在日の方は何十万という人数、帰化されたり、ダブルの人を含めても一〇〇万か一五〇万だと思いますが日本人、日本国籍者は一億を超えてるでしょう。ですから圧倒的なマイノリティとマジョリティの数字の違いがあるので、そういう事も考えた上でお二人からどう思われて

いるかという事をお聞きしましょう。

孫 片田 晶…さつきの光敏さんの話にひっかけて言うと、私のあまり年の離れていない先輩でも、最近結婚差別にあわれるような事もありました。例えば日本人の人にとっての民族意識や誇り高さというものが、もし在日本と結婚したくないといういうようなものであればそれはある人にはあるのかもしれないし、ない人にはないであります。民族意識つていうものの意味が違うと思っていて。日本と例えば韓国の中のものと、日本と日本の中の少數者である在日のものっていうのは全然違うと思っているので、日本人の人、マジョリティの人と同じ意味での気持ちは無くてもいいものではないのかなと。きっとその人はなにか別の所でマイノリティであるだろうから、そこにおいてそれを持つてゐるんじやないかと思います。

金 光敏…私たちの場合は負の民族意識から始まつたので、正に戻す為に過剰なほどの自意識があつたのです。世代も違つたりするかもわかりませんけど、私の子どもが京都国際学園の中等部に行つてたんですけど、そこに日本の子も、来ているんです。すると圧倒的に日本の子がマイノリティなんですよ、人數的にも文化的にも。私たちは公立の小学校に行つている時は、日の丸君が代に関しては拒否したんですね。外国人の立場というか、それだけじゃなくて憲法による思想信条の立場から。すごい抵抗感を持ったんですけど、京都国際学園では韓国の国旗の前で式典とか行われるんですね。そうすると日本の子にしたら韓国の国旗の前なんですね。国旗の意味が全然違うっていうのはありますけど、マイノリティになると自己表現したくなるっていう意識があって、私の友人の子は卒業式の時に和服で、着物を着たんですね。普段着ないじやないです。私達も普段チヨゴリを着ないんですけど、私も子どもの卒業式に、みんな黒のフォーマルな中へチマチヨゴリを着て行くんですよ。そういう意識、過剰なんですよこれは。そこまでする必要ないんですけど、自分がそういう民族意識を持つ

てしまつたんで、日本の民族意識と比べようがなくて、どこにも正しい民族意識などないやろうし、私はそういう意味では過剰に持つたんだなって思いながら、今は冷静に考へてゐるという感じで、日本の方に關するコメントはあまり無くてすいません。

仲尾 宏：はい、ありがとうございました。最後の方、この方はご感想ですね。「私は当たり前に使つてゐる名前ですが、当たり前が当たり前でない事がまたひとつ認識できました。」今日の最後のまとめのようなご感想を頂いております。今日のお話を聞いていても日本人が体験できない時代と世の中を渡つてこられた、とか生きておられるという事をしみじみと痛感致しました。

韓流ブームですけれども、あの韓流ブームの前に私はこうして日韓、日朝関係の歴史を勉強しておりますけども、昔の、高校生時代の友達にその事を言つても最初は誰も関心持たなかつたですね。なんか変な事やつてるんやな、けつたいたいやつやなという感じでした。海外の研究と言えばまずアメリカやヨーロッパ文明の事を研究するのが主流でしたからね。これが韓流ブームがあつてから変わつたんですよ。面白いもんだなあとかいろいろ聞いてくるんですよ。たまに、マスコミやテレビなどに私が登場しますと喜んでくれています。そういう点で少しは時代が変わつたんだなという印象を持ちました。チャングムの誓いやペ・ヨンジュンさんに感謝しないといけないです。

あつと言ふ間に二時間が経ちました。まだまだ皆さんいろいろ思いがあると思いますがまた来週お越し頂いて別のお一人からお話を聞いた上で積極的な意見やご感想をお聞かせください。どうも今日はありがとうございました。お二人ありがとうございました。

司会…ありがとうございました。次週、それからその先一週づつございますので、その時はまたお待ちしてお

ります。今日お手元にお配りしています質問ですが、もし「」感想を頂戴できるようありましたらまた次週お持ち頂けたらありがとうございます。よろしくお願ひします。本日はありがとうございました。



図 1-4 脇澤總督南次郎(1874-1955、在任 1936-1942) 背見十
居に「朝鮮民の誓詞」が政三
える(朝鮮總督府年史より)

今年皇紀二千六百年の紀元節を機
として、氏を付けることを許され
るようになつた。(南次郎「朝鮮も
一生懸命だ」[キング] 一九四〇年一
〇月号)

改正朝鮮民事令などの諸法令は、一九四〇(昭和十五)年一月一日に施行された。これにより創氏改名の政策が実施に移され、氏の設定届の受付も始まった。八月一〇日まで六ヶ月の届出期間のあいだにすべての朝鮮人(戸主)は、創氏するかどうか、するとすればどのような氏にするかを決めねばならなかつた。他方、朝鮮總督府はこの期間に、創氏の政策とその趣旨を朝鮮人に認識させる必要があつた。「内鮮一体」を掲げた創氏の政策が朝鮮人に受け入れられることを示すために、創氏の比率をできる限り高くしなければならない。それが總督府の至上命題となつた。

由来朝鮮には血族団体の名称として、李とか朴とかいう姓はあるが、日本古来の家の称号たる氏というものがない。そうして一家内にあって夫と妻とが別々の姓を称しているなど、我が国古来の風習と一致しない處がある。そこで半島人をしてこの血族中心主義から脱却して、国家中心の觀念を培養し、天皇を中心とする國体の本義に徹せしめる趣旨の下に、

「朝鮮王氏改名」はどのように実行がなされたか?

水野直樹『創氏改名・日本の朝鮮支配の中』より。



図 2-4 全州南門市場の創氏相談所
(大阪毎日新聞(朝鮮版)1940年
8月13日)

表3 道別氏設定届出件数(8月10日まで)

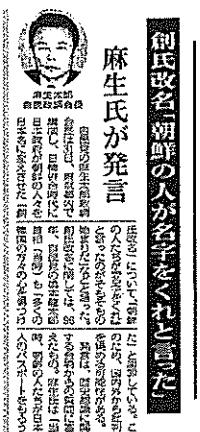


図2 麻生発言を報じる新聞記事([毎日新聞] 2003年6月1日朝刊)

道	実在戸籍総数	氏設定届出件数	割合
京畿道	428,039	337,978	79.0%
忠清北道	180,507	127,249	70.5
忠清南道	259,444	219,079	84.4
全羅北道	280,288	214,394	76.5
全羅南道	426,768	344,753	80.8
慶尚北道	462,580	387,419	83.8
慶尚南道	420,565	354,508	84.3
黄海道	303,587	236,522	77.9
平安南道	238,907	184,677	77.3
平安北道	284,746	248,720	87.3
江原道	280,699	238,475	85.0
咸鏡南道	260,186	217,172	83.5
咸鏡北道	182,609	117,985	64.6
計	4,008,925	3,228,931	80.5

備考：実在戸籍数は、戸主の所在不明、戸主相続人のないもの、絶縁手続未済などで創氏できない戸籍を除いた数字
資料：「思想系報」第25号、1940年12月

昭和十八年十月一日		内政部長		市警察署長殿					
昭和十九年度徵兵調査者所在調査方件									
半島人徵兵調査に依り左記ノ者ニ係レ標記ノ件箇目各面長ヨリ 依頼有之候餘肯管下御精査ノ上該當者有之候候節ハ直接本官書面 長宛照復相處度									
道府県名	年月日	本籍地	出生年月日	本戸主	性別				
岐山道	大正十四年六月十五日	岐山郡北岐山村							
忠 艺 伊	同 九月二十日	同 同	同	本 戸主	男				
木 田 六 塚	同 六月一日	同 同	同	本 戸主	男				
金 木 金 育	同 八月十三日	同 同	同	本 戸主	男				
高 山 田	同 三月十四日	同 同	同	本 戸主	男				
金 木 金 育	同 九月十四日	同 同	同	本 戸主	男				

▲神奈川県に住む朝鮮人の徴兵適齢者所在調査に関する資料(1943年10月)

가나가와현에서 사는 조선인의 정병적령자소재조사에 관한 자료

第二回 「『名前』とアイデンティティ」

パネリスト

コーディネーター

李朴 實氏
仲尾 洋一氏
宏氏（京都造形芸術大学客員教授）

二〇一〇年三月五日（金）開催

司会…チヨゴリときもの第一七回二週目を開始致します。今年度は名前をテーマに皆様にお話を伺つております。今日お話し頂きます方を早速ご紹介させて頂きます。今日のお一人なんですが、お二方共日本国籍者でいらっしゃいます。まず初めにお話し頂きます朴実様です。どうぞよろしくお願ひします。一九七一年、今から約四〇年前に日本国籍者となられまして、その当時は日本の氏名というものがひとつの中の条件のようになつておありました。その後一六年くらい経ちまして、一九八七年にご自分の民族名を本名として申請するという事を全国で初めて勝ち取られました。

お一方目のパネリストは李洋一様です。よろしくお願ひします。李様も先程申し上げましたように子どもの頃にご家族の方皆さんと日本国籍者となられています。大学をこの春卒業して就職される予定です。二年程前からご自分の名前につきましていろいろ考えていらつしやいまして、民族名について今考えてみようという事でお話し頂く事になりました。よろしくお願ひ致します。

仲尾 宏…皆さんこんにちは。今年第二回目のセッションを始めさせて頂きます。

今、司会の岡村さんからお話がありましたように、今日は名前を取り戻す事というサブタイトルになつております。これは日本生まれで、生まれた時に日本国籍があつて、両親共日本人であるという我々にとつては一体なんの事なのかと。なぜそんなテーマがつくのかという思いがまずあると思ひます。今もご紹介ありましたように、このお二人はいずれも日本国籍を取得されておりますけれども、名前というものについて自分の民族名を名乗らうと思えば、後ほどお話になると思ひますが、朴実さんなどは家庭裁判所の調停に訴えなければできなかつた、という事実があるんです。それは一体なぜなのかという事。また、どうして民族名、韓国・朝鮮名にしようと思われたのか。その思いはいろいろ複雑な要因があると思ひます。いずれも一般の日本人がおよそあざかり知らないような、生い立ち、あるいは地域や家庭でのいろんな事があつたと思ひます。そういう事を含めてお二人

から率直な思いを語つて頂くというのが今日のテーマでござります。

お二人の話に入ります前に、お手元に京都市在住コリアンの本名使用状況という棒グラフの並んだものがござります。これは二〇〇七年に京都市外国籍市民意識・実態調査というものを京都市国際化推進室が行いました。それに私が関わっております財団法人世界人権問題研究センターの方が受託しましてまとめたものです。その中から今日のテーマに関わりのあるものを何項目か持つてきましたので、それをまずはご覧頂きたいと思います。実はこの調査は一〇年毎にやっておりまして、一〇年前の一九九七年に第一回のこの調査が行われました。二〇〇七年はちょうど一〇年経つた時などどのように推移が見られるかという事でまた調査があつたわけです。

まず図の四の一、母国の言葉や文化に関する教育、オールドカマーと書いていますがこれはいわゆる在日の方々と考えていいかと思います。母国の言葉や文化の事に関する事について、九七年の時は三択で、強く思う、どちらとも言えない、あまり思わないという三択だったんですが二〇〇七年には五択になつております。九七年では、思うと答えた人が四二・六パーセント。二〇〇七年になると強く思う、やや思うを足すと、五五パーセントに増えております。という事は、年月が経つて、多くの方々が日本の風土、生活に馴染んでおられて、母國の言葉や文化に関する関心が減つてしまつたんじゃないかな。教育についてもそうなんではないかという思いがあるんですが事実は逆なんですね。それが逆に強くなつているという事です。一番目はニューカマー。一九五二年以降に日本に来られた方。韓国からも見えてます、中国からもブラジルからも見えてます。そういう方々が母國の言葉や文化に対する関心はどうか。九七年には強く思うと答えた人が八五パーセントで、二〇〇七年ではやや減りまして、約七〇数パーセントと減つておりまして、その中でも強く思うという人の数字がやや少ないのではないかとこんな調査がでております。これについてはなぜそうなのか。いろいろお考え頂けたらと思います。

それからオールドカマー、在日の方々がいじめや差別の経験です。あると答えた人はこの一〇年間ほとんど変わつておりません、一〇数パーセントです。わからないと答えた人もやや減つておりますけれども、ないと答え

た人も少しは増えておりますけれどもあまり変わっていない。という事はいじめや差別という事については一〇年間あまり変わつてこなかつた。日本人の人権意識がいろいろ進歩したと言いますけれども、実態としてはあまり変わっていなないんではないかとこんな想像も可能です。

次の頁に行きます。今的事を年齢別によるいじめや差別で見ますと、あると答えた人が二〇歳代では七一ペーント、三〇歳代になると、あると答えた人がうんと減ります。四〇歳代でも減ります。五〇歳代でも減ります。六〇歳代が三五ペーント、七〇歳代が一六ペーントと世代別の違いがあります。この二〇歳代の方々は今日お見えの李洋一さんのように、四世の方もおられるわけですが、三世から四世の方ですね。三〇、四〇、五〇代の方は三世の方が大部分だと思います。七〇歳以上で一部の方が一世で残りが一世と考えたらいいでしょ。世代別によつて差がありますけれども、結局のところ現在の三世あるいは一世の世代が受けられた差別が、かなり大きなウェイトを占めているという事が推測できます。

今日のお話の本題に入ります。子どもの本名使用についてですが、子どもが本名を使って日本で暮していくて欲しいという事について強く望むという答えを出された方が九七年では二六ペーント。やや望むをいれますと五六ペーントぐらいになります。二〇〇七年では強く望むと答えた方が二〇ペーント。やや望むと答えた方が八・八ペーント。どちらとも言えないが三〇ペーントになつております。これもいろいろお二人にご感想をお聞きしたいと思います。言い間違えましたけど九七年の三一ペーントというのはどちらとも言えないですね。これは三択ですから、望むと答えた人が二六ペーント。二〇〇七年では、やや望むを加えまして二九ペーントぐらいですか。やや増えているという事ですね。最初の母国の言葉や文化に対する教育についての関心と同じように、同化されながらもやや増えているという事が言えるかもしません。

現実の年齢別による子どもの本名使用、これがオールドカマードの場合どうかと言う事ですが、先程も言いましてように三世・四世である二〇歳代の人のちょうど五〇ペーントは、子どもに本名で生きていくて欲しいと望

んでいる人々です。三〇歳代はやや減りまして、強く望むが三一パーセント、やや望むが八パーセントで合わせて四〇パーセント。四〇歳代もやや減りましてそれぞれ二〇パーセントと八・九パーセント。五〇歳代は更に減りまして両方合わせても一〇パーセントというような数字になります。この人々は大体三世の方ですね。ですから四世の子ども達にどのように思つてらつしやるかという事がここに出ております。六〇歳代、七〇歳代これは二世の方々が中心ですが、強く望むという方、やや望むという方が逆に少し増えてい、とこんな状態であります。

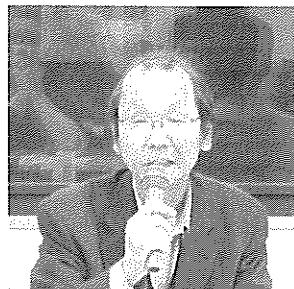
一番下の表は国籍別による母国の言葉や文化に関する教育についてニューカマーの方にお尋ねしました。いわゆる在日の方々は入つてない数字です。すると韓国（現在朝鮮から来ている人はゼロですから）、韓国から来た人が合計約二〇パーセントが関心があると。台湾を含む中国が三六パーセントがやはり関心があるというように出ております。いずれにしても、その他のアジアやヨーロッパやアメリカから来た人よりも、韓国から来た人、あるいは台湾を含む中国から来た人が母国の言葉や文化に関する関心が非常に高いという事が言えるのではない

かと思います。

以上が今日お二人のお話をお聞きしながら皆さん方と共に一般の在日の方々の思いがどんなものかという事を知つて頂く為に、このような調査報告をさせて頂きました。

それでは早速お二人のお話をお聞きしますが、まず最初は朴実さん。東九条でCANフォーラムの代表など地域での共生の運動に取り組んでいらっしゃる方で、ご存知の方もありますが、長く東九条マダンの実行委員長を務められ、地域で民族音楽を広めるという活動をなさつてきた方でございます。よろしくお願ひします。

朴 実：アンニヨンハシムニカ、パクシリムニダ。私が帰化という手続きによって国籍が日本に変わった理由なんですが、直接的な理由は妻が日本人で、結婚にあたつてでした。でもそのバックとしては、多くの二世



朴 実氏

三世がそうですけれども、今も民族差別ってありますけど非常に露骨な民族差別が強い時代で、私の姉などは本名では会社の試験受からないので、担任の先生から日本名で受けるように言われて、大きな電気会社を受けて二人しか採らないところを見事受かつたんですけども、後で国籍とかがわかつて、それがショックで一度も自殺未遂事件を起こしたりしました。私も中学から高校へ行こうと思つたんですけども、奨学金も国籍条項があつてもらえなかつたり、あるいは就職しようと思つても、姉の事があつたので本名で受けたんですよ。三十社程、小さい

会社だけ受けましたが。全然就職させてくれるところもありませんでした。

そういう背景があつて、私だけじゃないと思うんですけども、通名で生活し、日本名ですね、そして出来る事なら日本人になりたいと思って生活していたんです。直接のきっかけは日本人女性と出会つて恋愛をして、結婚問題になつたんですけども。私たちの親の世代は、特に日本人の人達は明治生まれとか大正生まれの人人がほとんどですから、朝鮮人と日本人が結婚するなんてとても考えられない。母親が娘の結婚を阻止する為にガス自殺未遂をした時に、向こうの父親が私に帰化をしてほしいと言われたんです。それまでは帰化っていう事をあんまり考えなかつたんですね。そして京都の法務局へ行くと、帰化っていう言葉をもう一度見て欲しいんです。「帰化」の「帰」っていうのは帰順する、平たく言えば家来になる事ですね。「化」というのは化ける、その国の民族やあるいは王様の徳に化ける。今の言葉で言えば同化するという言葉なんですね。帰順して同化するってこれは対等の関係じゃないです。法務局へ行けば、まさしく日本国籍を取らさせてやるという役人の態度でした。いろんな屈辱的な事ありましたけども、帰化の手続きの中で大きな事がふたつありました。係官が、帰化後の氏名つていうところで、どんな名前でもいいですと。今人気俳優の中村錦之助っていう名前でもいいとか言いましたし、好きな名前があつたらそれを使ってもいいと。ただし民族名は駄目ですよ、と。日本の氏名でないといけないと

われました。それで私は生まれた時からずっと通名を使っていて、その通名の新井実という、新しいという字に井戸の井ですね、朴が通名の時一番よく使う名前なんんですけど、新井実と書きました。帰化申請は今でもそうですが、様々な書類を出さないといけないんですけど、その後に住所氏名、判子押したんですけどそれで終わらなかつて、別室に連れて行かれて、強制的に黒いインクで十指指紋と手の平まで押させられました。当時はそういう事が行われて、その後指紋は一指になりましたけども、九三年までずっと続いていました。

その次の年に法務局へ呼ばれて所長から、新井さんおめでとう、あなたは晴れて立派な日本人になりましたと。これから立派な日本人として生活してくださいと言われたんです。その時に日本人と言われて私はびんと来ませんでした。確かに国籍は変わったけれども自分というは何も変わっていない、以前は韓国籍だったんですけども、韓国籍である私も、日本籍になつた私も何も変わらない。ところが社会では国籍が変わっただけで日本人と言われる。何かおかしいと思いました。その頃に初めて子どもができる事になつて生まれてくる子どもにどういう教育をしようかって思つた時に、日本人と朝鮮人の間に生まれた子どもだから、お前は日本人と朝鮮人の間に生まれた子どもだという事で、それぞれがそれぞれの文化、歴史とか言葉とかいうものを教えていく事にしました。ところがその時に私ははたと気がついたんです。私は日本生まれで日本育ち日本の学校しか出ていないんです。言葉も歴史も何もわからないんです。それで慌てて日本の「あいうえお」にあたる「アヤオヨ」とか最初に挨拶しました「アンニヨンハシムニカ」とかいう言葉から勉強しました。歴史の勉強もしました。実は恥ずかしい話、私の親は一九二〇年代の中頃に最初に、私の父親、アボジって言うんですけども、アボジが京都の東九条に来て、オモニが生まれたばかりの子どもを連れてこの東九条に来たんですけども、なぜアボジ・オモニが故郷を捨ててこの京都に来たのかいう事を聞いた事もなく、全然わかりませんでした。なによりも、この東九条に三割近く朝鮮人がいて、ほとんどが本名と通名を使い分けてる。そういう歴史も学校でも習つた事ないし、親からも聞いた事ないし、兄弟からも聞いた事ありませんでした。歴史の勉強していく内に驚きました、本当に。

植民地支配、今年でちょうど一〇〇年になりますけれども、日本が朝鮮民族に対してもひどい事をしてきましたのか。いろいろありますけれども、その中に、「創氏改名」という事に行きました。自分の戸籍名になつてゐる新井実つていうのは辿つていけば一九四〇年の創氏改名、創氏つていう、氏を創るというそこで初めて出てきた名前なんですね。それを自分の子ども達、三人子どもいるんですけども、その三人も使つてゐるわけです。そういう屈辱的なものを私もこれから生きていく子ども達にもそういうものを使わせたくないと思って、それから私と子ども達は朴を名乗りました。妻は日本人なので最初の元の日本の名前を名乗つていきました。一番下の娘が学校で、娘の名前がパク・ヘンジヤつていうんですね。日本名だつたら下の名前が幸子つていつてさつちゃん、さつちゃんつて言われてたのが急にヘンジヤつていう、語呂も悪いですし、ヘンジヤ、変人とか変態とか言われていじめられたんですね。ある時娘が私の妻にお母さんは日本の名前あつてよかつたねつて。私も日本名を付けて、とか言つたんですね。私は男で、娘と母親の関係つていうのは独特のものがあつて、間に入つていけないところがあつて。どういう事があつたのかそれ以上は知らないんですけども、妻もそれから朴を名乗るようになりました。一九八四年に、新井から朴への氏変更申し立てを京都家裁に家族揃つて行いました。

私は元々の苗字が朴でずっと何十年と生きてきた、二〇数年生きてきた歴史がありますから、もう三〇年ですね、あの時ちょうど。ですからすぐ勝てると思つたんです。ところが半年間協議され、しかも私の場合は後でわかつたんですけども、大阪高等裁判所の家事審判部で協議されて、私の申し立ては民族感情であるという風に言われました。審判文にはこう書いてありました。『申立人の申し立ては单なる民族感情であり民族意思にしか過ぎない。その事によって氏変更は認められない。』――いう審判文でした。单なる、というそれが非常に悔しかつたですね。皆振り返つて見て欲しいんです。周りに沢山在日の人がいると思うんです。そのほとんどが通名なんですね。通名を名乗らないと生きていけないような現実があるんです。そしてその中で、本名で生きていくことをする、そういう人達は少ないけども、この社会は他民族、外国人を受け入れる社会になつて欲しいと思うか

ら、そして自分自身がそのアイデンティティで生きていこうと思えればこそ、民族名で生きたいと思ってるんですよ。それをですね、裁判長は单なる『民族感情、民族意思』と言つて私だけじゃなく、全国の家事審判部の判例となつたんです。その当時私だけじゃなく全国で何人かが同じような申し立てをしていました。それは全部民族感情によるものとして、却下されました。これでは駄目だと思って、仲間達と民族名を取り戻す会というのを結成して、署名集めとかいろんな運動を始めました。そして一九八七年の一月に再び京都家裁に申し立て、八七年の六月にやっと朴の苗字が認められる事ができました。なんとこれが全国で、帰化した朝鮮人として初めて名前が認められた例なんです。一九八七年と言えばまだそんなに古い話じゃないですね。アメリカ社会では例えば日系人で、先日のトヨタの件で上院議員のダニエル・イノウエさんが発言していましたけども、ジョージ有吉とか、あるいは以前のペルーの大統領はフジモリさんだとか言つて、ファーストネームに日本の苗字を名乗つている人が活躍している事に対して日本の政府の方々も、様々な人が非常に誇りに思つてるんですね。それなのにずっと外国姓を認めてこなかつたんです。その背景には私が帰化に際して、日本的氏名に限るという根拠を探した時に法務省の高官のところにこのような文章がありました。全部覚えていないので、細かいところは正確じやないんですけども、こういう内容でした。日本は单一民族的な社会である。そういう社会にあって、日本籍になつていく、帰化した日本籍の人がこの社会に生きしていくに、他民族である事がことさらわかるような氏名ではその人は非常に生きづらい社会である。その本人はいいが、その子々孫々にわたつてこの社会に生きていくなれば、この日本はとてもそういう名前では生きていけないだろう。だから我々は日本的氏名を勧めているんです。そういう風に書いてありました。もつとわけのわからないのは帰化マヨネーズ論というのがありますて、マヨネーズを作るには油と卵を徐々にかき混ぜないと分離してしまうと。帰化っていうのはそういうものであると。人の人格を扱うのに食べ物と同じように扱う、非常に低次元な言葉で述べている文章にも出会いました。あれから数十年経ちましたけれども、日本は多民族社会、多分化共生とか声高に、政府もこの京都市も多文化共生

と言われていますけども、なかなか現実社会では厳しいものがあります。けれども私達は一步一歩それに向かって進んでいきたいと思います。我々在日韓国・朝鮮人の若い人達、その九割近くは日本人と結婚するんですね。生まれてくる子どもは日本人と朝鮮人の間の子どもです。私達はそれをダブルと言っています。以前はハーフとか言つていたんですけども、ダブル、すなわち両方のアイデンティティ、そして歴史、文化そういうものを身につけて欲しいという願いでダブルと呼んでいます。

一九九二年に呼びかけて次の年から始まつた東九条マダンの出し物で、一番人気があるのは和太鼓サムルというのがあります。和太鼓は日本の打楽器で日本を代表する打楽器の文化です。サムルっていうのは朝鮮民族の文化です。その中から新しいものを作つていこうとしてるわけです。

少し話が逸れましたけども、私はこの日本の社会にあって、朝鮮人は朝鮮人として、私だったら朴を名乗り、私がもしも新井と言えば誰も朝鮮人だとは気が付かないですね。朝鮮名を名乗り、そして私の子どもはダブルとして素直にそのまま生きられる社会、そしてそこから新しいものを作り出して欲しいと私は願っています。

名前とは少し逸れるんですけども、帰化の時十指指紋をとられましたけども、それに対し指紋返還訴訟といふものを、一九九一年京都地裁に国を相手に起こしました。当初国は全然相手にもしてこなかつたんですけども、ちょうど外登法の指紋押捺拒否闘争、そして帰化行政における指紋の不当さえを訴え、海外でも支持を得て、結局法務省は一九九三年に指紋をとらないと言つてきました。最終的には三二万五千人分帰化の時にとつてきた指紋を廃棄すると、だから訴訟を取り下してくれと言つてきました。そして私は法務大臣の謝罪を申し立てたんですけども、それは受け入れられずに結局和解に応じて、私だけじゃなく、二二万五千人分全て廃棄処分になりました。最初誰もがこんな個人の訴えが勝てると思つていませんでした。私自身も半信半疑でした。でも、人権つていうのは、あるいは一人一人個人が持つているものつていうのはそれだけ尊いものであつて、絶対失つてはならないと、それをしつかり持つて生きていきたいと私は思つています。私は子ども達にもですし、パク・

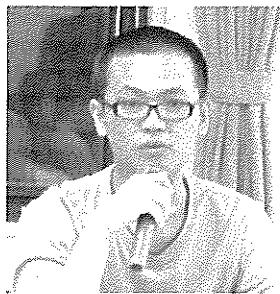
クアン、パク・チョル、パク・ヘンジャとして、上二人は結婚して、またその孫達も朴を名乗っています。それがいいのか悪いのかというのはいろんな人の考え方があると思うんですけども、皆チャンゴを叩き、チョゴリを着たりして、日本の梅干しも食べるし、そういう生活を送っています。私の話はこれで終わります。

仲尾 宏：ありがとうございました。今朴実さんのお話の中で帰化という言葉が出てまいりましたね。なぜそんな用語が日本の国籍法の中にあるのか。帰化の要件という事でいろんな条件が出ております。これはまた後のお話とも関係すると思いますが、帰化という語は『日本書紀』に使われている言葉です。『古事記』には使われておりません。これは上田正昭先生が研究の結果非常に明快な結論を出されていますが、『古事記』では、マイワタリキツ、あるいはワタリキツというような表現をしております。それに対して『日本書紀』の方は帰化という漢字を並べて、マウクというような訓読みにしています。その頃はちょうど飛鳥時代ですね。その頃に『古事記』、続いて『日本書紀』が編纂されたわけですが、どちらかと言うと『古事記』の方が元々あつた伝承や事実に近いものがある。それから十年後に再編集された『日本書紀』という書物は当時の為政者の、つまり国家の支配者の天武天皇などの意思が強くはたらいているという風に言われております。当時沢山の人々が朝鮮半島から渡つて来ました。現在では上田先生の学説に従つて教科書では渡來人と言つていますね。ところがそれまでは帰化人と言つていた。それは『日本書紀』の方に準拠していいたわけです。しかしながら当時はヤマトの王権よりも百濟、新羅、高句麗といった朝鮮半島の王権の方が遙かに文化、文明の面で進んでいて、そういう進んだ文化、文明を持つて渡来してきた人々が沢山いた。一族ごと渡つてきた。京都の場合、秦氏が特に有名ですけれども、そういうような文化的な背景を持った人が日本に来たわけですが、帰化という言葉にあるように、従うというような事ではなかつた。むしろ彼らが飛鳥文化を作つてきたわけですね。詳しい話をしますと長くなるのでこれぐらいにしておきますけれども、そういう意味で帰化という言葉が当時の政治的な用語として用いられたという

事です。それが明治の国籍法制定の時に突如出てきた。明治政権がそれをわざと入れたと思います。それが戦後の今の中でもそのまま使われているという事であります。元々、他民族との関係において帰化という言葉が相応しいかどうかそういう事自体も問題であります。例えば英語の場合そんな用語はないです。帰化にあたるような条件はないはずです。migration(移民)といふことばだけですからね。そんな事を考えますと、帰化という言葉 자체に疑問を感じるとおっしゃられた朴寒さんの直感というのは非常に鋭かつたと思います。そんな事もありますのでちょっと付け加えさせて頂きます。

それでは在日四世の李洋一さん。四世の方がこんなに大きく成長されてるっていうのは私は驚きでした。それではよろしくお願ひします。

李 洋一 氏



李 洋一…皆さんアンニヨンハシムニカ、李洋一です。よろしくお願ひします。まず最初に簡単に自己紹介をさせて頂きます。僕は在日コリアン四世で日本国籍を持っています。中学生の時に家族ぐるみで帰化をしました。兵庫県の丹波出身でして、大学から京都に来て、住んでいます。現在学生でして、今年の四月から就職して働き始めます。なにぶん人前で話すのが苦手でして、至らない点などあるかと思いますけど、よろしくお願ひします。

初めに李洋一と名乗ったんですけども、普段生活する時も大概李洋一で生きています。これは僕の法律上の名前ではなくてですね、法律上の名前は岩本洋一といいます。先程申したように中学生の時に日本国籍を取得しまして、この時に元々通名として使っていた岩本っていうのを李の代わりに戸籍上の氏にしました。僕は生まれてからずっと岩本姓で生きてきたので、日本国籍取得の前後で特に不都合等はなかったんですけど、ただ「リード」三年民族意識に目覚めてというか、言い方が大袈裟かもしれないんですけど

も、いろいろ思うところがありまして、元の李洋一を使って生活をするようになりました。その結果、本名が日本名で、呼称として、通名として使っているのが民族名つていう事になつてているんですけど、今現在このねじれをなくす為に氏の変更の手続きを準備しています。それにあたつて、この分野のパイオニアと言うか、最初に申し立てをされた朴実さんにアドバイス等を伺つて準備しています。会社にも理解をして頂いてまして、四月から働くんですけど当面の間は呼称李洋一として働く事になつています。これが僕の今現在の状況です。

僕みたいな人間つていうのは珍しいみたいで、就職活動の時もよく質問されました。今まで日本名で生きてきて国籍も日本に変えていたのになぜわざわざ名前を李洋一に戻すかと聞かれました。今回テーマがあつて、民族名とアイデンティティ、名前とアイデンティティという事なんでこれと絡めるような形で氏を変更しようと決意するに至つた経緯について話をさせて頂きたいと思います。

僕は今まで、二四年間生きてきた中で、いわゆる差別、露骨な差別、キムチ臭いとか、朝鮮帰れとか、露骨に直接差別された事つていうのはなかつたんですけど、小学生の時にあつた出来事ですごく印象に残つていてる事があります。学校で友達と遊んでいて、どういう経緯でそういう流れになつたか記憶していないんですけど、自分が韓国人だつていう風にしやべつたんですね。その時にその会話を聞いていた先生が僕が周りからいじめられているのではないかと心配したそうで、僕の家に電話しまして。母親から学校でいじめられるんじやないのという風にすごく深刻そうな顔で問い合わせられまして、そんな事はないよ、とその場はそれで収まつたんですけど。それ以降、今まで特に自分が韓国人であるという事に対して特に違和感というのはなかつたんですけど、その一件から差別される事への不安といったようなものが出できました。なので、中学生の時に日本国籍を取得するという話を両親から聞いたんですけど、この時は安堵感こそあれ、抵抗感のようなものはありませんでした。僕は四人兄弟なんんですけど、兄弟が将来就職などで差別を受けたりしないように考えた結果、後は父親の仕事上の都合で日本国籍を取得するようになつたと両親から説明を受けまして、その説明にも特に疑問を抱く事な

くすんなりと受け入れた記憶があります。ただ、日本国籍を取得したからといって僕の中で不安が消えるわけではなくてですね、例えば学校の歴史の授業なんかで、朝鮮半島について触れるくだりがあつたりすると、変に緊張したりとか、後は友達と会話している中でサッカーの日韓戦か、韓日戦の話なんかをしている時に僕自身の出自の方にまで話が及ぶのではないかとはらはらしたりとか、冷や汗の出るような場面というのは多くありました。後は実生活以外でもインターネットの掲示板なんかを見ると、在日に対する誹謗中傷っていうのは僕が望まなくとも目に入つてきましたし、すごく不安に感じていました。

そんなこんなで、中学高校と過ごしていたんですけど大学受験に失敗して予備校に通つていた時に、自分にとつてすごく驚くような出会いがありました。民族名で教壇に立つ先生がいたんですね。世界史の先生で金さんというんですけど。それまで僕の地元、すごく田舎なんですけど、周囲に在日の友達、知り合いは一応いたんですけど、ただお互い自分の出自について話し合うっていう事はなかつたですし、民族名でいつてる人つていうのは周りに全くいなかつたんで、そういう事でまず驚いたっていうのと、その先生はすごくおもしろくて生徒からも人気があつて、魅力に溢れた人だつたんで、こういう人もいるんだと単純に驚きました。自分が在日である事の負い目とか不安というのが和らいだという事を記憶しています。その先生とは直接交流はなかつたんですけど、受験が終わつて大学生になつたら一度本気で自分の在日っていう事と向き合つてみようという風に決意しました。ただ、大学入学してすぐなにかしら行動を起こしたかと言うとそういうわけではなくて、大学に入ると在日の同胞つていうのは向こうからやって来ます。僕の大学では、今でもそうかはわからないんですけど、語学の授業の受講者名簿つていうのが四月ぐらいにコーナーに貼り出されるんですけど、その名簿をチエックして、こいつは在日っぽいなつていうので、見つけて自分らの団体に勧誘しようとする民族団体のメンバーの方がいましたて、それは僕の所にも英語の授業前に廊下に立つていて、来まして、岩本さんはいますか、とすごい大声でおっしゃつてたんですけど。僕が答えると、岩本さんは在日ですか、と聞いてきまして、僕自身それまで自分が

在日であるという事は隠してましたし、そういう風に大胆に来られるとすぐ戸惑つて、むしろちょっと怒りを覚えるようなところもありました。

大学入学当初寮に入っていたんですけど、その寮でも政治運動に勧誘される事が多くてうんざりしていましたし、何よりも自分の出自というか自分が在日であるという事は自分個人の問題であるという風に考えていましたので、何で政治とか運動とかが絡んで来るのかというのが全く納得できなかつたので、そういうふた勧誘っていうのは一切無視して、それ以降結果として普通の大学生活を送る事になりました。ただそれでも自分の出自へのもやもやつていうのは消えるわけではないんで、大学三回生の冬ぐらいですね、今から二年ちょっととぐらいい前に、クラブ活動を引退して暇でしたし、単位も足りなくて四年では卒業できそうになかつたので、就職活動もできず、暇だったのでちょっと民族団体をのぞいてみようかなと思つて、自分から飛び込みました。そこには在日韓国青年同盟というんですけども、そこで毎週水曜日に韓国語教室をやつてまして、僕は初級者クラスに入りました。初めて触れる韓国語だったんですけどよく新鮮で、なにより周囲の人間全てが在日っていうのが今まで経験した事がなかったので、家族とか親戚の集まり以外で。本当にびっくりしたんですね。全員同胞なんで、自分の出自について負い目を感じる事なんてないですし、朝鮮式の法事であるチエサの事とか、叔父とか叔母の呼称、サムチヨンとかそういう呼び方があるんですけど、主に日本人の友達と間では共有できなかつた話題を共有できて単純に嬉しかつたです。なにより今まで自分が抱えてきた不安とか葛藤について腹を割つて話をする事ができる場だつたので、肩の荷が下りるというか、心の底からほつとしました。チャンゴなど民族楽器を皆で練習してそれを公の場で披露するという機会もありまして、そういうふた事を通して今までコンプレックスであつたものがむしろ誇るべきものなんだという風に考えるようになりました。その韓国語教室には年齢も職業もまばらいろいろな在日コリアンが集まっているんですけど、普段の生活から民族名で過ごしている人が多くいまして、中には中学生ながらに民族名を使って生きている人もいるんですね。そういう人を見ると刺激を受けますし、勇気をもらうんですね

よ。自分も民族名を名乗りたいなという思いが出てきたんですけど、でも日本国籍を取得してて本名は岩本になつてしまつてゐるんで、これはもう無理なんじやないかと躊躇していたんですが、ただいろいろと在日の人に話を聞いてもらつてると、僕みたいな人間というのは少ないながらもいるという事を知つて、思い切つて日本の友達に民族名で生活すると宣言して回りました。後は事情を説明して民族名でアルバイトをしたりしたんですけど、初め周囲がどういう反応をするんだろうかという風に不安に思つていきました。仲のいい友達には自分が在日であると明かしていたんですけど、さほど仲のよくない友達には話してなかつたんで、そういう友達は僕が在日であるという事を知つて離れていくんではないかと心配をしていました。まず今まで黙つていた事を話す事で、より深く相手と付き合えるようになった気がしましたし、自分が民族名を宣言する事によって、実は自分も在日なんですよと打ち明けてくれる人がいて、それによつて仲良くなつた人間もいます。日本人の方で韓国に興味があるからというので仲良くなつた人間もいまして、なんだかんだで人とのつながりつていうのは民族名を名乗る事によつて広くなつたように思ひます。もちろん嫌な事言われる事もあつたんですけど、これまでみたいに変にびくびくするよりか数倍ましだと思います。

去年に就職活動を開始したんですけど、自分の中で李洋一で生きようという決意は定まつてゐたので、将来戸籍上の名前を李洋一に戻すのを伝えた上で面接等を受けました。幸運な事に入社、拾つて頂いて、更に幸運な事に呼称李洋一として働ける事になりまして、今に至つています。

民族名を取り戻すという事で、なぜそういう風に思つたのかという経緯をお話させて頂きました。説明不足の感もあつたかもしれませんけど、初め自分にとつて在日とか民族つていうのはコンプレックスとか不安の種そのだつたんですけど、いろんな出会いを通してそれが自分にとつてプラスのものに変わりました。臆さずに民族名を名乗る人達、予備校の先生であるとか、韓国語教室で出会つた人達によつて自分が変わることができたんだ

から、自分もまた民族名を名乗る事で、大袈裟かもしれないんですけど、周囲に勇気を与える事ができるのではな
いかと思つてます。周囲の人間の中には僕が李洋一で生活する事によつて、いろいろと困難が発生するんじやな
いかと心配する人もいるんですけど、でも僕はそういった不安よりもむしろ期待の方が大きくて、出会いとかも
あつておもしろいです。今まで在日っていうんで抑圧されていた分をこれからは在日というのを思う存分楽し
みたいと思つています。

補足なんですが、さつき朴実さんと比べて僕が生きてる今という時代は特に差別が露骨ではないので、比較
的スマートズに民族名を名乗つて氏を変更するという事ができたと思うんですけど、なぜこういう事ができるの
かっていうのを考えた時に、朴実さんみたいな方が先頭に立つて活動をしていたからだと思うんですね。なの
で、さつき政治運動とかに関して大学入学したての時について語るくだけでいろいろ悪く言つたんですが今では
すゞく感謝しています。あまりまとまつていませんが以上です。

仲尾 宏：ありがとうございます。これから在日を思う存分楽しみたい。大変未来志向の言葉を聞いてなん
となくほっとした気分になりました。李洋一さんの場合はお父さん、お母さんが日本国籍を取るという事になつ
た時は洋一さんは未成年だったわけですね。ですからつまり日本の法律では民法を初めとして満二〇歳という年
齢を基準にして考えていますから、国籍を変えるという事についても、例えば一四歳あるいは一〇歳の子ども
が申し立ててもこれは受け付けられんのです。だから両親が変えるという時には家族揃つてという事になるの
で、そのようにされたと思います。朴実さんの場合もそうですか？

朴 実：私は個人です。

仲尾 宏：世代によつて違いますね。そういう事で、日本国籍になつた、日本式の氏名が法律上の名前になつてしまつたという事ですね。どうもありがとうございました。それでは第一セッション、これで終わりまして、休憩に入ります。

司会：お手元にお配りしております「意見、アンケート用紙なんですが、「質問等」をまししたら是非沢山書いて頂きましてボックスの中に入れてください。お願いします。一五分の予定で第一部を開始致します。それまでにこちらの方へお出し下さい。

司会：お待たせいたしました、第一部を開始致します。今回は一四の「質問及び」感想を頂戴しております。それでは仲尾先生にお渡しします。

仲尾 宏：大変多くの「質問、感想を頂いておりますので、全部お答えしたいと思ひますが、時間もありますのでゆづくりした丁寧なご回答が得られないかもしれません、そのところはご容赦ください。それでは早速順不同で到着順に参ります。

「李さんは自分のアイデンティティ回復の為に戸籍の名の変更を申し立てておられるという事ですが、今話題になっている夫婦別姓についてどう思われますか。韓国では夫婦の姓は別姓のままと聞いていますが、夫婦別姓制度が導入されたら、あなたは将来どうなりますか。」韓国の夫婦別姓はこの前申し上げましたけれど、日本の夫婦別姓とはちよつと来歴が違いました。現在では夫婦同姓も認められるようになりました。「よく最近の事です。そういう事をふまえて李さんお願ひ致します。

李 洋一：はい。僕は夫婦別姓については自分で特に勉強した事がないので、どういう賛成意見があつてどういう反対意見があるのかについてはほとんど知らないんですけど。ただ自分が呼称李洋一として会社で働くにあたつて、会社の制度として夫婦別姓っていうのを認めているらしくて、その前例があるので僕の場合も認められたというか、因縁のようなものがあります。三番目の質問とかぶるんですけど、自分が例えば結婚しまして、娘が生まれたとして、娘は李姓になるとするじゃないですか。その場合娘が結婚するとなつた時に相手か自分かのどちらかの姓を選ばないといけない。相手が日本人の男性だった場合日本人の姓を選んでしまうとその子の民族性は名前から消えてしまう事になりますし、難しい問題だとは思います。さつきも言つたように僕自身夫婦別姓については全然勉強した事はないんですけど自分自身の直感で言えば、いいんじゃないかなと思います。

仲尾 宏：ありがとうございます。それでは次に参ります。これは私が最初に説明しました図表の事ですが、「基本的な事ですが図表のNは何を表しているのか。」これは私が説明致しませんでした、申し訳ありません。Nというのは例えば図の四の五を見ると二〇歳代Nは七となつておりますが、これはサンプル数で、答えて頂いた方の実数を指しております。それから「表の四の四の括弧の前の数字は何か。」これは私うつかり間違つていまして訂正しようと思つていたところです。例えば韓国朝鮮の強く思うQ（三九・一）Qは今申しましたNつまり実数で、三九・一がパーセンテージになります。この方は次のような感想を漏らしておられます。「表の四の四を見て強く思う事は中国七一・四パーセントの事。中国は外辺部に力をむき出しにしてきてる今、朝鮮人がアイデンティティを求めてくれる事は日本人としてもありがたい。東トルキスタン、チベットにあからさまな野心を示し、海上で潜水艦による強権を露わにしている今、ベトナム、朝鮮、日本等々、一九〇〇年前後の眠つたままの民族では困ると思つている。」こういうご感想です。今日のテーマと直接関わりありませんが、全部一応

ご報告致します。ただ、申し上げたいのは表の四の四を見ても、実数の总数が中国、台湾を含めて四二です。この方々が全部漢民族であるとは限りません。私の大学の留学生を見ても朝鮮族の人もいればチベット族もいればウイグル族の人もいれば客家の人もおりました。だから国籍上中国になつていても漢民族で、今の中華人民共和国の忠実な信奉者ばかりが日本に来ているわけではない事をお知らせしておきたいと思います。

次の方に参ります。「朴さんは民族名を名乗る事で自分の民族を表す事ができていると思います。お子さんはその血を継いで民族名を名乗られ、民族文化を継承されておられるのでしよう。帰化や創氏改名の歴史はあえて横におきますが、ただ気になるのは配偶者の方が日本人でいらっしゃる事。その方本人は朴を名乗る事で民族に対する思いはどんな想いになるでしょう。お子さんのパートナーも日本人ならば更に朴を名乗る事はどんな想いなのか。今回は名前がテーマですが、自分は結婚した時に、日本人同士ですが、相手の姓に変わった事の想いと重ね合わせて聞かせて頂きました。」こういう質問です、よろしく。

朴 実：先程も少し触れましたが、私が朴を名乗つて、彼女が元の名前を名乗つたんです。でも結婚の時にいろいろあります、彼女は昔勘当、戸籍を抜かれて、しかも誓約書を書かされ、もうこの家には二度と戻つてきません、親子ではありません、という誓約書を書かされまして、来たので、自分の元の名前を名乗るの是非常に抵抗があつたみたいですけれども、名乗る名前がないので、でも私は素敵なお名前だと思ってるんですけども。作る花と書いてサッカと読む。下の名前は清い子で作花清子。とてもいい名前なので、それをずっと名乗つて欲しかつたんですけども、先程話しましたように娘が名前の事でいじめられた時に、彼女はこの娘の母親として、この子は朴として背負つていくその歴史と一緒に生きたいと。そういう風に思つたみたいです。それから息子達が結婚する時に、相手一人とも日本人なんですけども、私も息子もどつち名乗つてもいいし、例えば朴井上とか、井上朴でもどつちでもいいって言つたんですけど、両方とも結論として朴を名乗るようになります

た。その背景には子ども達には小さい時からのいろんな問題があつた時、マジョリティとマイノリティがあつたらどちらかといふとマイノリティの側に立つて生きるようによつて。私達夫婦ともそのように言つて來たので、おそらく子ども達も、あるいはパートナーもそういう風な生き方を選んだと思つています。以上です。

仲尾 宏：ありがとうございました。次は李さんにですが「李さんはまだ若くていらっしゃいますが、もし日本人女性と結婚されたとしたら、悲しいかな日本の法律ではどちらかの姓を選択しなくてはなりません。差別云々ではなくそれぞれの民族、文化、アイデンティティという視点で困られるかもしれませんね。既にお相手がいらっしゃる場合はお答え頂かなくて結構です。」大変親切な方ですね。「どうぞ」自分の名前を大切に前を向いて歩いてください。」次の方の質問と合わせて一言頂ければと思います。「李洋一さんにお伺いします。現在名前を民族名にする手続き中だとお聞きしました。李さんは在日を楽しみたいと前向きに考えておられます、「両親や」兄弟からはどうな意見がありましたか。よろしくお願ひします。」以上です。

李 洋一：最初の質問なんですけど、相手はいないんで答えさせて頂きます。最初の質問とかぶるところもあると思うんですけど、日本人の方でも在日でもそうなんですけど、ぱつと見それぞれどういうルーツを持つてかかるかはわからないですね。肌の色とか目の色とか、髪の色とか一緒なんで、区別がつかない。そういう中で自分の民族性を大切にしようと思う人が自分の民族をアピールしようと思った時に、一番になるのが名前だと思ふんですけど、でも現行の制度として結婚するとなるとどちらかの姓を選択しなければならないので、すごく難しいなと思います。さつきも言いましたけど僕の直感として夫婦別姓いいんじゃないかなという感想があります。安易かもしれないんですけど。

次の質問なんですけど、僕が氏を変更するって言うんで両親は一応認めてくれてはいるんですけど、大賛成と

いうわけではなくて、やっぱり僕が将来在日だという事で差別されるんではないかという事を危惧して日本国籍を取得したわけですし、やっぱりすぐ心配はしています。氏変更の手続きについても、通るかどうかはわからなんですが、今からでも家庭裁判所に行って手続きはできます。一度会社で「李洋一」で働いてみて、その上で決断してくれと両親は言っています。兄弟は特に無反応で、勝手にすればという感じです。以上です。

仲尾 宏…次の方は感想だけです。「参考になつてよかったです。」参考になつてよかつたと思ひます。」以上です。初めてお越しになつた方です。

次の方は、「年齢別によるいじめや差別の表によると、あると答える割合が二〇代が突出して多いです。これは何かきっかけがあるのか。それとも在日という事を二〇代の方が強く意識したり、アイデンティティとの葛藤のようなものがあるのだろうか。」と、こういう事です。私もこれはよくわかりません。ひとつ考えられるのはサンプル数が、ニューカマーでも一〇〇人、オールドカマーでも一二五人という風にそれほど多くないので、絶対的な傾向とは言えないんですが、この辺は朴さん何がございましょうか。

朴 実…そうですね、後の表の被差別体験とかそういうものと正比例しているような気がしますが。

仲尾 宏…という事です。また皆さんもお考えください。

次の方「李さんにお尋ねします。民族名を受け入れて、採用された会社はどんな会社ですか。会社名に支障があれば業種や規模などその概要だけでも結構です。そういう企業が増えていけばよいと思います。」という「自分がお名前を書かれた」質問ですが、これはコーディネーターとして私が申し上げたいのは、採用というのはまだ内定中ですから、確実一〇〇パーセント採用と決めたわけではないので、会社名は出さない方がいいかと思い

ます。業種ぐらいでよければ教えてくださつていいですし、もしされも差し支えるようであれば、差し控えて頂いて結構です。

李 洋一：会社はマスコミ関係の会社です。そこは僕以外にも在日は二、三人いました。欧米系の人もいて、今年のテーマは人事部長は多様化と言つっていました。

仲尾 宏…ありがとうございました。次の方に参ります。「私の住む町内に韓国の家族が二軒あり、一軒が藤岡姓、一軒は朴姓の表札があがつています。今まであまり気にならなかつたのですが、少し意味がわかりました。」つまり本名と通名をそれぞれが表札であげておられるわけですね。「去年から韓国・朝鮮の古代史に興味が湧き、テレビドラマから講座に参加しています。今息子が韓国の女性と付き合つてゐるようなのですが、まだお会いした事がないのですが、もし結婚となればいろいろ不安がありますが、どのような考え方で接していくたらしいのかなと思います。生活とかしきたりとか風土とかどういう違いがあるかと思いますが心配です。」このご質問を読ませて頂いていると、その女性は在日の方ではなくて韓国から来られたニューカマーの方かと思います。それはどちらでもいいんですが、年配者として朴さん何か一言あつたらお願ひ致します。

朴 実：私も未婚の娘がいますのでとても心配なんですが、韓国では、特に本国では日本ではまだまだ朝鮮人差別、韓国人差別が強いと思われているのでそういう不安を除いてあげる事、そして親御さんがそういう人でないという事を示して頂きたいと思います。風土とかいろいろ違はあるんですけども、それは次の問題だと思います。一緒に住んでいけば新しい文化とか食べ物とかもいろんなものが生まれてくると思います。

仲尾 宏…ありがとうございました。

次の方です。「李さんの就職される会社は経営者はどういう方なのでしょうか。在日系?理解されるような動機があつて?まだまだ少ないと想いますが、日本人増えしていくといいですが。」先程も言われたようにマスコミ系という事で、在日系の会社ではないですね。という事でご了解ください。

次「人間の集合的無意識として、排他的な部分があるが、時折出てくる。特に国家とか権力とかシステムが絡むと残酷だ。マスコミを通じて流される政治、民主党政権に変わったけれど、こう運動していきたいとか、どういう想いを持つておられますか。地方参政権、高校無償化、拉致、強制連行、在特会。」在特会というのは、「在日の特権を許さない市民運動の会」というのができて、あちこちでかなり過激なデモをやつてる団体がありますがその事です。という事で、どういう想いを持つておられますか、と。国家や権力やシステムが絡むと残酷だと。「マスコミにも通じて民衆に流される事について、どういう想いを持つておられますか。」と、こういう政治に関わる問題ですので、お答えにくいかと思いますが、もしお答え頂けるようであれば、という前提で、お一人から一言ずつご感想を頂ければと思います。李さんいかがでしょう。お答えにくければペスして頂いて結構です。

李 洋一…ここで「在特会」っていうのが出てますけど、これは僕の中ですごく印象的な団体でして、朝鮮学校を襲撃したりとか、街頭でデモと称して朝鮮人は朝鮮に帰れとか、お前らキムチ臭いとか、ただ罵倒するだけのとんでもない団体ですけど。こういうのを見ていると、これは変えていかないといけないと思います。考えがまとまつてないんですけど。

仲尾 宏…結構です。では朴さん。

朴 実：二つの事のうちひとつは参政権問題の事、地方参政権問題、民主党になつたので、鳩山首相も非常に力を入れていたんですけども。

私は東九条で一世のオモニ達と一緒に勉強するオモニハソキヨというのをやつていて、今年で三二一年目になりますが、八三歳になられる一世のオモニが私の事を先生と言われるんですね。先生、今度は私らも死ぬまでに一回は投票行けるでしようかと言われたんで、私は行けるかもしれませんね、と言つたんですけど、残念ながら新聞報道見ると今国会では提出されないという事。やっぱりオモニ達が死ぬまでに一回投票したいっていう意思を叶えてあげたいと私は思います。

それと「在特会」の事ですけど、今言われたし、細かい事は言いませんけども、先々月に大勢で朝鮮小学校に押しかけて、子ども達にスペイの子、お前ら朝鮮帰れとか大きな声で怒鳴り散らしてましたけども、明日午後三時から五時に東九条にある在日一世の為のデイサービスをやつてるエルファアという所があるんですけども、北松ノ木町に。そこでは在日外国人の無年金訴訟の事務所を構えているんですけども、それを見て「在特会」が明日三時に襲撃するという通告をしてきました。三時つていうのは一世、一二世のお年寄りがちょうどデイサービスを終えて出られる時間帯で、非常に狭い所です。ああいう所に五〇人ぐらい押しかけてあの音量で怒鳴り散らすと、パニック状態、特に一世の人達は昔差別を受けた非常に辛い経験をされているので、急に血圧が上がったりされるかもしれませんし、とても心配です。それでエルファアとしては敷地からは出ないで、一階に喫茶室がありますし皆さんコーヒーを飲みに来てエルファアを支援して欲しいと理事長も言つております。

仲尾 宏：私もエルファアに関わっており、在日無年金裁判を支える会の共同代表もしておりましたので、明日は心配な一日です。大嵐になつてデモどころじゃなくなつた、という事が一番望ましいと思っておりますがそうはいかないでしよう。ともかくそのような非人道的な行為が未だにあるという事はとても悲しく許せない事だと

思つております。

次の方に参ります。「過去にあつた様々な悲しい、重苦しい出来事がなぜ起つたのか、知る由もないのですが、遅々とした歩みかもしませんが、皆が気持ちが軽くなる、本当に笑つて暮らせる社会がきっと来る」と信じています。私共日本人は日本人がしてきた事をしつかりと見据えて、低い心、低い気持ち、低い立ち位置をしつかり意識して過ごしていきたいと思います。」こういうご感想です。低いという言葉は驕らずにというような意味合いいかと思います。

次へ参ります。「私は在日コリアン三世です。お二人共お話を聞かせて頂いて、人生に対する熱さを垣間見たように思いました。朴実さんは朝鮮民族や韓国人独特の人生の哲学みたいなものが言葉から出てとても尊敬できました。李洋一さんはお若いのに大人としてとてもできてはつて、賢そうだなと思いました。京大生さんですか？」というご質問です。いかがですか。京大生だそうです。

次の方に参ります。この方もご感想です。「民族名を本名としている方、通名を利用していらる方、共に小さな頃から身近にいました。私自身は名前について違いを感じる事はあまりなかつたように思います。ただ親世代や李さんのように住む地域により思いに違いがあるのかなと感じます。在日の方と結婚を予定していますが、氏についてはまだ十分に相談できていない為、今回のペネリストのお二人のお話は今後の参考になると強く感じました。それぞれのアイデンティティを尊重できるようにと私は思っていますが、社会全体として民族名で生活する事を心配しないような世の中になればと思います。」この方は在日の方との結婚を予定していますと書いておられます。うまくいきますようにお祈りしております。

次はご質問です。「朴実さんへ。子どもに教育をしようとした時在日である自分の朝鮮の文化、言葉、歴史の欠如を思い知らされたとの事でした。今、在日の文化、言葉、歴史が純粹な朝鮮のそれらとまた異なつたものとして有り得るでしょうか。当時は有り得なかつたのでしょうか。」というご質問です。純粹なと言うのは在日

とは違うという意味での事だと思います。李さんに対しても「民族名を持つて生きていくとしている事について、ご両親はどんな思いを話しておられますか。」これは先程お答え頂いたんですか、追加する事があればおっしゃつてください。それじゃ朴実さんお願ひします。

朴 実：最初朝鮮文化、言葉を勉強しだした時は、何でも向こう風にしないといけないと思って子ども達にもそういう風にしようかと思いましたけども、やはり文化とかそういうものは環境とかそういうものとの関係性が大きいですね。特に気候とか。例えは私はあまり食器を手に持たないんですけど、子ども達は食器を樂に持つて食べますけど、日本などでは食器を手で持つて食べる事は普通ですね。朝鮮民族は必ずスジョといつて箸とスプーンがありますけども、向こうは金製の食器で、しかも熱いスープが出てきて気候も寒いですから、日本は比較的暖かくて陶器のものが多いですね。そういう中で知らず知らずの内に混ざり合った文化という風になつてきます。東九条マダンでも感じるんですけども、生野民族文化祭とかいろんな周辺にもそういうのはあるんですけど、いろんな人がいます。純粹に向こうの文化を取り入れてそれに追いついてそこから学ぼうという人もいますが、どちらかと言うと私は先程言つた和太鼓サムルのような、去年はサンサ踊りを取り入れてサムルノリでそれを表現していくとか、そういう志向で、在日は在日としての新しい文化を探していくという志向で、子ども達にもそうして欲しいと思います。ただし、大切なものの、自分達がなぜここにいるのかとか、人間としてのいろんな大切な事だけを押さえて欲しいなど私は思っています。

仲尾 宏…李さん、今おっしゃった文化の事についても、もしも感想があればおっしゃつてください。

李 洋一…まず両親の事については特に追加する事はないです。僕の将来について心配しているという事です。

文化については、特に僕の家族に言える事なんですが、僕以外は帰化してそのまま朝鮮のチエサであるとか、食べ物だとか、そういったものから徐々に離れていくような感じが今あるので、主体的に自分が引き継いでいかないといけないなとは思っています。

仲尾 宏…ありがとうございました。私も今の朴さんの食事の話を聞いていて感じるんですが、韓国へ何度も行つていると、熱い味噌汁や、白いご飯をスプーンで食べる。ナムルやキムチをつまむ時だけお箸を使うという習慣に自然になつてしましました。日本に帰ってきたらまた日本式ですね。おそらく在日の方も日本に住んでいるわけですから、日本式の生活習慣に慣れているのはこれは当然だと思うんです。ただ、そういう形の習慣ではなくつて朴さんがおっしゃったように、心とか、歴史とか、在日としての思いとか、そういうものの方がむしろ外形的なご飯の食べ方がどうこうと言うよりはもつと大事な事じやないかという事を、横にして改めて気付かされたような気が致します。逆に私達日本人もヨーロッパへ行けばヨーロッパなりの礼儀にあつたような事をしますし、そこの国へ行けばそこの国のような形を真似る事が必要な場合もあるでしょうし、また必要じやない場合もあると思いますからそこは使い分けていいのではないかと、思つております。むしろ今言われたような文化や歴史に対する深い心の中の思いというものが、どのように継承されていくのか、という事が一番大きな課題じやないかと私も改めて思いました。

その次は最後になりますがご感想です。「二〇世紀の朝鮮人差別は大変ひどかつたのだろうと思う。歴史を学ぶ事でなんらかの解決策が見つかるのではないか。朴さんの話に感動しました。」以上です。

以上で今日全部で一四件のご質問、ご感想を頂きました。ありがとうございます。それぞれのご質問の中に「自分と地域、職場を含めて、在日の人との関わり方について、名前だけの事でなくともいろいろ考え方なきやいけない」という事を、気付いて頂いた事が大変嬉しかったと思います。またお二人には率直にお考えを述べて頂

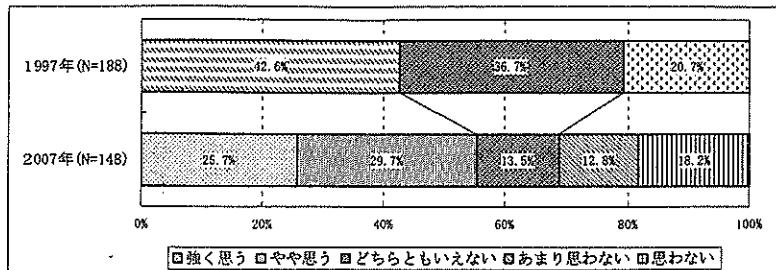
く事によって、会場の皆さんと心の触れ合いが深まつたような気が致します。このフォーラムまだ今年はあと二回ございますので、是非とも引き続きお越し頂きますように私からもお願ひ致します。それではどうもありがとうございました。

司会…ありがとうございました。第一回目のチョゴリときものを終了致します。次回また金曜日に皆様にお目にかかれますようにお待ちしております。ご意見表を記入して頂けました方もありましたらお帰りの時にお渡しください。お願ひします。

京都市在住コリアンの本名使用状況

『京都市外国籍市民意識・実態調査』2007年から

図4-2 母国言葉や文化に関する教育（オールドカマー）



*前回調査(グラフ上側)においては、「思う」「思わない」「どちらともいえない」の3つの選択肢で質問した。前回調査の「思う」は本調査(グラフ下側)における「強く思う」「やや思う」に、前回調査の「思わない」は本調査における「あまり思わない」「思わない」にそれぞれ相当するものとして比較している。

図4-3 母国言葉や文化に関する教育（ニューカマー）

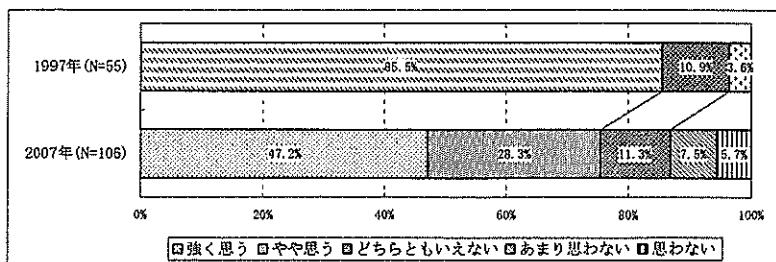


図4-4 いじめや差別（オールドカマー）

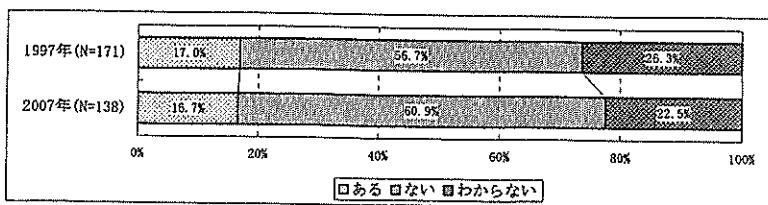


図4-5 年齢別によるいじめや差別（オールドカマー）

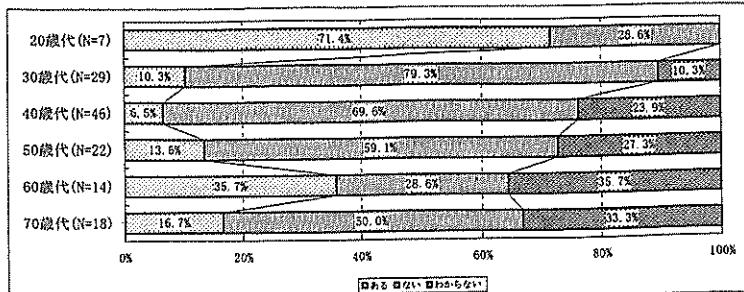
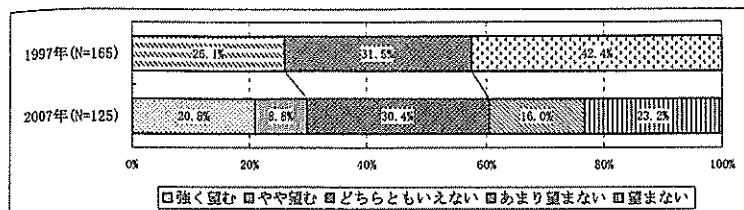


図4-6 子どもの本名使用（オールドカマー）



*前回調査(グラフ上側)においては、「望む」「望まない」「どちらともいえない」の3つの選択肢で質問した。前回調査の「望む」日本調査(グラフ下側)における「強く望む」「やや望む」に、前回調査の「望まない」は本調査における「あまり望まない」と「望まない」にそれぞれ相当するものとして比較している。

図4-7 年齢別による子どもの本名使用（オールドカマー）

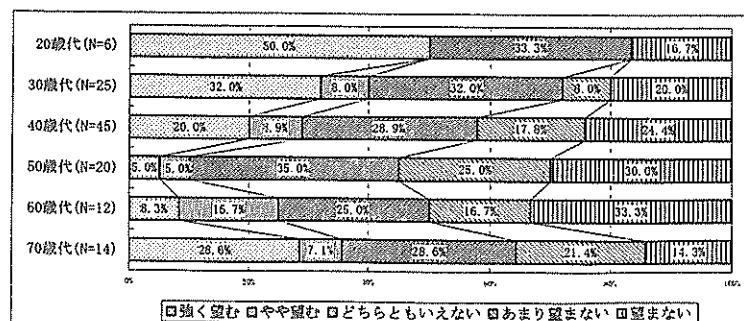


表4-4 國籍別による母国の言葉や文化に関する教育（ニューカマー）

	強く思う	やや思う	どちらともいえない	あまり思わない	思わない	合計 (%)
韓国・朝鮮	9 (39.1)	10 (43.5)	0 (0.0)	2 (8.7)	2 (8.7)	23 (100.0)
中国（含台湾）	30 (71.4)	6 (14.3)	6 (14.3)	0 (0.0)	0 (0.0)	42 (100.0)
その他アジア	4 (17.4)	8 (34.8)	5 (21.7)	4 (17.4)	2 (8.7)	23 (100.0)
ヨーロッパ	4 (44.4)	2 (22.2)	1 (11.1)	1 (11.1)	1 (11.1)	9 (100.0)
北アメリカ	0 (0.0)	2 (100.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	2 (100.0)

第三回 「『民族名』と『日本名』」

パネリスト

陳 太一 氏

野村 浩二 氏

ヨーディネーター

仲尾 宏氏（京都造形芸術大学客員教授）

二〇一〇年三月十一日（金）開催

司会…皆さんこんにちは。チョゴリときもの第17回の三週目を開始致します。本日は「『民族名』」というタイトルでお話を頂きます。早速ですが、本日のペネリストをご紹介致します。最初にお話し頂きますのは陳太一さんです。よろしくお願ひ致します。陳さんは日本国籍をお持ちの方で日本名と本日の陳太一という民族名とで活動されています。次にお話し頂きますのは野村浩一さんです。よろしくお願ひ致します。野村さんは韓国籍で、「自分の野村浩一」という名前が今自分にしつくりくる。いろんな考え方をお話し頂くよう伺っております。

コーディネーターはいつもお願いしております京都造形芸術大学客員教授の仲尾宏先生です。よろしくお願ひします。

仲尾 宏…皆さんこんにちは。早くも二回目になりました。今日はタイトルとしては、「のチラシには「『民族名』と『日本名』」と、ついております。全体としては今年は名前から考えるという事になっています。「」で民族名というのは日本人にとつてはもうひとつピンと来ないんですが、私の名前、仲尾宏というのは民族名ですね。皆さんもそれぞれ民族名を持つてらっしゃるわけですが、なかなか民族、あるいは民族名という言葉を普段使わないものですから、わざわざそういう事を言わねばならないのかという思いもあると思います。ところが日本に住む民族的マイノリティの方々、在日の方々がその代表ですが、やはりそれは民族名であるという事を自覚なさっていると思うんです。民族的にマジヨリティといいうのはなかなか民族という考え方、観念あるいは意識がなくても住んでいける社会。マイノリティの方についてはそれがいろんな意味で大きな問題になる。人生の節目節目に問題になるというような事を味わつておられると思うんです。そのへんのところを今日はお一人に「」自分が人生の中からの思いをいろいろ話して頂きたいと思います。

先程の「紹介にありましたように、お二人の国籍が名前とはまるで反対なんです。陳太一さんは日本国籍、野

村さんは韓国籍です。そうすると国籍イコール民族という事でもない事がわかりますね。つまり私の場合でしたら日本国籍を持ち、日本の民族名を持っているという事だけですが、在日の方々にとつてはふたつもみつともいろんなケースがあると。そこで、じやあ民族とは何か、本名とは何かという事を改めて考えさせられるという思いを持つてらっしゃると思うので、そんな事を考えながら私達日本人も民族とか国籍とかいうものをもう一度考え直す機会になるんじやないか。そんな思いを持つてお二人と今まで話をしておりました。

それではまず最初に陳太一さんの方からよろしくお願ひ致します。



陳 太一 氏

陳 太一：陳太一です。座りながらで失礼します。僕の方でレジュメを用意させて頂きました。本当の自分に出会うままでというタイトルで、僕の生い立ちをざつと書いてあります。これに沿いながらお話したいんですけど、最近いろいろ公演に呼ばれてまして、この内容を話をするんですけど、大体一時間くらいかかるつてました。今日二〇分くらいのお時間ですんで、真ん中の日本名と朝鮮名の両立という所を中心にお話したいと思います。

まず僕の自己紹介なんですが、一番下に書いてあります。四一歳で今バスの運転手をしております。ハンマダンっていうグループが京都市南区を中心に活動しているんですけど、ハントっていうのはひとつ、マダンは広場っていう意味です。韓国・朝鮮の民族打楽器や、いろんな劇、また歌を歌つたりして自分達の表現をしています。ハンマダンのメンバーには当然日本人も一緒にやっております。障害者の方もおります。ハンマダンのメンバーといろんな団体がいっぱい集まつて、下に書いてある東九条マダンというものが毎年秋に行われてます。今年は一月三日。大体一月三日なんですけど、この東九条マダンは地域のお祭りなんですけど、ハンマダンのグループと他のいろんな団体が協力しあつて東九条マダンというお祭り

をやつております。両方とも代表になつています。ハンマダンは以前から代表をしているんですけど、東九条マダンは去年実行委員長に選ばれたというか押しつけられたというか、無理矢理やらされたというか。とりあえず僕が受けたので、受けた以上は自分なりに頑張ろうという事でやつてます。

両親共々元韓国籍で、僕が一七歳の頃に帰化しました。弟が二人いてるんですけど、男三兄弟でふたつずつ離れてます。出身は大阪なんですけども、大阪東成区今里っていう地域でここは在日の密集地域になつていて、生野区の隣にある所です。そこが出身で、学生生活を送ったのは東大阪の長瀬という地域なんんですけど、この引っ越した先が被差別部落の地域でして、そこで小中高と過ぎました。

緊張してまして、過呼吸で息ができなくて、すみません。

さつと自己紹介したんですけど、自分は陳太一って今名乗つてるんですけども、もうひとつの名前、福本泰市っていう名前があります。これは職場で使つてます。今日はここには書いてないんですけども、僕はこの陳太一と福本泰市っていうふたつの名前をすごく大事にしてます。今は東九条マダンとかハンマダンの代表をしていきますんで、陳太一という名前が非常に前に出てます。ですけど僕の福本泰市っていう名前で生きてきた人生はかなり時間がありますんで、僕はそれを捨てたくないんです。陳太一と福本泰市っていう名前両立してるんですけど、この名前使う時に周りの人から散々に批判を浴びました。特に陳太一っていう名前名乗つて日本籍という事で、お前どっちやねん、どういう立場で自分はいんねん、と。また福本泰市っていう名前を名乗つた時に、ある在日から裏切り者、結局自分の民族捨てた、っていう風に言われました。そのような背景があるんですけど、小学校時代からずっと、簡単ですけど自分の生き立ちを話していきたいと思います。

まず本名を知ったのは小学校四年生の時なんんですけど、お母ちゃんの財布からお金取る時、一〇〇円、一〇〇円たまにいたずら心で盗むんですけど、その時に財布の下に保険証があつたんですけど、これを僕は鮮明に覚えてるんですけど、そこに福本じやなしに陳つていう名前が書いてあつたんです。これは自分で不思議に思つて、

小さい時から親戚の人らをアジェエとかイモとか、お祖母ちゃんの事をハンメとかいう呼び方をしてて、ちょっと人とはちやうな、という事を感じてました。だけど自分が朝鮮人とかそういう事もなんの意識もなかつたんです。僕が引っ越した先、先程言いました被差別部落に青少年センターというものがありまして、そこは中心的ななつているのは部落解放同盟なんですけど、大阪では部落解放同盟と朝鮮人の問題つていうのはその頃から一緒にやつてたんです。一緒にやつてたって言うのはお互いの問題を協力し合つてという事です。大阪の在日の人数は半端じやないんで、その地域でも住人の三分の一は在日の方でした。ですので、問題にせざるを得ない状況があつて解放同盟と一緒に協力し合つて在日の問題を扱つていたという事で、その中で玄先生という人がいました。チンとヒョンつて名前似てますよね。この人に聞いたらええんやつて思つて、尋ねました。そうするとお前朝鮮人や、と。ここで僕が朝鮮人つて言うのは、韓国・朝鮮合戦した言葉で、僕が小さい時そういう風に教わつたんで未だにそういう言い方してます。その玄先生がお前朝鮮人や、下の名前なんや、それやつたらティルやな、お前チン・ティルや、とはつきり言わされました。僕はすごい動搖しまして、「福本つていう名前あんのに何で陳太一つていう名前…」「保険証に書いてあつたんやろ、それがお前のほんまの名前や」という事で初めて知りました。

その地域は先程言いましたように運動が盛んで、玄先生がしてるアリランの会というのがありますて、そこでいろんな在日の問題を学びました。また、部落問題もその時に一緒に活動する中で石川さんの問題とかいろんな事を小さいながら、小中学校の時にそこで活動してましたんで、いろんな事を知つたわけなんです。

学校は福本泰市で通つていたんですけど、中学校の時にいろんな出来事が起つたんです。その中のひとつとして、作文の時間があつたんです。作文では自分の一番大事な事、思う事、気になる事、家族の事、そういう事を書きなさいと。これは生活体験作文っていうもので、そこで初めて自分が陳太一つていう事を作文にしました。

そしたらそれがクラスで選ばれ学年で選ばれ全校生徒の前で発表する事になつたんですけど。僕は福本泰市で学校行つてんのに陳つていう名前っていうんは皆も聞き慣れないんで、差別されるかな、とか皆にいじめられるかな、とかいろんな事を考えました。だけど最終的に先生の後押しもあって陳太一っていう事を全校生徒の前で話するんですけど。当時本名宣言、自分の本当の名前を全校生徒の前で名乗つてそこから本名で学校に通うつていう事がすごい学校的に、僕の世代はブームやつたんですけど。一九八四年に中学校を卒業しますんで、その前後ぐらいに本名宣言というのは学校では行われていました。僕も生活体験作文を読んで、中学校三年生の文化祭で僕は陳太一ですと名乗りました。そこから胸の名札は福本じやなしに陳つていう名前でしばらく学校通つてました。そういう自分の思いと裏腹に中学校を卒業する間近に親が帰化をするつていう話が出たんです。僕がせつかく陳太一って皆の前で名乗つてこれから陳で生きていこうとしてんのに、親が帰化するのはやめてくれとしがみついて親に言いました。その当時親は自営業してまして、鉄工所してるんですけど、親会社から日本籍にならないといい仕事がもらえない。お前ら飯食わしていくねんからそれは仕方ない、と言われました。当然ながら中学生なんか親にすがつて育てられて生きてるんで諦めざるを得ない状況になつて、結局中学校三年生の時卒業する間に帰化申請を出すんですけど、それまでにこれから本名を名乗つて生きようとした自分をどうしたらええかつていうのをすごい考えたんですよ。でも結局捨てるしかないな、陳太一も捨てようつてこの時に決意したんですけど。文化祭で本名宣言しておきながら、卒業証書の名前は結局元に戻して福本泰市にしました。それが僕の中の一番の心残りになつています。なぜ僕は本名宣言して陳つて名乗つたのに陳太一で卒業しなかつたなんかな、と。帰化した今、その時にしか陳という名前が残らなかつたのにな、とすごい後悔しました。そこから日本人として生きていこう、帰化申請をしたんやけども、当時帰化申請の許可が下りるまで一年半ぐらいかかつてます。その間に自分の中の決意としては、どれだけ朝鮮人の自分を捨てれるか。その一年半の間に、今まで習つてきた全ての事とか、朝鮮人のちよの字も聞きたくない状態で、全部一生懸命捨てようとしました。ですけど、そ

う簡単に捨てれるもんじやないですね。家の法事の儀式とかも朝鮮式なんです。親戚の人を呼ぶにはアジエ、イモ、コモ、ハンメ、ハイベって呼んでるんです。そのへんは全然変わってないんです。だけどそれ以外のものは全部捨てようつて思いました。ただ親戚との呼び名もそうなんですけど、やっぱり変えなあかんなど思いました。日本人なんのに朝鮮名で呼んでるのを聞かれたら周りの人は変に思うやろうという気持ちもいっぱいあって、結局は捨て切れなかつたんですけど、呼び名はそのままにして。一七歳の時に帰化申請が下りて、自分の中では複雑な気持ちでした。ほつとしたとは言わないんですけど、この問題から解放されるという事でほつとしたかな、という。ただ僕が帰化せんといてくれつて親にしがみついた時に、自分のアボジとオモニが言った言葉未だに忘れられないんですけど、昔と何も変わらへん。自分の中に流れてる血も変わらへんし、家の儀式も変わらへん。自分の心中でそう思とつたらええねん。つてはつきり言われて。それで納得した部分もあるんですけど。名前とらわれず国籍とらわれず自分の気持ちだけしっかりと思つてたらええっていう話なんです。

社会人になつて差別事件、これが二歳ぐらいの時になるんですけど、僕は工業高校出てまして、そのまま鉄工所に勤めました。二十歳の時に京都の会社に勤めて京都に出てきました。京都の入つた会社は不動産関係の仕事でして、そこで一〇年間その会社にいたんですけど、入つてしまはらくして、賃貸のマンションをいくつか持つていたんですけど入居の申し込みがあつたんです。その時に国籍韓国つて書いてあつた人の申し込みがあつたんですけど、僕の先輩の人がこれ韓国人やわ。ちょっとやめとこか、つて言つたんですよ。何でですかつて聞いたら、家で焼肉するやろ、キムチ臭くなるしな、つてはつきり言いはつて、僕はその時高校出てからずつと日本人として頑張つて生きていこうつて決めてたんで、帰化おりてからずつとその言葉を聞くまでずっと日本人として頑張つて社会に出て生きてきたんですけど、その言葉聞いた時にスイッチが入つた感じがして、ちょっとこの人の言うてる事ちやうんちやう、つて思つたんです。韓国人やから入居断つて、次の申し込み日本人の人やつてこの人やつたら大丈夫やろつてなつて、僕その人に楯突いたんですけど、なんで韓国人やつたらあかんのですか、

家で焼肉するつてそんなん決まってないでしよう。と言つたら、するかもしれんやろ、言われました。どこをどういう風にその人は聞いてきて見たりしてきてるのかわからないんですけど、過去にそういう人がいたかもしねいですけど、はつきり言つてすごい侮辱された思いがしました。自分の身に置き換えてしまったと言うか。これをきっかけに自分がいろいろ動き出すんですけども、そつからいろいろなところ、京都でいろんな知り合いの人を辿つて最終的に行き着いた朴実さんという人にお会つて、朴実さんといろいろ話している中で、朴実さん自身は日本籍を持つてはつて、朴実つていう名前を裁判で取り戻して、そうやつて生きてはる人とお会つて、僕がその時に思つたのは僕でもこういう活動できるんや、なんも帰化したからつて日本人にならんでもいいんやつてこの時に始めて思いました。そこから朴実さんが当時やつてたハンマダンつていうグループに入りました、入つてから三年ぐらい経つて東九条マダンが始まるんですけど、第一回からずっと関わつてます。ハンマダンもそれからいろんな公演活動したりとかやつてます。ただ悲しいかな、自分の会社にいくら抗議とか何をしようとも何も解決されなかつたんです。それは仕方ないので、自分も飯食つていかなあがんので、仕事上では止むを得ないと諦めました。

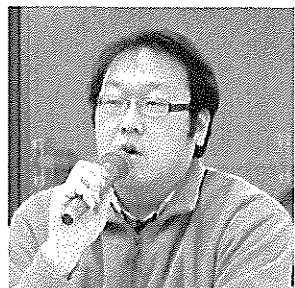
その会社一〇年で辞めてまた次の仕事に移るわけなんですけど、さつき申しましたように僕が本名知るまで福本泰市で生きてきた期間が何年があるわけなんんですけど、それを僕が例えば民族名取り戻して福本泰市を捨てるつて事は僕の人生が消えてしまうかな、そんな思いがしたんですね。だからここに書いてあります日本名と朝鮮名の両立、僕はこれから生きていく人生の中でいろいろ迷いがあるんですけども、この両立した名前、陳太一と福本泰市。福本泰市を捨てれば僕の福本泰市で生きてきた人生が消えてしまう。それを消したくない。僕の人生こそが在日朝鮮人のある姿じゃないかなと思うんです。ここで僕が皆さんにお話する事は、朝鮮人側の立場からすれば、何を言うどんねん中途半端な、裏切り者が、みたいな感じで受け取られます。日本人側からしても、帰化したからつて日本人じやないやろという風に思いはる方もいはります。だけどこの両方の名前を本当に大事に

していきたいなと思います。今の職場でも福本泰市という名前を名乗つてはいるんですけど、東九条マダンやつてからつて新聞載つたりとかたまにテレビに映つたりします。すると職場の人が聞いてきます。自分こないだテレビ出とつた？太鼓叩いてたやろ、あれなんなん？あれは韓国・朝鮮の太鼓でチャンゴつていいます。マダンという活動してます。本当の名前は在日なんで違う名前持つてます。今必ずそれ説明するようにします。今の職場も一〇年経つたんですけど、皆さん僕が在日で東九条マダンの活動してる事は知っています。それは面白くさいけども一個一個説明して一〇年かかつて積み上げてきたもので、福本泰市、陳太一っていう名前があつてそれを今職場の人にも理解して頂いています。だからこういう活動もできて、東九条マダンもできて、という風に思つております。

時間が来ましたので話を終わりたいと思います。以上です、ありがとうございます。

仲尾 宏：ありがとうございます。いろんな思いが込められていた言葉ですが、時間の関係ありがとうございます。また後の質問に対するお答えの中で今の中に込められていないものがあつたら、追加でいろいろお話を頂けたら幸いです。その次、野村浩二さんお願ひします。

野村 浩二：皆さんここには、野村浩二といいます。こういう所ですので非常にあがつております。予定して何をしゃべらうかと考えていた事をちゃんとしゃべれるかどうかわからんのですが、よろしくお願ひします。僕はペネリストとして名札の所に野村浩二と書いておりますが、韓国籍の朝鮮人です。民族名はノ・ホイといいます。ホイというのはここに浩二って書いてあるこれの韓国語読みがホイです。ノは韓国の大統領で盧泰愚、盧武鉉、あの盧です。本貫は、本貫ってわかりますかね。例えば金さんでしたら金海とか出身地を表すものなんですけど、それが交河という所で交河の盧氏という一族の末裔となっています。



野村 浩二 氏

普段から野村浩二という名前を使っております。会社でもそうですし学校でもそうでしたし、ノ・ホイという名前を使う事はほとんどありません。外登証の切り替えとか、例えばスピード違反をしてしまった時とかに、免許証にはそう書いてありますんで、ノ・ホイというのを書いたらはしますがそれ以外はほとんど野村浩二という名前を使つております。

父親も母親も両方の祖父、祖母も全員朝鮮人です。例えば在日のコミュニティに何かの集まりで行つた時にですね、野村浩二という名前を言いますと、本名は何ですかという質問を必ずされます。野村浩二を自分の本名のつもりとして使つてはいますが、つていう事になると、必ず在日関係の人からはですね、お前は民族の裏切り者だとか何とかんとかつていう事で、昔大学生の時に一六対一の大喧嘩をした事がありますが、まあそんな事はどうでもいいですね。

一九六九年一〇月二九日、旧暦の九月一九日に大津市で生まれました。小学校、中学校、高校は全部公立の学校。普通に野村浩二という名前を使つていました。さつきの太一さんの話を引っ張るかたちになるんですが、小学校一年ぐらいの頃ですかね、保険証には野村という名前で書いてあつたんですが、親父の免許証に民族名と日本名が書かれている。国籍が韓国という書き方をしてまいたが、そういう事で日本人ではないっていう事を親父とお袋に教えられた。朝鮮人だと。韓国人という言い方は家ではあまりしなかつた。朝鮮人という言い方をするのが家族の中では普通でした。小学校へ行き出すと自分が朝鮮人である事は言わずに隠します。絶対言うなよ、と親父・お袋には言われていました。当然テストの答案にも野村浩二と書き、普通に自分の名前を言う時も野村浩二と書き、ところが、小学校に通学する時ですが、ある中学生と同じ時間帯に同じ場所ですれ違う。それ違うとね、俺の顔見て朝鮮人、つて言うんです。それが約半年ぐらい続いてて、最初朝鮮人つて言ってたのが、こんな所で何してんねん、国へ帰れ、キムチ臭いぞ、どつか行けっていう事を言われるようになつたんです。学校へ

通う前に朝鮮人である事を自分からは言うなと言われてたんだけど、言われた当時はそう言われても実感がなかった。ところがある中学生に声を浴びせられ、時には石投げられていう事がありましたんで、子ども心にものすごく辛い思いをしたという記憶があります。

小学校も中学校も公立だったんですが、中学校は当然入学すれば卒業致します。卒業すると卒業式に出て卒業証書をもらいます。名前を呼ばれるんですが、これは予定してた話じゃないんですけど、通っていた中学校の卒業証書の授与式の予行演習があるわけですよ。そこで名前を呼ばれて立つ練習をするんですけど、私の名前だけ呼ばれなかつた。私は座つたままでした。なんでや、と聞いたところ、何と言つたかと言うと、お前の名前をどう呼んで呼ぼうか迷つた、と。どうすんねやと思つたんですけど。実際卒業式では日本名で呼ばされました。普段から使つてている名前です。それで卒業証書をもらつて家に帰りました。夕方の四時頃です。私の担任が、大嫌いな担任でしたけど、私の家に来ました。民族名ノ・ホイと書かれた卒業証書を渡し、日本名で書かれた卒業証書を返せと言つてきました。親からは日本名を使い続けると言わされて小学校中学校とずっと使つてきた。一方で民族名つていうもの、ノ・ホイという名前を持つてゐる。ノ・ホイと言つてますが実際には日本読みでロ・コウジという言い方をするのが多かつたんですが、両方持つてゐる。日本名を使い続けなければ、京田辺市つていう所はあんまり革新的な勢力もありませんので、表立つた行動をするといじめられる、危害を加えられるつていうような所で生きてきましたんで。話は戻りますが、最初日本名で書かれた卒業証書をもらつて、夕方に民族名で書かれた卒業証書をもらつて、その時に日本名で書かれた卒業証書を返せと。俺はその時に短絡的になんて日本人は勝手な民族なんだと思いました。その時自分自身の中で民族という事に対する思つていうものがちょっとと膨らんだ。高校に進みました。高校で三年間を過ごし、卒業しました。卒業したんですが、卒業式で日本名で書かれた卒業証書をもらいました。家帰つて来て、中学校の時と同じです。夕方の四時ぐらいに担任の先生が家へやつて来て民族名で書かれた卒業証書を私に渡しました。その時に中学の時と違つたのは、担任の先生が

おつしやいました。今あなたに一枚卒業証書を渡す事はできない。ただ、私があなたに時間をあげたい。一〇年後でも一〇年後でも三〇年後でもいいから、あなた自身が本名だと思つた卒業証書を手にしてもう一枚を返してくれたらいい。時間はなんぼでもあるからじっくり考えてください、と。この話をいろんな所ですが、人によつてはなんて勝手な事をする先生なんやつていう風に言わはるかもしけんのですけど、少なくとも俺はその先生に感謝してるのは、普段日本名を使って生きてきたつていうのもあり、一方で民族名を持つてゐるつていのもあり、名前つていうのはなんなんや、民族つていうのはなんなんやつていう事について考えさせてくれるきつかけになつた事です。中学の時は人権問題、在日の問題もそうですし部落差別の問題、いろいろな問題がありますが、あんまり興味を示す学校ではなかつたんですが、高校に関しては府立の学校なんですけども、人権という事についてすこくよく考えて対処していました。学校に露骨な表現ですが同和部つていうのがあつたぐらいですでの、特に人権問題に関しては厳しいぐらい意識が働いてたんではないかと思つております。

高校卒業して大学出で今は一般企業で仕事をしておるんですけど、その中でも普通に野村浩二という名前を使つております。自然に野村浩二と言ひますし、野村浩二と書いてしまいます。当然野村浩二という名前が創氏改名という歴史の流れから来ているという事は私もわかつております。そうでありながら、自然に使つてしまつてゐる。そこを大事にしたいな、と。一方で民族名を持つてゐるという事に関しては捨てるつもりはないですし、否定するつもりもないですし、どつちが本名やねんとも考えた事がない。両方ある、両方とも自分だと思つております。

私今四〇歳ですが、こつから先例えは自分の人生の中で他の名前が僕自身に付けられた、もしくは自分でその名前を付けたとしたら、例えはそれが三つ目の名前だつたらそれでもいいかなと思つたりもします。名前つていのは僕はひとつでなかつたらいかんとは思つてませんし、いつつあろうが一〇あろうが一〇〇あろうが自分は自分ですので、それが自分らしさつていう事であればそれを大事にしていきたいなど思つてはおりますけども。

今皆さんもお持ちの、仲尾先生が作られた在日コリアンの子どもと思いつていう一枚の紙に在日の方が書かれた文章が載っていますけども、これを読んでおりますと共通する部分がものすごく多いんですね。ばれたらどうしよう、人には絶対言わないというテーマが書かれていますけども、本当に共通するところが多い。韓国・朝鮮籍の人間であっても日本国籍取った在日の人でも、韓国・朝鮮であるというルーツを突き詰めていくと結局日本という国の中ではこうなってしまう。なつてしまふという言い方は語弊があるんですが、こういう思いであるつていう事は二十歳になろうが四〇になろうが六〇になろうがこういう思いを持ちながら生きて、死んでいくのかなと思つてはおります。

表現の整理がつかへんかったんですが、ひとまず終わりたいと思います。ありがとうございます。

仲尾 宏：ありがとうございました。今のお二人のお話、それぞれそんなに長くない時間でしたけども、本音、本心を語つて頂いたので何かひとつずつストンと落ちるような思いを私も致しました。お話の中に出でてきた事を少しだけ解説させて頂きますと、最初の方に本貫と言われました。これはブックの本と、一貫、二貫の貫でホンガンと言いますが、これはお父さんの先祖の出身地という意味ですね。例えばお父さんが釜山の先祖を持つてそれを引き継いで来られたらその本貫は釜山である。その朴氏であるとか金氏であるとかいう事になります。それから卒業証書の問題ですけれども、卒業証書というのは公文書です。発行権者はそれぞれの学校の校長先生です。何々学校校長〇〇と書いて発行されるのですから、これは形式的に言うと嘘があつてはなりませんから、本名で書くんだ、とこういう事になりますね。ところが子ども、保護者とも通名、日本名で通っていると、今のお二人の話のようなケースが出てくる。それで担任の先生が苦慮されるという事にもなる。教育委員会は、学校の校長先生の判断に任せると言つて統一見解を出していないようですから、学校によつても対応が違うんじゃないかと思います。それは名前だけではなくてですね、生年月日を西暦で記すか和暦で記すか、あるいは

発行日、三月二一日なら三月二一日の頭に来る年を二〇一〇年にするか平成二二年にするか、それにも関わってきます。京都市内の学校で在日の保護者の方から両方とも西暦じやないと、卒業証書、公文書と言つても外国へ持つていつたら通用しない。だから西暦にして欲しい、という事があつて、それを巡つて受け取る、受け取らぬいともめたケースもございました。普通の日本人にとってはおよそ考えられないような名前の書き方、西暦か和暦かという年号の問題があるんですね。そういう事を含めて日本の社会の民族という問題の扱い方、考え方がいろんな意味で揺れているという事を改めて感じました。

今野村さんが取り上げて下さいましたように、私は、「在日コリアンの子どもの思い」という全外教の記録からの抜粋を載せさせて頂きました。全外教というのは全国在日外国人教育を考える会という学校の先生方の団体があるんですけども、その研究会で毎年いろんなレポートが出されております。そのひとつを引用させて頂きました。今おっしゃったように小見出しに、ばれたらどうしよう、人には絶対言わない、実は私も、という友達同士の語り合い。気遣いが私を居心地悪くさせる、私は朝鮮人だから、そして、本当の自分を知つてもらいたい、とこういうタイトルが並んでおります。最後の方の所だけ少しご紹介しますので、後の所は休憩時間なり、あるいはお帰りになつてからそれぞれ読んで頂いたらいいんですが、私は朝鮮人だからという所から後だけ読んでいきましょう。

「こうしてひとりひとりに打ち明けていく事がこの後も続きました。そして何よりも私を楽にさせてくれたのは、大学のカリキュラムの一環としてアメリカで四ヶ月過ごした事でした。長期に渡る滞在だったのでもちろん一緒に行く一〇人の仲間に告げなければなりませんでした。しかし、いつ言おう、いつ言おうとどきどきしながらチャンスを待っていました。それは出発直前の英語の集中レッスンの時でした。自分が日本人である事を表現するというプログラムで私は何も言えなくなつてしましました。そして言えない理由を聞かれてやつとの思いで私は朝鮮人だから、と小さな声で言う事ができませんでした。皆の反応が怖かった。顔を上げて見る事ができませんで

した。しかしそれ以来私はもう逃げるのはやめようと思うようになりました。ひとりに言つたからといって、全ての人に言えるわけではありません。言つた友達が他人に言つてしまつたらどうしようという心配は消せません。この人なら大丈夫という判断の上での行動だから、信頼し合つてゐると思える人には告げる事はできても、やはり大多数には言えないのです。しかし誰にも言えなかつたあの頃を思い返すと、ああこれで良かつたんだと思えます。ひとりひとりに告げる事は小さな一步かもしれないが、それが積み重なつていく事によつて少しずつではありますがあ自分が解放されていきます。今では在日なんやろ、と訊かれた時に少しは戸惑う事があつても、明るく答える事ができるようになりました。しかしいつでもという訳にはいきません。」

私もこのような学生を持った経験があります。外国へ一緒に行くという時にですね、パスポートを取る為にいろいろ名前や住所を書いていくわけですが、その一人の女の子が、隠して誰からも見えないようにして書いてるんですね。他の子はそんな事をしていない。私はすぐ在日の子だとわかつたんですね。しかしその子は日本名で来てましたから、私の方から皆にそれを言う訳にはいかない。本人を待つてたんです。そしたらパスポートの色が違います。ですから行く時には友達にわかつてしまふ。そしてアメリカに行きました。そうするとアメリカでは日本人であろうと韓国人であろうとそういう事は全然問題にならない。それでその彼女がうんと明るくなつて帰つて来たんですね。私は隠す必要がない所に行つてきた。考えてみれば隠す必要ないんだという事で、それから本名にもしましたし、顔も見違える程明るくなつた。そういう記憶を今思い出しました。次に最後の所へいきます。

「本当の自分を知つてもらいたい。思い出してみると在日である事を隠す為に、多大なエネルギーを使つてきました。常に日本人らしい日本人を演じたり、高校受験の願書を職員室で一人で書いたり、本名で書かれた卒業証書を誰にも見られないように隠したり、自動車教習所に一人で通つたり、いろいろ苦労したなあと今なら思います。そんな事気にせんでいいと親に言わなくても、その時の私にとつては大きな悩みでした。自分自身を楽にし

てあげたいと思うようになつてから、小さなレベルからではあります、本当の自分を知つてもらいたいと思うようになりました。同じだと思つて欲しいではありません。私は朝鮮人ですし、周囲の多くはそうではあります。その違いを認めた上で付き合つていきたいと思います。その為にもこの人とはずっと友達でいたい、思える人にはこれからも打ち明けていくつもりです。そして自己を解放していくと共に、私を含め、在日朝鮮人という存在を認識して欲しいと思います。」

こういう文章です。これを書いた人は今おそらく三〇歳のちょっと手前ぐらいかと思います。ですから今日のお二人とはちょうど一回り近く違う世代ですが、お二人の一〇年後の世代でも、こういう思いをしながら今も生きておられる。これは今の高校生あたりの在日の子ども達にとつても同じなんじゃないかというようにも思います。そんな事を含めて今日はお二人のお話をたっぷりお聞かせ頂こうと思いますので、これから休憩時間の後に、また皆さん方のご意見ご感想に応じてお二人からそれぞれお聞きしたいと思いますので、よろしくお願ひします。

司会：では第一部を終了致します。お手元にあります「意見、ご感想を書いて頂く紙に」記入頂きましてこちらにあります箱の方にお入れください。後半は三時一〇分に開始致します。

司会：それでは第一部を開始致します。少し遅れまして申し訳ありません。本日は一二枚の「質問」と「意見」を頂戴しております。

仲尾 宏：早速始めます。まず第一番目の方。「兄弟の意識、考えの相違はあるのでしょうか。その相違を巡つて兄弟の関係が変わつたりするのでしょうか。在日、日本における朝鮮文化等について時代で変わつたなど

思う事はありますか。逆に変わらないと思う事はありますか。」一番目の兄弟の意識の事についてはレジュメの中でも陳太一さんが少し触れられておりましたので、それを中心に一言ずつお願ひ致します。

陳 太一：弟が二人いるわけなんですけども、基本的には朝鮮人の家庭で、意識的にはそんなに僕とは変わらないと思うんですけど、ただ日本社会で第二人は一般の会社に勤めて、日本名を使って生きてるんですけど、僕がこういう活動してる事も第二人は知つてまして、一番下の弟は見に来てます。以前僕がさつきもお話をように、知り合いの会社に入つてそこを辞めたっていう経緯から、親戚一同からバッシングを浴びたので、弟もどつかでもうちよつと兄貴しつかりせえよみたいな事は思つてるかもしれないんですけど、それによつて関係崩れたりとかは全然なくて、僕が長男なんで僕が意見を言う事は大体聞いてはもらつています。

野村 浩二：私は三人兄弟の末っ子で上に兄と姉がおります。兄と姉は両方とも日本国籍取りました。僕は取つてないんですけど。日本国籍取つたからと言つて朝鮮人であるという事についてどうこう言つてる事はあまり聞きませんし、太一さんの所と一緒にエサだんだと、行事などと聞いては朝鮮式で行いますので。そういう所が一緒に住んで、細かい所のぶれもあんまりないかなという所ですね。相違がないから兄弟の関係もあまり変わらへんと思うんですが。

仲尾 宏：お二人とも、ご意見が違う事があつても、兄弟という関係を変えるとかいうような事にはなつてない」とそう理解してよろしいですか。はい。

次の質問です、「在日、日本における朝鮮文化について変わったなと思う事はありますか。」これ大変大きな問題ですが、一言ずつ変わった、変わっていないという事をお聞かせ頂いたら思います。

陳 太一：大きくなつたのは最近の韓流ブームですね。韓流ブームともうひとつ拉致問題。ここ最近の大きなニュースなんんですけど、それによつて立場的にきつくなつたり、あるいは接近できたりすると思います。それはどういう意味かと言うと、僕の連れ合いは朝鮮籍なんんですけど夫婦別姓で、一応婚姻届は出してるんですけど、彼女曰く拉致問題が明らかになつた時にすぐ肩身の狭い思いをしたそうです。僕は東九条マダンをやつていてどうちかと言つと南の意識が強いんですけど、韓流ブームによつて人が沢山来るとか、多少はあつたんかなと思ひます。そういう事ぐらいでしようか。深く話せばいっぱい出てくるんですけど、そんな感じです。

野村 浩二：僕らが小さい頃なんかと比べると例えばマスコミだなんだかんだつていう、出版とか、放送とかそういう所で太一さんのおっしゃつてるようになつてたっていうに韓流ブームや拉致問題がありますね。東九条マダンに僕も参加しているんですけども、集まりとか祭りとかそういうものが僕らの小さい頃なんかと比べると頻繁に、おおっぴらにできるようになつてたっていう事がひとつ大きいんじやないかと思いますね。僕らが小さい頃つて在日が集まつてつていうので印象に残つているのは今はないですけど朝銀とか、そういう民族系の金融機関が主催したお祭りとかね。昔京都では伏見桃山城で朝銀が顧客を呼んでお祭りをしてましたね。伏見桃山城にキャッスルランドつてありましたね。それを全部借り切つてやるぐらいの事までやつてました。そういうことでかいお祭りとかはあるけど例えば東九条マダンとか長田のマダンとか今ないですけど生野民族文化祭とか尼崎の方とかね。そういう小さいお祭りつていうのはここ一〇年二〇年かけて段々大きくなつてきた。それによつて在日の人が参加しやすい、祭りという形ではあるけれども参加しやすい状況になつて來ているのかなと思つております。

仲尾 宏：はい、では次へ参ります。一番目の方。「陳さん、野村さんお話ありがとうございました。私はお

二人とほぼ同年代なので中高のエピソードはその当時を思い起しました。西京区内の在日の方々が多くいる地域で過ごしたので、同級生の中で外国籍の方の登録時の本名や指紋押捺等々の問題や、就職活動を通しての葛藤とかを抱えている友達が何人もいたからです。卒業証書や受験の願書等もありました。本名を教えてくれる子、隠し通す子、考え方も様々で当然ですね。彼ら、と一括りには未だにできませんし、してはいけないと思っています。お二人ともお仕事やいろいろな活動に頑張つて下さい。いわゆる本名とは戸籍名の事と考えてしまいますが、お二人にとつての本名はふたつあるのかなとも思いました。また通名という呼び名、使い方についてはどう思われますか。」最後の通名の事については後で関連した質問がもう一人からありますので、その時にまた付け加えさせて頂く事に致します。

三番目の方。三つ挙げられていますが一番目、「なぜこういう題に服飾の議論ではなく、朝鮮と日本のメタファーとして」チョゴリときものですね、「使っておられるようですが、民族名、日本名、韓服、和服、きもの、きものは和服の上下全体、韓服の上下全体を表象するならチマチョゴリでは。チマを切っているのは何か特別な意味や意図があるのでしょうか。それとも男女の事か。一七回目のフォーラムだそうで最初の頃はわかつていらないものでぱつと違和感を感じました。教えて下さい。」このシリーズのフォーラムのチョゴリときものという題の事ですからこれは岡村さん、簡単にお願い致します。

司余…このチョゴリときものというタイトルは私が担当する前の担当者が付けてくれたタイトルですけども、おつしやる通り、日本と朝鮮半島、日本文化と朝鮮文化というものを象徴してそれをタイトルとして付けたものです。ただ勘違いされてしまいますのは、きものは上下で韓国の場合にはチマチョゴリじやないかと。これは間違いです。チョゴリはきもの、チマはスカートです。パジがズボンです。男性の場合はパジチョゴリ、チマチョゴリが女性。ですのでチョゴリときものという事で相対して日本と韓国を表しております。

仲尾 宏：一一番目は、いろいろメモ風に書いておられますか、「在日の方のアイデンティティの主張の複雑さ、葛藤を感じました。国籍と名前と言葉と、多様性が認められる社会であるといいですね。」こういう感想です。

三番目は、「排他的な意識やシステムは日本は列島だから、大陸のアメリカ、中国、半島の朝鮮とでは全く違うものでしょうか。古代、中世、近世、近代で大きな流れは変わっていないのでしょうか。」大変大きなテーマです。これは一概に言えませんけども、歴史を勉強している私として簡単な直感だけで言いますと、排他的な意識やシステムというものは単独ではなくて、やはり自民族優越意識と裏表になつていてると思つています。そういう点でマジョリティが非常に大半であるような日本とか、あるいは朝鮮という場合と非常に多民族性が強いアメリカあるいは中国とではすこしちずつ違うと思います。それから時代によつてももちろん異なりますけれども、現在ではいくら日本や朝鮮のように民族的マジョリティが圧倒的に多い地域でも多文化共生という言葉がありますように、それはやはり考え方直すべき時期に来ているんじゃないだろうかという風に思つていいのではないかと感じます。

次へ参ります、四番。「日本人である私は今まで名前を気にして生活してきた事がありましたが、在日の人は両方の名前を持つてるので、今までの人生とかこれから的人生にもいろいろな事を考えて生きていかねばならないので大変だなと感じました。でも頑張って人生を歩んで欲しいと思いました。」こういう感想です。

次はですね、「貴重なお話ありがとうございました。仲尾先生にお伺いします。基本的な事ですが、通称名といふのはどういうものでしょうか。外国人登録で登録する日本の名称なのでしょうか。」今外国人登録という言葉が出てきましたけれども、外国人登録証は、野村さんに現物見せてもらつたらわかるんですが、ノ・ホイさんという本名があつてその後に括弧で野村浩二と書いてあります。野村浩二というのは通称名、通名という扱いになつております。これが必要とされるのは、外国人登録の際と、もうひとつあります。何かと言うと自動車の運

転免許証です。ところが不思議な事に先程お話をありました健康保険証。これは通称名、日本名だけでいいんです。不動産登記も印鑑証明もそうなんです。だから普通日本社会で暮らす時には外国人登録、これは住民登録と今の所は別の法律ですから、それが必要なのと、どういう訳か自動車運転免許証の時だけが必要で後は全部日本名だけで生きていけるようになつていてるんですね。これはなぜそういう風になつているのか非常に不思議ですが、いろんな背景が考えられます。

「野村さんにお伺いします。これまでの大部分を野村という名称で生きて来られてますが、国籍を日本にする事は考えられませんか。ばれたらどうしようという気持ちになられた時日本籍にする事は考えられませんですか。」いかがでしょう。

野村 浩一：国籍を日本にしようと考えた事はないです。さつきも言いましたが上の兄と姉は日本籍を取つたんですが、兄は結婚する時に、奥さんは日本人でしたので、その時に奥さんの親御さんの方から日本国籍を取つて欲しいという風に言われて、本人がどう思つたかは僕は直接聞いた事はないんですが、すんなり普通に結婚して日本国籍を取りました。

姉は同じ韓国人の、在日の旦那と結婚して、それからしばらくして、姉の旦那のお母さんが亡くなつた時に家族皆で集まつてどうしようかなつて話をして、その時に日本国籍を取ると。どういういきさつかはあまり聞いてないんですが、そういう選択肢もあるだらうという事で、日本国籍を取つたつていう事ですね。

僕がなぜ韓国籍から日本国籍になるという事を思わなかつたかっていう事ですけど、具体的な理由はないんですけど、強いて言うならば名前の話になるんですけども、野村浩一っていう自然に生きて來たもの、名前書くのでもそういう風に書いて來たのは事実ですし、一方で朝鮮人として生きて來たつていう事も事実ですんで、それをあえて変える必要はないかな、と。一步踏み込んで言うとすれば、仮に日本国籍を取つた所で差別は無くなる

のか、という疑問もいっぱいあります。韓国籍で今までと同じ生き方をしていかなければならないのかなと思うだけの事です。特に深い意味はないです。

仲尾 宏：「お二人にお伺いします。お二人共京都生まれではないですが、京都は比較的在日が多いと思いますが、在日にとって京都は住みやすいですか。日頃お感じになつてある事をお聞かせ下さい。」陳さんいかがでしょう。

陳 太一：住みやすいと思います。一言でズバリ言つてしまつたんですけど、こうやつてお話してゐる中でご理解ある方が沢山おられますし、やっぱり人つて一人ずつ接して一生懸命自分の事も話して、相手の事も聞きさえすればわかりあえるかなと自分は思つています。

野村 浩二：僕は大津市で生まれてすぐ京都府内に移り住んだんですが、物心ついた時点では京都の風景を見ながら生きて來てますので、家は京田辺市ですのでちょっと足を伸ばせば東九条の方で朝鮮料理買えたりするし、大阪の方へ行けば鶴橋の方で朝鮮料理買えたりするし、朝鮮料理の話ばかりですが。そういう点で言つたら京都には日本独特の文化と伝統っていうのもあり、一方でいろんな企業が出てきて新しいものがあつたりするし、「こういう在日の文化もあつたり、国際都市と言うが、沢山の外国の方が観光に来られたり、いろんな事がござらまぜになつてている」という点で、いろんな事を吸収できるし、ずっと住んでるけどずっと学べるような所だなあという思いはあります。

仲尾 宏：お二人から京都を褒めて頂きました。どうもありがとうございます。

次の方に行きましょう。「名前についてもう一度考えてみたいと思うようになりました。私自身は日本人ですがこうした機会を通じてさまざまな思いや苦しみ、悩みなどを知る事ができ、勉強させて頂いていると思います。ここでの学びを職場や日常の中に反映していきたいと思います。」こういうご感想です。今で六人の方が、後まだ六人の方のご感想、ご質問があります。

次は大変楽しい質問ですが難しい質問でもあります。と言いますのはこういう事です。「スポーツの世界において規模が大きければ大きい程国や民族といった意識が強くなりますが、お二人はもし民族や国籍と全く関係のない国からならオリンピック等の国際大会に出られるとしたら、帰化されますか。またそういった選手をどう思われますか。」こういうご質問です。この前のバンクーバーオリンピックで日本人の一人の女性の選手がロシア国籍取りましたね。彼女はペアの競技だから相手がロシア人なので、ロシア国籍じやないと出場できないという事で取りましたね。私あつと思いましたね。いとも簡単に国籍という壁を彼女は越えた、と。名前は川村さんでしたつけね。カワムラスキーという風に名前を変える必要がなかつたんです。それがオリンピック委員会でも認められたし、ロシア政府も簡単に認めてるという事ですね。その点でこういうスポーツ大会の時の国籍とか民族とはなんだろう、と改めて思いました。もう一つご紹介しておきたいのは、これは七五歳以上の方しかご存知ないと思いますが、ベルリンオリンピックが戦前にありました。あの時に朝鮮は日本の植民地でしたから、孫基禎さんというマラソンの選手が出た。これは日本からしか出られなかつたわけです。メダルもらいました。金が銀がなんだつたかな。金でしたね。ところが彼の胸には日章旗、日の丸がありました。彼はそれで金メダルを取りました。その後その事は日本国内でももちろん報道されましたけども、それは日本人として取つたんだと日本人は普通に考えていた。ところがソウルのある新聞は、その日の丸の所を消して写真を新聞に掲載した。その新聞はすぐさま発行停止処分になりました。つまり孫基禎さんは自分は日本人として出場したんじゃない、という意識を持ちたかった。その事をソウルの新聞は、『東亜日報』だったと思いますが、そういう方法で表現したんですね

ね。ちなみに孫基禎さんは戦後韓国で、マラソンの後進の指導に当たられて数年前に亡くなられましたけれど、ずっと韓国が独立を回復してからも韓国人として活躍されていました。そんな事がありました事を思い出しました。大変、難しい質問とは思えますが、陳さんからお答えください。

陳 太一：かなりむづかしい質問ですけど、もし僕にオリンピックに出れる素質とか記録があれば、おそらく國の選択はしなかつたかなつて思います。僕は中学、高校と陸上部やつたんですけど、一応一〇〇m一一秒四、走り幅跳び六m八〇、大阪でも地区大会は飛び越えるぐらいの記録やつたんですけど、もっと速くなりたい、もつと遠く飛びたいってずっと思つてたんですけど、もしかそれがどつか違う國で、この記録でもオリンピックに出れるつていうのであればそっちを選んでたんかなとちょっとと思います。後はそういう選手、サッカー選手、オリンピックじゃないんですけどラモス選手とか、日本に帰化した人達ですね。大相撲関係は親方になる事を条件に帰化を求めるみたいですがそいやつで来られる方も沢山いらっしゃるんですけど、僕はいいともういます。いいつて言う部分は、決して自分の国籍、過去を消さないで、ずっと主張し続ける。僕は実は昔日本出身で、このアメリカの地にやつてきました。という事なら僕はオッケーだと思います。

野村 浩二：僕はスポーツの世界というものはどちらかと言うと無縁というか、スポーツは得意な方ではないので、オリンピックうんぬんとか国際大会つていうもののはあまり考えた事がありませんので、この質問に対しては帰化されますか。しませんね。全くないです。そういう選手をどう思われますか、という事ですが、いろんな考えがありますんで、さっきのバンクーバーの件に関してもそうですし、ちょっと前にヨーコ・ゼターランドっていうバレーボールの選手でしたかね。の方も最初日本国籍やつたんが、なんかのオリンピックに出る時にアメリカの国籍になられたつていうのがあります。それは個人の考え方なんで、それが例えれば国を捨て

る、民族を捨てるつていう事にはならないとは思いますが。その人の思う所でやつていつたらいんじやないかなと思います。

仲尾 宏…」質問の方の「期待に応えたかどうかわかりませんが、お二人の率直なお考えでした。

次はちょっとと長いですが「感想なので全文読ませて頂きます。「開演時間に遅れて入って陳太一さんのおっしゃる事が十分お聞きできませんでしたが、お二人の話を聞いて誠に胸が痛みました。日本籍を取得している、いなに閑わらず出自が朝鮮という国であれば日本名、通名と本貫の姓名の両方を使うという事の本心は私には理解できません。悪く言えば自分が何者であるか、自己認識が歴史の流れで仕方がなかつたという理論を生きるために便宜上、利便性に偏つていてるさとしか私には考えられません。世界のどこに行つても朝鮮人は朝鮮人である事を今現在の時点では自分をどの方向に向けているのか、次代の子ども達に親としての責任をどう説明して育て、次代に受け継がせるか、今が一番大切な時点である事をもう一度顧みて下さい。もちろん個人の自由は尊重します。選択肢が歴史を作っていくでしよう。これからはあなた達の時代だからです。」こういう「感想がありました。お二人からはそれぞれこれについての思いがあるとは思いますが、特に質問の形ではありませんので、先に進めさせて頂きます。

「日本名であろうが民族名であろうが、また国籍がどちらであろうが自分は自分に変わりないとおっしゃるお言葉に賛同します。陳さんが運転されているバスはどこに行けば乗せてもらえますか。」という「質問です。

陳 太一：烏丸車庫におりますので二〇六番か二〇四番に乗つております。一人でも多くの方に乗車して頂きますようお願い致します。

仲尾 宏…私は二〇四番、二〇六番はよく乗っていますがまだ一度も陳さんにはお目にかかる事がありません。運が悪いのでしょうか。

次 「本日は陳さん、野村さんにお話を頂きありがとうございました。お話を聞いて私は陳さんの両親が帰化をされなかつたら今は陳さんという名前だけで生きていらっしゃつたのではないかなと思いました。子どもだから自分が一生使っていく名前を決められなかつたという事が心残りになられるのではと感じましたがいかがでしょうか。日本名でよい思い入れがないのであればそれはやはり悲しいなと思います。」これは少し触れられましたけども、陳さん追加のお言葉があつたらどうぞ。

陳 太一：名前、通名の話になるんですけど、親がもし帰化しなかつたら多分陳太一で來てたと思います。ただ生きるからには苦難の道がいっぱいあつたかと思います。はつきり言つて僕の生き方は皆にずるいと言われます。先程感想にもありましたけど、逃げ道いっぱいあります。でも僕はその逃げ道から逃げずにそれに向かってさつきも言つたように一個一個説明していきます、一人一人に対して。自分の立場をわかつて頂くまで。それが僕の中で一番大事な事だなと思います。朝鮮名で僕が生きようとした時に、さつきも言つたようにいじめられへんかなと思つて僕が何をしたかと言つと、喧嘩強くなるうと思いました。中学校三年生の時に半分番長みたいな事して、人を腕力でぼこぼこにして、朝鮮帰れって言う奴がおつたら頭ごなしに殴りつけたろうつてずっと思つてました。その時に殴つた人には本当にごめんなさいですけど、そうせざるを得ない状況があつたんかなと自分では思ひます。

仲尾 宏…今の陳さんの昔の思い出ですが同じ事を語られた男性の在日の方はこのフォーラムにも何人かおられましたね。そういう思いに駆られるという事が良い悪いは別としてよくあつたようですね。

次、「在日韓国朝鮮人が持つ苦しみを改めて感じました。市民一人一人が豊かな人権感覚を持ち、全員がいきいきと暮らせる社会が構築される事を願っています。」「こういう」感想です。

最後の方のご質問ですが、これは先程も出ました通名に関する事です。「通名制度は何の為にあるのでしょうか。ある方がいいのでしょうか。差別を避ける為とは言え、実際には差別を受けてしまうし、大きな悩みを抱えるし、通名制度がなくて最初から本名で生きられて、差別を受けない事が当然の社会なのですが。「こういう」質問です。

通名の事についてはいくつかの歴史的、或いは社会的背景があると思います。第一回目の時に資料で説明しましたように、一九四〇年に朝鮮半島に民事令の改正令が出されまして、届出によつて六ヶ月以内に日本籍の氏名に変えるという創氏改名制度が出来ました。従つて、朝鮮半島に当時在住していた二千数百万の人々、その時既に日本列島に渡つてきた何十万かの人もそれに倣つて日本式の氏名を付けるように半ば強制された、という事がひとつあります。その後一九四一年以降、国民総動員令の下に日本の軍事工場や軍事基地、あるいは道路、鉄道の建設に従事する為に引っ張つて来られた方、いわゆる強制連行の方々は日本式の氏名を付けたまま日本に来られた。それ以前に日本に渡つて来られた方は会社や鉱山で、とにかく名前はこれから日本式にしろ、お前は佐藤だ、お前は山田だという風に職場のボスから言われてそのようになつてしまつて、そのように名乗つてしまつた。という方の話を何人か聞きました。ですから自ら名乗つて日本式の名前にした人は、朝鮮でも日本列島に来られた方でもないではなかつたけども、圧倒的に少なかつたという事がひとつでしょうね。もちろん戦後大韓民国でも朝鮮民主主義人民共和国でも朝鮮式の名前以外の、日本式の名前で出した全ての届けは無効であると宣言しまして、それで全部元に戻りましたけども、日本に引き続き住まれた約六〇万とその子孫の方々は今まで日本名で來ていたわけだから、急に変えるという事についていろんな悩み、矛盾を持たれたと思います。そういう中で元の日本式の名前が職場でも地域でも学校でもそのまま引き継がれて來たというのが通名の歴史的な背景と言

えます。そして先程も申しましたけど、外国人登録の時には必ず本名と通称名、日本名を併記する。けれども通称名はなくてもいいんです。けれども先程申しましたような事情によつて続けて来たのであつた方がいいと判断された方もおられるでしよう。あるいはもうやめだという方もおられたと思いますが、そういう方はむしろ少數ですね。もうひとつは自動車運転免許証。これに本名が必要だと言うのはやはり本人を特定する場合非常に簡単ですよね。この方の本名は何か、外国籍であるかないかという事を簡単に警ら中の警官が判断できる、という所からそのようになつたのでないかと推察してます。ところが他方では申しましたように健康保険証であるとか、あるいは不動産登記であるとか印鑑証明、これは全部日本名でいい。福本さんのままでいけるわけですね。これは私の推量ですが、日本政府としては在日は在日なので日本人ではないという制度的差別を今も残しておりますが、ところが他方では日本社会に住み続けるならば日本社会に早く同化せよと。その為には日本名を名乗つたらいでないか、あるいは国籍も変えた方がいいではないかという事を暗に奨励しているようにも私には受け取れるんですね。名前は本来はどの民族にもひとつであるにも関わらず、他の民族の名前と両方使つてしまふ、あるいは日本式の名前に変えた方が何かといいよという勧めのような気がします。少し穿ち過ぎた考え方だと私は自分で思つておりますが、どうもそういう疑いが晴れないんですね。なぜ日本に住む外国人だけが、とりわけ朝鮮人だけがそういう事になつてしまふのか。他にも日本で日本国籍を取られた方もおられます。それでも本名で暮らしてらつしやる方多いですね。例えば参議院議員になつたフィンランド出身のツルネン・マルティンさん。ツルネン・マルティンというフィンランド民族名で国会議員になつてるんですよ。あるいは台湾出身の蓮舫さんもそうですね。読み方は日本式ですけどそういう方もおられます。元韓国籍であつたけども日本籍を取つた方で、同じ参議院議員で白眞勲さんという方がおられます。この方も本名読みでという事で政治家として活躍しておられます。そういう意味ではすこし変わってきたなとも思います。無理に白さんが白木さんであるとか、蓮舫さんが日本式の名前とかそういう名前を名乗らなくても本名でいけるという社会に変わりつつあるのかなども

思います。やはり私は名前というものは一番は本人の希望通りに、本人がこういう名前でこういう社会で生きていこうという事が自由に選択できて、その事が先程の作文にありました通り言えないとか、隠し通すとか、あるいは少しずつしか言えないとかそういう事がない社会であるのが理想だと思うんです。そういう所を目指して在日の方々それぞれの思いの中で今日の二人のように国籍と名前が全く逆の関係であるというお二人もいらっしゃると、そういう多様な選択肢もまた良いかなと思います。この点についてまだまだ申し上げたい事もあるし、皆さん方もお尋ねになりたい事があると思います。今回は全四回の内三回がそれぞれのパネラーお二人ずつお招きしました。来週はこれから岡村さんのご紹介があると思いますが、在日の研究者、朴一さんという大阪市立大学の社会学の先生をお招きして話を聞いて頂きます。この人も在日です。この人は民族名だけで生きておられますけども、まだ四〇代後半の方だと思います。子どもの頃からいろんなご体験もあると思いますので、また別の角度から、社会学的な背景も含めてお話を頂けるのではないかと思います。どうも今日はお二人ありがとうございました。

司会…本日はどうもありがとうございました。来週、先生の方から告知がありましたように朴一さんの講演会を開催致します。時間は同じですが場所が異なります。本館の左側にあります特別会議室という会議室が二階にありますので、そちらの方の会場で致しますので、当日はどうぞそちらの方へご来場下さい。先程休憩時間に頂きました意見や質問に関しましてお話を聞いています時に出ていたんですけども、今回初めて一〇周年という事で研究者の方をお呼び致しますが、従来チョゴリときものといいますのはお隣にいらっしゃる在日のコリアンの方の意見をそのまま間近で伺うという事を重視しております。ですので、判断というものを加えずに、その方が感じられたようにそのままを聞かせて頂くという風に私共はいつも心がけて來ました。結論というのはあまり求めていません。ただしこちらが協会としてお伝えしたいと思いまするのは、在日コリアンの方は本当に日本人と一緒にで、一〇〇人いらっしゃいましたら一〇〇通りの考え方があります。ステレオタイプで捉えるのではなく

て、一人一人の考えが異なるという事、違つて当たり前という事でお話を聞かせて頂く。それだけ多様性がある
という事を皆様にお伝えできればという思いで実施しております。今回はこの三回で皆様のお話終わりますけど
も、また次年度続けていければと思つております。また機会がありましたらおいで下さい。ありがとうございます。
した。

「本当の自分に出会うまで」

陳 太一

小学校の時に自覚

- ・ 保健証で本名を知る → 玄（ヒョン）先生との出会い、呼び名を教えてもらう
- ・ 地域の子供会活動（東大阪長瀬蛇草地区）そこで学んだもの

中学校時代の影響

- ・ 生活体験作文での発表（事実上の本名宣言）
- ・ 朝鮮文化研究会の立ち上げ（朝鮮半島の文化を教わる）
- ・ 文化祭での本名宣言と自分と弟

17歳の時に帰化

- ・ 中学卒業の時に申請（自分は反対だったが諦める）
- ・ 高校は日本名で日本人として生きようとする
- ・ 17歳帰化申請が下りて

社会人になり差別事件をきっかけに活動を始める

- ・ ハンマダン、朴実さんとの出会い（新たな立場な発見と驚き）

日本名と朝鮮名の両立

- ・ 中途半端と言われながら自分の立場を確立していく
- ・ 職場での陳太一の理解（自分の立場の説明から）
- ・ 今後の生き方（二つの名前で生きる）

東九条マダンと自分

- ・ 地域を中心に在日韓国朝鮮人と日本人の関わりとそれぞれの立場の相互理解
- ・ きっかけのマダンすべては出会いから一人の人間として向き合う

陳 太一（チン テイル）

41歳 バス運転士

- ・ ハンマダン代表（ハンマダンとは「ひとつのひろば」と言う意味で南区を拠点に民族民衆文化をもって自己表現しているグループ）
- ・ 東九条マダン実行委員長（東九条マダンは、毎年南区東九条で行われる地域のまつり）

在日コリアンの子どもの思い

(全外教の記録より)

ばれたらどうしよう

はじめて友だちにあのことを言つたのは、大学一年の時です。それまで朝鮮人であることを、かたくなに隠し続けていた私にとって、それは勇気ある行動でした。小学校、中学校、高校と日本の公立学校に通つていた私は自分が在日朝鮮人であることを誰にも言えませんでした。友だちとの会話の中で「朝鮮」という言葉が出ても、必死で動搖を隠し、何もちがわない自分を演じていました。社会科の授業で「朝鮮」という言葉が出ても、「私のことではない」というような顔をしていました。しかし、心の中では「ばれたらどうしよう」と常に心配していました。できることなら一生隠し続けたい、そう思っていました。と同時に、秘密をもつていてることに、罪悪感を感じていました。

人には絶対言わない

小学校五年生の時、母親の親元に引越しをしました。そして、母が通つた小学校に転校しました。何ヵ月かが過ぎ、友だとも慣れ親しんできた頃でした。下校途中に、友だち二人が、私が朝鮮人であることを確かめようとしてか、遠回しに聞いてきたことがあります。それは前もってうちあわせていたかのようないい話をしました。「ばれている」、そうわかつたとたん、学校にいくのがいやになってしまった。

中学生の時、嫌いな授業のひとつに人権学習がありました。実際に肩身のせまい思いをしていた私にとっては、さらに肩身をせまくするものでした。先生が、「在日朝鮮人について、熱い思いをもつて語ついてても、私は無関係といった顔で聞いていました。しかし、中にはうすうす知っている人もいたようで、私の反応を敏感に感じたる人もいたように思います。私は断固として否定し続けました。その頃です、人には絶対に言わないと決めたのは。

はれて大学生になつた私は、ひとつ決心をしていました。それまで母親の生まれ育つた同じ町で暮らしていた私は、いつ、どこから、そのことがばれるかという不安を感じていました。友だちのお父さんやお母さんの中に、私の母の同級生がいたこともあります。そのためもあってか、いつ友だちにばれるだろうかと、ピクピクしていました。しかし、親元を離れて、京都で大学生活を送ることになった私にとって、それは願つてもないチャンスでした。だれも私の本当のことを知る人はいないし、疑う人もいません。そんな環境の中、絶対に人には言わないでおこうと決めたのでした。

実は私も……

私の通う大学は、他大学と比べて、在日朝鮮人学生の割合が高く、実際に接する機会もたくさんありました。そして、私が入ったクラブにも、一人の在日朝鮮人がいました。その先輩は、本名で通い、それに何んして、クラブ内の人々は、抵抗なくつきあつていました。その風景は、今まで味わつたことのない不思議なもので、そして、多少の戸惑いもありました。しかし、私は、心中ではうらやましく思っていました。もし、私もそうだと言つたら、みんなはどうするだろう、そう考えるとこわくて言えませんでした。

当時、私は大学の女子寮に入つていました。そして、ルームメイトと一緒に、同じクラブに入つていました。ある夜、布団を並べてしまつていてるとき、その先輩の話題になりました。「〇〇先輩つて、在日なんやね」私はドキッとしました。そして、今だと思いました。「実は、私も……」ドキドキしながら、やつとの思いでうちあけました。その友だちは、「在日であること」に対しては、そう驚きもしませんでした。しかし、二十歳になつても選挙権がないことや、公務員になれない場合があることを知つて、「そんなのおかしいよ」と言つて泣きだしました。すぐくうれしかつた。うちあけてよかつたと思つました。みんながみんな拒絕するわけではないと知つて、安心しました。しかし、一人に言つたからといって、それから誰にでもうちあけたわけではありません。

気づかいが、私を居心地悪くさせる

ルームメイトにうちあけてから一年半がたつた、二年生の秋でした。親類のおじにつれられ、在日朝鮮人の集まる催し物に出かけたときでした。こんなところを誰かに見られたら、どうしようと思ひながら、仕方なしについて行きました。そして、そこで、同じクラスの在日の学生に、ぱつたり出会ってしまったのです。「こまかしきれない」というあきらめのせいか、「何で来てんの?」という質問に「在日だから」と答えてしましました。その時は、それでよかったですと思いました。しかし、家に帰つてから、「もし、あの人人が、まわりの人に言つたらどうしよう」といった不安でいっぱいになつてしましました。

以前に友だちの一人が、「私、結婚するんやつたら、絶対日本人がいい。在日とかも同じやつていうけど、やっぱり日本人がいい」というようなことを言つていたので、知られたくはありませんでした。しかし、どうしようか悩んだ末に、他の人からばらされるより、自分で言つてしまつた方がましだと思い、自らうちあけることにしました。彼女たちはすんなりと受けとめてくれたように見えました。なんだ、こんなもんなんや、と少し気が抜けました。しかし、その後、その話題にはふれないとおこうという気づかいが、私を居心地悪くさせたこともあります。

私は朝鮮人だから

こうして、ひとりひとりにうちあけていくことは、この後も続きました。そして、何よりも私を樂にさせてくれたのは、大学のカリキュラムの一環として、アメリカで四ヶ月過ごしたことでした。長期にわたる滞在であったので、もちろん一緒に行く十人の仲間につげなければなりませんでした。しかし、いつ言おう、いつ言おうと、どきどきしながら、チャンスを待つていました。それは、出発直前の英語の集中レッスンの時でした。自分が日本人であることを表現するというプログラムで、私は何も言えなくなつてしましました。そして、言えない理由を聞かれて、やつとの思いで、「私は朝鮮人だから」と小さな

声で言うことができました。みんなの反応が怖かった。顔をあげて、見ることができませんでした。しかし、それ以来、私は、もう逃げるのはやめようと思つようになりました。

一人に言つたからといって、すべての人に言えるわけではありません。言つた友だちが、他人に言つてしまつたらどうしようという心配は消せません。しかし、告げる側も、「この人なら大丈夫」という判断のうえでの行動だから、信頼しあつていて思える人は、告げることができる、やはり大多数には言えないのです。

しかし、誰にも言えなかつたあの頃を思い返すと、「ああ、これでよかつたんだ」と思えます。一人一人に告げることは、小さな一步かもしませんが、それが積み重なつていくことによつて、少しずつではあります、自分が解放されていきます。今では「在日なんやろ?」と聞かれたときに、少しは戸惑つことがあつても、明るく答えることができるようになりました。しかし、いつでもといふわけにはいきません。

本当の自分を知つてもらいたい

思い出してみると、在日であることを隠すために、多大なエネルギーを使つてきました。常に日本人らしい日本人を演じたり、高校受験の願書を職員室で一人で書いたり、本名でかかれた卒業証書を、誰にも見られないように隠したり、自動車教習所に一人で通つたり、いろいろ苦労したなあと、今なら思えます。「そんなこと気にせんでいい」と、親に言われても、その時の私にとっては、大きな悩みでした。

自分自身を楽にしてあげたいと思うようになつてから、小さなレベルからではありますが、本当の自分を知つてもらいたいと思うようになります。同じだと思つてほしいのですが、ありません。私は朝鮮人ですし、周囲の多くは、そうではありません。そのちがいを認めたうえで、つきあつていただきたいと思います。そのためにも、この人とはずつと友だちでいたいと思える人には、これからもうらあけていくつもりです。そして、自己を解放していくとともに、私を含め、在日朝鮮人という存在を認識してほしいと思います。

（財）京都市国際交流協会設立二〇周年記念

「朴一（ぱく・いっ）氏 講演会～在日芸能人の名前と出自をめぐって～」

講師

朴一氏

二〇一〇年三月十九日（金）開催

司会…皆さんこんにちは。本日はご参加頂きまして誠にありがとうございます。ただいまより財團法人京都市国際交流協会設立二十周年記念特別講演会を開催致します。今年度は協会にとりまして二十周年という節目の年となりました。今一度設立の趣旨を見つめ直し、これから協会がどのような事を望まれておられるのかを考えて参りました。設立当時は欧米に興味が高い時分でございましたが、協会ではアジアの中の日本という視点を大切に、三周年を記念しまして連続フォーラムチョゴリときものという事業を開始致しました。一七年に渡り約一五〇名の在日コリアンの方々から生活者の立場で、その視点でお考えやご意見、またその思いをお話し頂きました。本日は初めて研究者の方の講演という形でお話を頂きます。時間の経過の中で在日コリアンの方のお考えあるいは日本人の考え方、在日コリアンの社会、日本社会がどのように変わってきたのか、あるいは変化してこなかつたのか、もしそうであればどの部分だったのか。それらを皆様と一緒に考えてみたいと思います。

お手元の資料をご覧頂きますと、現在京都市内には約四万一〇〇〇名の外国籍の方が一緒に暮らしておられます。その内訳は特別永住者を初めとして留学生、研究者その他様々な職種となっています。本日の在日コリアンを題材にしました講演会は、多くの在住外国人外国籍市民と共に充実した幸せな社会を作っていく為に私達が今何を考えればいいのか、これから何をするべきなのか、ひとつ考える機会にして頂ければと思います。

それでは今後の予定をご案内致します。第一部は約一時間少しのご講演、約一五分の休憩を挟みまして第二部質疑応答とさせて頂きります。いつものように、お手元にアンケートを載せました質問用紙を配布させて頂いております。ご講演の内容に関しまして、またその他でもご質問がありましたらそちらにご記入の上、入り口の箱の中にお入れ下さい。先程申し上げましたように、その質問表には簡単なアンケートも含まれておりますので、今後の参考にさせて頂きたく、是非ご協力をお願い致します。

それでは講師をご紹介致します。朴先生どうぞ。本日の講師は朴一様です。朴先生は大阪市立大学大学院教授としてのお仕事に加えまして、大阪や神戸における外国住民施策や、人権教育啓発等の懇談会の委員長も務めて

おられます。また、皆様も「存知のように、テレビやラジオで在日コリアンの視点から様々な提言をなさっています。本日のテーマは『在日コリアン芸能人の名前と出自をめぐって』。これは私共の生活とは少しが離れた題材と思われるかもしれません、具体的な内容から今の在日コリアンの状況についてお話し頂きます。それはよろしくお願ひ致します。



朴一：紹介を頂きました、大阪市大の朴一と申します。よろしくお願ひします。座つてお話させて頂きます。レジュメが配られていると思うんですけども、今日はスケジュールを聞いておりませんでしたので、二時間しゃべれると思つて一ましんだんと二時間分講義内容を準備してきましたので、一時間ちょっとで話をし朴て下さいという事なので大相撲ダイジェストみたいに大急ぎで話をしますので多少早口で聞き取りにくいかもしれません、テレビを三倍速で見るような感じで聞いて頂けたらと思つております。

日本が韓国を併合して今年は一〇〇年。この一〇〇年というのは在日コリアンが朝鮮半島から日本に渡つてきて一〇〇年の年なんですね。この一〇〇年間に様々な苦労をしながら日本で生活基盤を築き、ある意味でいろんな分野で日本の社会に貢献してきた在日コリアンが沢山おられます。在日コリアンは今や日本の社会にとつてなくてはならない存在になつてきていると思います。

○私の問題意識

今からお話する芸能人という人達。これは狭い芸能人じやなくて、広義な芸能人という風に考えて頂きたいん

です。テレビとかラジオとかで連日いろんな芸能人が出てやつておられるわけですが、そういう人達だけじゃなくて、例えば小説を書いたりですね、あるいは映画を作つたり、あるいはプロ野球とかサッカーとかプロスポーツの分野で活躍する、そういう芸を持つて日本で生きている人達、そういう人を私はここで芸能人と定義した場合、そういう芸の世界にかなり在日コリアンの人が多いという事を御存知でしょうか。ところが活躍している割には目立たない。なぜ目立たないかと言うと、そういう人達の多くが自分のルーツ、出自を隠して日本の名前を名乗つて活躍しているからです。こういういびつな構造というのはどういう風な仕組みで生まれて来たのかというのが私が学者として非常に関心を持っているテーマです。非常にどろどろしたテーマでなかなか研究しない。というのも、こうした課題を研究するためには、民族とは何か、国籍とは何か、あるいは民族の血とか、そういうものは何かという事まで根源的に問いつめていく作業につながるからです。

○オリンピックとナショナリズム

ただこういう反論はあると思います。私がこういう話をすると必ず出る疑問のひとつは、「阪神タイガースの金本選手は実は在日なんだよ」というような話をした時に、金本選手が在日である事と、金本がプロ野球で活躍している事はなんの関係もない、そんな話をわざわざするなという風な事を言われる人がいるわけです。確かにそれはある意味で真っ当な日本人からの反論かもしませんが、ただそういった問題に対する私の回答として一番わかりやすいのは、オリンピックというものを考えて頂いたらいいと思います。

実は、オリンピックほどナショナリズムとスポーツが結びついている現象はないんですね。つまりオリンピックでは国がメダル争いをするわけです。国民がどれだけ多くのメダルを取るかという事で、競い合うという事です。するとその国の国民はその国の選手を応援するという事になる。ところが今非常にややこしい事はその国と

国民と、その国民を構成している人達の中に国籍と民族のずれが出てくるような選手が生まれてくるわけです。例えは二〇一〇年に開催された冬季オリンピックを見た方は多いと思いますけど、あそこでもアイスダンスで日本人がロシアの国籍を取つてロシア代表で出場していたという選手がいたんですね。不思議な事に、韓国人が金メダルを取つても放送されない競技がいっぱいあるのに、ロシア国籍を取つた元日本人の競技はメダルなしでも放送されるわけです。なぜかと言うと元々ルーツは日本だからという事がひとつある。そこらへんはややこしいんですけども、日本に関係するものは全て応援するというナショナリズムが日本人にもあると思います。

ショートトラックという競技ではこんなこともあります。最終のショートトラック準決勝男子千メートル、ここに残つた四人が非常に面白かった。日本人一人、韓国人一人、アメリカ人二人。ところがそのアメリカ人の一人はオーノ選手という日系人なんですね。日系米国人です。もう一人はハミルトン・チョという在米韓国人なんですね。つまり日本人と韓国人と在米韓国人と在米日本人が争う。ここで、米国人、日本人、韓国人は誰を応援するのかという事なんですね。アメリカというのはエスニック社会ですから、アメリカ人がどういう風にしてオリンピックを応援してるのが、とても気になります。

アメリカに行つた時面白かったのが、アメリカはエスニック社会ですから、メキシコ人だつたらメキシコ人の集住地域があつて、ロサンゼルスには在米韓国人の集住地域がある。在米韓国人の集住地域では圧倒的にハミルトン・チョを応援しているわけですね。韓国でもなくアメリカでもなく在米韓国人のハミルトン・チョを応援するという、これはすごく面白いわけですね。逆にオーノ選手が圧倒的に日系人社会の支持を受けてる。日系人の英雄なんです。彼は今回オリンピックで金銀合わせて一〇個のメダルを取つたスーパースターなんですけども、日系人社会がなぜオーノ選手を応援するかというと、元々日本人という事がひとつあるわけですね。このように、在米韓国人がハミルトン・チョ選手を応援したり、アメリカの日系人がオーノ選手を応援したりするよう、在日韓国人が同じルーツを持つ金本選手を応援するというのは当然の感情、ある意味で健全なナショナリズ

ムだと思います。それを否定されるいわれは何もないわけです。

ところがなぜ反対する人がいるかと言うと、アメリカではオーノ選手が、自分が日本にルーツをもつ外国人ということが堂々と言えるのに対し、日本ではなぜか朝鮮半島から渡ってきた在日韓国人はルーツを隠さなければスーパースターになれないといういびつな構造があるからです。アメリカという国と日本という国の違いはなんなのかという事を、ここで私は問題にしたいと思います。

○出自を隠して活躍する在日芸能人

例えば、阪神タイガースには、金本、新井、桧山という三人の朝鮮半島にルーツを持つてゐる在日コリアンの選手がいます。しかし、この三人の生き方は三人共違っています。金本選手は一九九二年に日本国籍を取りました。その経緯については、一度『週刊現代』(一〇〇三年六月七日号)という雑誌に掲載されたことがあります。

金本選手のお母さんは、日本の方と結婚した時に、『そういう時代だから、いろいろ差別が残っているし、日本の国籍を断腸の思いで取つた』という事を語つておられます。私もそこでコメントしましたが、それからすぐに週刊現代の編集部に金本選手から直接電話がかかってきて、『こういう記事は困ります、こんな事わざわざ週刊誌に書かないでくれと言われたそうです。

ここでは、なぜ金本選手がそういう気持ちになつてしまつのかということを考えないと駄目だと思うんですね。一方、桧山選手のように堂々と自分は在日ですと新聞(『統一日報』一〇〇四年一月一日号)で語つている選手もいます。桧山選手はそういう点ではあつけらかんと在日コリアンですと言つてゐる。新井選手も高校の時に日本の高校野球では活躍できませんでしたけども、韓国の高校野球大会に在日枠で本名で出場し、在日チームの四番打者として大活躍をして、広島に入団した選手です。そのように三人共在日の社会の中で育つてきた人間

で、金本とか新井とか桧山みたいな在日コリアンの選手がプロ野球には数多くいらっしゃるわけです。

数年前に、ワールドベースボールクラシックという野球の世界大会がございました。そのWBCの大会に出場する選手を見ると実にいろんな国の選手が集まつてゐるわけですね。国籍はアメリカだけど民族や人種が違うという人はいっぱいいて、参加する選手は自分がプレーしている国から出場してもよいし、国籍に帰属するチームから出場してもよいというのがWBCのルールらしくて、かつて野茂選手の同僚だったピアソツアという選手はアメリカ国籍を取つたんですけども、彼のルーツのイタリアチームから出場したりしてゐるわけですね。日本代表チームにも当時三人の在日コリアンがいました。在日コリアンが日本代表で出て、ある人は韓国籍のまま、ある人は日本国籍を取つて出場してて、ややこしかつたのはWBCの一回目の大会の時に彼らは母国の韓国と三回戦わなければいけなかつたことです。彼らは自分の祖国とどんな思いで戦つたのでしょうか。韓国にも勝つて欲しいんだけども、日本の為に戦わなければならない。実際、日本代表の在日韓国人の選手が打てなくて負けた時にインターネットを見たら、2ちゃんねるで彼らを中傷する陰口が数多く書かれてゐるわけですね。あいつらは韓国のスペイで、韓国が勝つ為にわざと打たないというような事がインターネットで書かれていますから、彼らは本当に辛い立場で戦つたと思います。

その後、WBCの韓国対日本の準決勝の試合の時に私はあるテレビ番組のゲストに呼ばれたことがあります。韓国対日本の試合で、今日は応援してくれる両国の皆さんに集まつて頂きましたと言われて見渡すと、韓国の応援は私一人なんですよ。後は全部日本人のタレント。ところがその時に野球評論家でプロ野球を引退した、元エースのピッチャーだったI君が出演してたんです。司会者が「Iさん今日の試合は何対何でどちらが勝ちますか」、と言つたら、「三対一で日本が勝ちます」と彼は言つたんです。その後、一分か二分くらいわずかなCMが入る時に、私の横に座つていたI君が耳元で、「先生、私も在日コリアンです。今日は本当は韓国が勝つと思ひますけど、番組が番組ですから、日本が勝つと言わないといけない。そこはわかつて下さい。」と私の耳元で

ささやいたわけです。それが現実なんですね。思つていい事も言えないような閉鎖的な状況の中で彼は働いているわけです。彼は同胞の人には思つたままを言えるんですけども、なかなか日本人の中でははつきりと自分の思いを言うことができない。なぜかと言ふと、そういう事を言うと、仕事がなくなってしまうからです。

同じようなタイプのタレントとして近鉄と中日で活躍した金村義明選手がいるじゃないですか。金村さんは結構マスコミに出でますよね。関西でもレギュラー番組何本か持つてますけど。金村さんは私も時々出させてもらつて『そこまで言って委員会』という番組によく出て、ズバズバ発言していくんですよ。ところが私が出演した時ですが、「竹島は日本と韓国どちらのものか」という話題が出た時に、彼は最後まで一言も発言しなかつたんです。言いたい気持ちをずっとこらえて、発言しなかつたのか、それとも言いたいことがなかつたのかは判りませんが、日本と韓国の挟間に立たされてつらい状況だったと思います。

○紅白歌合戦と在日コリアン

思い起にせば、私が小さい時に、正月になりますと楽しみにしていた番組に紅白歌合戦というのがあります。大晦日になりますと、親戚が沢山集まつてきて、一月一日までどんちゃん騒ぎするんですけどね。おもろいのは仕切り屋のおじさんがおるわけです。私と同じ朴ですけども、そのおじさんがいい大学出てるか知らないんですけどインテリですね。実に博学な人物だつたんです。そのおじさんが紅白歌合戦が始まると、はいあんたここ座つて、あんたそこ座つて、と二〇人全員を小さいテレビの前に全員を座らせるわけです。紅白歌合戦の司会者である宮田輝さんとは別に、おじさんがもう一人の司会者になりきつているわけですね。歌手が登場するたびに、そのおじさんがこの歌手はどこそこの生まれで、ヒット曲は何々でって、全部説明してくれるんです。そして最後に「実はこの人は在日コリアンです」とおじさんが言つたら、皆わっと拍手するわけですね。聞いてた

ら、この人も在日です、この人も在日です、という事で、その当時小学生の私が見た紅白歌合戦で出演者の五分の一ぐらいが在日コリアン、朝鮮半島にルーツを持つ人だったという事が初めてわかつたんですね。そのおじさんはいかにも誇らしげに紅白歌合戦は在日コリアンがいないと成立しないんだなっていう話を最後に言つて、皆で拍手をして新しい年を迎える。毎年それが繰り返されるわけですね。

そういううちに、子どもたちは自然に在日に対する思いが強くなつていくわけで、おじさんはいい役割を果たしていたと思うんですけども、ただ残念な事は、当事者の歌手たちがほとんど自分が在日コリアンという事を言えない、言つていらないという事なんですね。だから、そのおじさんの話は一体本當なんだろうかっていう疑問もありました。その中には本当に在日コリアンという人もいましたし、違うのではないかという事もあったかもしれませんけど、それだけ紅白歌合戦が在日コリアンに支えられていたということだと思います。錦野旦さんも後でインタビューに答えて同じ事をおっしゃっています。

不思議な事に、在日っていうのは、お互ひ隠しても匂いとか雰囲気とか顔つきとかでわかるわけですね。私なんかでも大学で授業してて、三〇〇人くらいの前で講義をしてる時に、ぱつと見たら二三列目ぐらいの右から三番目の女の子はあれ在日やとすぐわかりますもの。見ただけで、顔つきとかで判るもんです。近づいて行つてお前が在日やろって言つたらびっくりするんです。そういう雰囲気的なものがわかつて恐らく在日の人が芸能界入つたら、在日同士のネットワークの中に入つて、お互ひ在日が生き残れるようにいろんな手助けをする。そのゴッドマザーが和田アキ子さんだと思ひます。和田アキ子さんを中心とする在日ネットワークというのが芸能界にあつてですね、プロ野球界のゴッドファーザーが金本選手という風に、それぞれの世界にゴッドファーザーがいてエスニックネットワークができるんですね。

○華麗なる在日人脉

活躍する在日人脉は芸能界のみならず、スポーツ界や小説、文学の世界にもひろがりを見せていました。あまり誰が在日だという事は出自暴きにつながるので言いませんけど、皆さんにお配りした「在日コリアンパワー人脈図」というものを見て下さい。これは、私が『在日コリアンってなんでんねん』っていう本に載せたもんですが、最初原稿を完成した時はこの四倍ぐらい、百人を超える人を列举しておりました。しかし、編集担当者に、「先生こんな全部載せたら裁判騒ぎですよ」と言われて、かなり沢山の人物をけずりました。慎重に本人が既にカミングアウトしてゐる人を中心に、もう一度裁判が起らぬないように選び出したのがその一覧表なんです。そこにありますように、今話した歌手とか俳優とか、皆さん知つてゐる人いっぱいおられますよね。芸能界では、錦野旦、都はるみ、和田アキ子、岩城滉一、松坂慶子、伊原剛志など著名な俳優がたくさんおられます。野球界では、四〇〇勝の金田投手、三〇〇〇本安打の張本選手を初め、鋤々たる顔ぶれが並んでおります。ついでに言つておきますけど、最近、イチロー選手が張本選手の通算安打記録を抜いたというニュースが流れました。イチローが日本記録を作つたと言うけど、あれは違いますよ。大橋巨泉さんが雑誌にも書いてましたけど、例えば広島におつたソリアーノという選手がいますが、アメリカで大リーグ記録を作つた時に日本で活躍した安打数は一切入つてないんです。アメリカの記録はアメリカで残した記録しかカウントされない。日本の記録は日本で残した記録しかカウントされないとすれば、イチロー選手が作ったのは日本とアメリカの合算記録であつて日本記録ではないんですね。だからあくまで三〇〇〇本安打の最高安打記録を持つてるのは張本選手でイチロー選手ではないという事なんです。こうしたことは、常識であるのにも関わらず、イチロー選手があたかも新記録を作つたかのように報道するというのはおかしな話なんです。例えば白仁天選手っていう選手がいました。韓国の中学校で張本と同期で東映フライヤーズに入つて、彼は日本で一八三一本打つて、韓国に帰つてからも韓国のプロ野球で四割一分二厘の史上最高打率を達成しました。そうすると最高打率のアジア記録を持つてるのは白仁天

選手になつてしまつたわけですね。ところがそれが日本で評価されないのは韓国の記録を日本が認めてないからなんです。それと同じようにアメリカは日本記録を認めないです。日本は日本の記録、韓国は韓国の記録、アメリカはアメリカの記録として扱わなきやいけない、そこをじちやごちやにして都合のいいように解釈してるのは良くないと思います。

話がそれてしまつましたが、注目すべきは文学界です。立原正秋さん、つかこうへいさんの直木賞作家を初め、柳美里さん、李良枝さん、最近では玄月さんも含めて直木賞作家、芥川賞作家が在日からかなり沢山生まれています。在日コリアンが日本の人口構成の〇・五パーセント以下しか存在しない中で、過去これだけの直木賞作家や芥川賞作家を輩出しているというのは驚くべき事で、なぜこんなに多くの在日コリアンが小説の世界で活躍しているのでしょうか。おそらく、人生の悲しさとか苦しさとか不条理の全てが在日の世界にあるからであると思います。彼らは自分の人生を書けば、それだけで素晴らしい小説が出来上がるのかもしれません。とはいって、残念ながら、立原正秋さんは亡くなつてから在日コリアンという事が明らかにされましたし、つかこうへいさんは晩年『娘に語る祖国』(光文社、一九九〇年)という本を書いた時に、自分は在日コリアンという事をカミングアウトしました。

つかこうへいというペネネームはどういう由来でつけられたか御存知でしょうか。実は以前、あるきっかけで、つかこうへいさんと話をする機会がありました。つかこうへいさんは、まあ座れや、と言つて、冷蔵庫から大きなメロンを出し半分に割つて、そのメロンの穴をほじくつて、そこにヘネシーのXOのブランデーをそそいで、おい食えとか言つて、それをくれたんですよね。それをうまそうに食べてたつかこうへいさんの姿が今でも忘れられません。彼のたち振るまいを見て、育ちが在日だなという感じがしたんですけど、要するに小さい時貧しくてメロンなんか食えなかつたからかもしれません。食べ方に一種、ハングリーさを感じました。

つかさんに「なんでつかこうへいなんですか」と言つたら、「自分は朝鮮人として生まれて、この日本を、い、

つか公平になるような社会にしたいから、つかこうへいとというペンネームを考えたんだ」と言つておなりました。この人本気でそんな事考えて、そんなペンネームつけたんかなと思ひましたけど、その時は真剣だったと思います。そうして出版された本が『娘に語る祖国』です。それまでは葛藤があつてなかなか言えなかつた本音が書かれた本だと思います。最近では、金城一紀さんが『GO』（講談社、二〇〇〇年）という在日を舞台とした小説で直木賞を取りましたけど、これ以外にも朝鮮半島にルーツを持つんだけども、頑なに出自を隠して小説を書いている作家も沢山いらっしゃいます。皆さんにお配りした人脈図は、在日で活躍する人々の冰山の一角だとう事をおわかり頂きたいと思います。

○日本人のまなざし

なぜその彼らが自分の出自をカミングアウトできないのか。なぜ隠さなきやいけないのか。この背景には、日本人の眼差しというのがひとつあると思います。日本人の眼差し、つまり日本社会で在日がどういう風にイメージされてきたのかという事なんです。ひとつヒントとして、小林よしのりさんが書かれた漫画があります。これは非常に考えさせられる漫画なんですね。私はこの漫画をよく授業で使うんですけどね。

この漫画の中には、小林さんが小さい時に世話になつたおばさんが、通りかかつた美しい女人に対し「あの人はあれ（部落）や」という場面があります。小林さんは未だこんな差別が残つてゐる事に唖然とするわけですが、そのおばさんの以下のセリフが考えさせられるものです。「私は今は貧乏だと思ってばかりにしてるでしょ。でもね、貧乏は運が悪かつただけ。生まれは悪かつたわけじゃない。生まれはあんた達と同じ。でもあいつらは生まれが悪い。ばかりにすべきはあつちよ。だからばかにしましよう、あいつらを。ああ楽しいわ、他人を蔑むのは。」そこまで言うか、という本音のセリフで小林よしのりさんは差別の本質に迫っています。

ここで、差別の本質は実はどこにあるのかと言うと、生まれ、ルーツっていうのをすごく問題にしているわけです。世の中には、いい生まれと、悪い生まれがある。いい生まれとは何なのか。いい生まれの代表的な人物はやっぱり、麻生太郎前首相でしょう。この人なんかは典型的にいい生まれの代表的な人物と言えるでしょうね。何がいい生まれなのかと言うと、皇室と結びついているわけですね。つまり日本では、皇室と血縁関係にある人がいい生まれと見なされるようです。そのため、こうしたたぐいの事件がよく起るわけですね。最近では、二〇〇三年の一月に、有栖川事件というのがありました。北野康行という一般人が旧皇族であった有栖川宮家の継承者を名乗って、坂本晴美容疑者と共に謀殺し、二〇〇三年四月六日に東京赤坂の会員制クラブで有栖川記念祝賀晩餐会という結婚式を開いたという事件です。この北野容疑者というのは皇族に全然知り合いも何もいなかつたにもかかわらず、自分は旧皇族の有栖川家の人間だと言つて、結婚式の招待状を芸能関係者にばんばん送つたんですね。そしたら何と四〇〇人が集まつたというんです。その中には石田純一さんも含まれていた。石田純一さんが事件が明るみになつた後で、「皇族から招待状が来たという事で嬉しくて参加してしまつた」と語つているわけですが、それが日本人の一般的な心理なのかと思いました。皇族とお近づきになりたい。生まれのいい人達と自分が近づく事によって、自分も高い地位に近づけるという錯覚を覚えるという心理を悪用した事件なんですね。

一方、生まれが悪い人っていうのはどんな人たちなのか小林さんの図1を順番に見ていきたいと思います。一番上の良家というのは皇族と結び付いている人で、その次は大金持ち。上流家庭ときて、何とか生まれのいい人のぎりぎりに分類されるのが女では美人。男では一流大卒という事なんですね。女は美人に生まれただけでいい生まれになる。真ん中に中流がきまして、そこから悲惨ですわ。老人、バス、三流大卒。この人達は生まれがそれだけで悪いという事なんですね。それより下なのはレズ、ホモ、中卒で、それより下が外国人労働者と私のような在日韓国・朝鮮人ということになります。更にそれより下が貧乏人で、それより下が障害者で、一番下が部

落だという。ここまで書くと、こんな漫画が出版された事自体が恐ろしいと思いつつも、これは一面で「日本人が人間の価値をはかる基準」を語っている漫画じゃないかと思います。日本人はこういう目で人々を見てるというような感じがするわけですよ。

「ういうまなざしというのは、小説の中にも出てくるわけですね。皆さんは団鬼六という小説家を御存知でしょうか。彼は日本を代表する官能小説家です。私が団鬼六を研究するようになったのは偶然でした。ある学生に「先生団鬼六の小説の中に在日朝鮮人が登場しているのを知っていますか」と言われたんです。それはどういう小説だと聞くと、在日朝鮮人が身分の高い女を拉致監禁して、彼女をレイプするという話だと言うわけです。一体この小説はどういう風な構造で成立しているのかと考えみると、社会から抑圧されてきた身分の低い人物による身分の高い人間にに対する復讐劇であると考えられます。金持ちで高貴な女性が身分の低い醜い男にいたぶられるという復讐劇です。これは団鬼六が定番とするストーリーなんですね。この場合女性は高貴じやなきやいけない。一方、その女性をレイプする男性はできるだけ身分が低くしかも醜い男でなければならない。身分の低い醜い男に、高貴な女性がいたぶられるのが、SMファンの心理をくすぐるわけです。その心理とは一体なんなんでしょう。

堀江珠喜さんという大阪府立大学の教授が団鬼六の研究書『団鬼六論』（平凡社新書）を出版しておられます。彼女も団鬼六の小説の基本は、上流階級に差別されてきた下層階級の復讐劇であると分析しています。ヨーロッパの小説の中でも、上流階級に差別されてきた下層階級が復讐するという話はよく出てくるんですが、その極限的世界が団鬼六の小説だと思います。例えば団鬼六の『肉体の賭け』（幻冬舎文庫）という小説には、金成順という在日コリアンの醜い、背が低い質屋の男が登場し、彼が狙いをつけた高貴な女性の女将を監禁する場面ができます。「さすが元貴族だけの事はある、肌にも気品が漂っているじゃないか」という主人公の台詞には、下層階級に置かれてきたキムの上流階級へのあこがれと反発という複雑な感情がみられます。

実際団鬼六がどういう風に考えてこの小説を書いたのかという事がすぐ前から気になつてゐた頃、古本屋で団鬼六の興味深い作品を見つけたんです。『奇譚クラブ』という月刊誌の一九六九年三月号に掲載された「一皮剥けば」というエッセイです。これは団鬼六が杉本彩さんが主役で映画化され話題になつた長編小説『花と蛇』を連載していくところに書いたエッセイですが、あまりにも差別的な内容の為に絶版回収されてしまつたいわくつきの作品です。

どんな内容かと言うと、団鬼六が、官能小説を書く為に、自分の小説の中に登場させるモデルとなるような美しい女性を捜し求めて歩くわけですね。団鬼六はある日、神戸の三宮のスナックで神秘的で美しいKというホステスに出会うわけです。鬼六はその女にぞつこになつて、その女をモデルに小説を書きたいと思い、その女を何とか口説こうと毎日その女のいるスナックに通うわけです。ある日、店に行つたら、その女の子が店を休んでいた。バーテンにチップをはずんで彼女のこと聞くと、彼女は病氣で休んでいると言う。チップをはずんで、彼女の住所を聞いた団鬼六は彼女の家を訪ねます。そしたらなんと彼女は新開地の貧民街に住んでいたわけです。ピンポンと押したら、彼女の親父さんが出てきて、家に上がりと言う。そして鬼六が家に上がると、部屋には韓国の新聞が置かれていたわけです。その時初めて、あの女は在日韓国人だつたんだと団鬼六は気づくわけです。その瞬間、鬼六の体中から血の気が失せていくます。あの女もやはりににくを好み生肉の刺身を食うのかと団鬼六は書いています。そしてトイレを借りたらそのトイレがあまりにも汚くて、「こんな不潔な廁を彼女が平気で毎日使用しているのかと思うと十年の恋も穢める」と鬼六は言うわけです。「外面、綺麗に装つて妖しい色香を発散させてる夜の蝶も、一皮剥けばこんなものなのか。」彼女の正体を知つた鬼六はすっかり彼女から興味がなくなるわけです。

このエッセイは、自分が恋してしまつた女が在日コリアンという全く「生まれが良くない」、むしろ日本社会で侮蔑されてる対象だった事によってその空想が全部吹つ飛んでしまつたという事を告白したものですが、そこ

には当時の日本人の朝鮮人に対する一つの眼差しが見てとれると思います。このエッセイは、当時の日本社会に潜んでいた在日コリアンに対する感情を示す一つの文献だと私は考えています。

○日韓摩擦に発展した美空ひばりの出自論争

美空ひばりという人がいますね。日本の歌謡界の歴史を作ったような人ですが、その昔、おじさんから美空ひばりは在日朝鮮人だという話を聞いたことがあります。本当なんかいなという事で、ずっと疑いを持つてきましたが、実は美空ひばりが亡くなった時、皆さんにも配つてありますけど、「美空ひばりの父は韓国人というはどうまで本当か」というような記事が『週刊文春』（一九八九年八月一〇日号）という週刊誌に掲載されたことがあります。発端は、美空ひばりの死が韓国でも大きく報じられて、韓国最大発行部数を誇る週刊誌『週刊女性』には「美空ひばりの父は韓国人」という記事が掲載されたことでした。記事を読むと、韓国では美空ひばり朝鮮人説は常識だという。ところが、日本のマスコミが韓国こうした報道にかみついで、韓国は勝手に美空ひばりを韓国人にしとるというような記事が出たんですね。当時の『女性セブン』（一九八九年八月二十四・三一日号）にも「美空ひばりの父は韓国人説はどこまで本当か」という特集記事が載っています。

実際どうなかという事を考えた時に、出自については随分前から噂が飛び交っていたことは事実です。これは私のおじさんだけじゃなくて、いろんな在日の人がそういう話をしているんですけども、こういった噂に信憑性を与えるエピソードっていうのはいくつもあります、例えば、美空ひばりの親交のあった金田正一さんというプロ野球の選手が、「ひばりが俺の事をオッパと呼んでいるんや」という事を自慢していたというエピソードが残っています。オッパっていうのは韓国語でお兄さんを意味する言葉ですが、韓国では親しい男女の間で使われる表現です。また、都はるみさんが北の宿でレコード大賞を受賞した時、在日コリアンという理由でひどいバツ

シングを受けたそうです。都はるみさんがひばりさんのところに相談に行つたところ「私も同じだったから気持ちわかる」と言って美空ひばりさんが慰めてくれたという話を都はるみさんがテレビで語っているんですね。その時に「私と同じだ」というのはどういう意味なのかという事でいろいろ憶測を呼びました。それだけの理由で美空ひばりさんが韓国にルーツを持つかどうかはわかりません。ただ、このような一連の報道合戦を通じてわかつたことは、日本人の中に美空ひばりが韓国人の血を引く歌手であつて欲しくないという感情を持っている人が少なくないということと、多くの韓国人にとって美空ひばりが特別な存在であるということなんですね。やはり日本の芸能界が在日コリアンの芸能人の出自をタブー視するのは、メディアの背後にこのような日本人の国民感情があるということなんです。そこが問題ではないかと思います。

○ 「在日」の犯罪者をどう報道すべきか

二〇〇五年、京都の教会の牧師が信者の女の子にレイプをしたという事件が昔ありました。当時、私はその時テレビに呼ばれて事件についてコメントを求められたことがあります。この事件の内容は皆さんもご承知のように、永田保という京都のあるキリスト教会の牧師が女性の信者を陵辱したというものです。ただ当時の『週刊文春』（二〇〇五年四月二一日号）の記事の書き方がえげつないものでした。見出しは「日本人処女三〇人を陵辱した在日韓国人レイプ牧師の正体」というものです。この事件が起つた時、新聞の紙面にこの週刊誌の見出しが大きく載つて驚いたことを覚えてています。一方、朝日新聞は最後まで永田容疑者という通称名で事件を報道し続けました。朝日新聞に問い合わせてみたところ、朝日新聞がなぜ金保という本名を出さないのかと言うと、永田容疑者は通称名を使って日常生活をして、教会活動も永田という名前でやっている。基本的に永田というのが日頃彼の使つている名前であつて、この犯罪と出自とは因果関係がない。だから永田という日頃使つている名前

で報道しているというのが朝日新聞社の公式回答でした。私も朝日新聞の回答に對して、それは正しい判断じゃないかと思います。ここで気になったのは、こうした週刊誌の書き方です。ともうしますのは、ここでは韓国人ＶＳ日本人という事を誇張した書き方がしてあるとともに、さらに問題なのは永田さんがレイプした女性三〇人がすべて処女だったという報道です。非常に気になつたので教会関係者のところに行つて何人かの人にお話を伺いましたところ、処女三〇人っていうのは恐らく確認できない話であるとともに、信者の中に在日韓国人の女性がいたということです。レイプされた人の中に、つまりこれは全部が日本人じやなかつたという事と、少なくとも処女かどうかわからないのに、韓国人が処女の日本人を襲つたという事を書きたてる事によつて、日本人の嫌韓ナショナリズムを刺激しようとする意図が感じられます。こういう所にも日本人の在日コリアンに対する眼差しのひとつが出てゐると思います。こういう日本人の眼差しにさらされながら芸能人が生きている限り、在日の芸能人はなかなか本名で活動する事ができないわけです。

○力道山の苦悩

おそらく日本の芸能界で一番最初に世間の注目を集めたのがプロレスラーの力道山だったのではないかと思います。

力道山という人間を詳しく知つていただきために今日は貴重な資料を配つてあります。左の下の新聞記事を御覧下さい。これは一九四〇年ですから戦争中に、朝鮮半島が日本の植民地であつた時に、朝鮮半島で出ておつた日本語の新聞『京城日報』です。これは高麗大学の亞細亞問題研究所に全巻保存されておりまして、私が一九九七年に行つた時にその新聞を全部毎日八時間ぐらいかけてチエツクした時に見つけた奇跡的な記事です。我ら力道山輝く一番出世という内容で、この中で字が小さくてちょっと見えにくいですけども、「金信洛、朝鮮半島咸

鏡郡…、三男金信洛」と書かれてあり、力道山が朝鮮半島の出身で故郷の誇りであると「ことが報道されてい

るわけですね。

日本で相撲で頑張っている朝鮮半島出身の力士は当時沢山いました、当時は現在の大坂場所とか九州場所に加えて京城場所っていうのがあつたんです。京城場所でファンの心を掴んだのは朝鮮半島出身の力士で、その中の一番出世したのが力道山なんですね。彼が角界デビューを果たした一九四〇年当時は、力道山が朝鮮半島生まれの半島出身者であるという事が番付表にも載ってるんですけど、活躍するにつれて経歴がどんどん変えられていくわけです。最終的には番付表から金信洛という名前もなくなり、朝鮮半島出身がなぜか長崎出身というふうに書き換えられていきます。力道山も自分の出自を隠す為に映画まで出て長崎出身である事をアピールしようとしているわけですね。彼は日本の英雄に祭り上げられるにつれ、朝鮮半島出身というのを隠し続けなければならなくなっています。ところが在日社会では皆彼が在日コリアンであることを知つていてるわけです。

力道山というのは当時スポーツ界のみならず芸能界のヒーローとして、主演した映画が五本もあります。当時の日活のスターの一人ですね。プロレスラーとして活躍するだけでなく、映画のみならずテレビにも出て、自分でサイドビジネスもやり、ビジネスの世界でも相当な活躍をしてる。あらゆる意味でスーパースターだった。そんなスーパースターの彼のところには、いろいろな人物が近寄つてくるわけですが、彼はその中でもとくに在日コリアンのスポーツ選手をかわいがつたと言われています。こんな興味深いエピソードがあります。プロ野球の張本煦選手が東映に入団して大活躍した時に、張本に対しても力道山が電話をしてきて、張本選手と飯を食うという時があつたらしいんです。力道山が朝鮮半島出身という事を隠そうとしている事が不満だった張本は、「兄さんはどうしてはつきり言わないんですか」と言つたら、いきなり力道山が怒りだして「きさまに何がわかるか。ワシらの時代は日本の植民地で虫けらのように扱われたんだ。国民的ヒーローがそんな虫けらだと言つてみろ、ファンがどれだけ失望するか」と言わされたようです。そういう複雑な感情の中で力道山はずつと自分の出自を隠

しながら国民の英雄を演じてきたわけですね。とはいって、力道山が朝鮮半島出身者という事を政界の中では知つてゐる人が沢山おりました。したがつて朝鮮半島出身の力道山を使って、韓国との外交関係を好転させようという政治家もいました。その一人が大野伴睦さんという人です。一九五〇年代から六〇年代前半にかけて日本と韓国が何回か外交交渉を続けたんですけど、日本側は植民地支配に対する謝罪をしない一方で、韓国側は過去に対する謝罪を要求するという繰り返しで決着が付かない時に、何か打開策はないかと考え出されたのが力道山の韓国への派遣でした。行き詰つた日韓交渉を開拓する為に、力道山は日本政府を代表して、祖国韓国に訪問するわけです。これは完全に極秘訪問でした。

たまたま私がNHKで力道山の特集番組を作らせて頂いた時に、吉村義雄さんという力道山の現役時代のマネージャーがおられまして、そのマネージャーがまだ生きているという事を知つて、早速NHKに電話してもらつたら非常に元気で、大阪でお会いしていろいろ話を聞きました。そうしたら吉村さんも当時、力道山と一緒に韓国に行かれたようです。力道山は韓国でもヒーローで、韓国の空港には大勢の出迎えが来ていました。そして歓迎会で力道山は韓国語で歌を歌つたというんです。さらに板門店に行きたいと言つて、南北境界線まで行つた時、上着のジャケットを脱ぎ捨て、上半身裸になつて、北朝鮮に向かつて何かを叫んだようです。何で叫んだのかと聞いたら、「ヒヨンニーム（兄）」と言つたというんですね。北朝鮮に残してきたお兄さんの事を思い出して、力道山が「ヒヨンニーム」と叫んだと言うんですね。その時私は、できすぎた話と思つました。けれども、後に韓国で吉村さんの話を裏付ける証言が出てきました。それは力道山が訪問した時に歓迎委員会のメンバーを務めた金甲煥さんという方が、やはり力道山が板門店に行つたとき、シルクのシャツまで脱いで、「ヒヨンニーム（お兄さん）」、オモニ（お母さん）」って声をかぎりに叫んだという証言が『毎日新聞』に掲載されたんですね（鈴木琢磨『金正日と高英雄』イーストプレス、二〇〇五年、八四ページ）。

結局力道山は、日本のヒーローを演じながら、祖国とか兄弟の事をいつも考えてたようです。それが韓国に行

つて板門店で思いのたけが全部出た。ところが、日本に帰ってきたらいきなり態度が変わつて、力道山の祖国訪問を報じた新聞記者を呼んで、とんでもない事を書いてくれたという事で、大喧嘩になつたそうです。力道山は自分の出自が日本のマスコミに知られた事に対するショックを受けていた。それだけ力道山は自分の出自が曝露される事に怯えながら、ずっと日本の国民の英雄を演じ続けてきたという事なんですね。

○松田優作の葛藤

それは昔の話やないかと言う人がいるかもしれません。最近の話では、松田優作さんにまつわる話があります。松田美智子さんという松田優作さんの最初の奥さんが、『越境者』という本を二〇〇八年に新潮社から出しております。この本の中に松田優作さんがどういう経緯で帰化したかという事が詳しく書かれています。当時、松田優作さんは『太陽にほえろ!』というテレビに出ておりました。ジーパン刑事役の松田優作さんが一躍脚光を浴びるようになつたのは、彼のダイナミックな演技にあつたのではないかと思います。恐らく松田優作さんがスターのチャンスの切符を掴んだのは、この『太陽にほえろ!』のジーパン刑事の役だつたんですね。しかしドラマの視聴率がどんどん上がり、人氣ができるにつれて韓国籍の彼は帰化を考えるようになつたそうです。とにかく短時間で早く日本の国籍を取りたいという事で、奥さんを通じて知り合いの政治家に頼んで早く帰化できるように伝授したというんですね。その時、「なぜ帰化したいのですか」というような動機を書く書類があるらしいんです。その書類に松田優作は次のように書いたと言う記述があります（松田美智子『越境者松田優作』新潮社、二〇〇八年、九六ページ）。

「僕は今年七月から日本テレビの『太陽にほえろ!』という人気番組にレギュラーで出演しています。視聴者は子どもから大人まで幅広く、家族で楽しめる番組です。僕を応援してくれる人達を沢山きました。現在は松

田優作という通称名を使つてゐるので番組の関係者にも知られていませんが、もし僕が在日韓国人である事がわかつたら皆さんが失望すると思います。特に子ども達は夢を裏切られた気持ちになるでしょう。」

松田優作さんがこんなことを書いて日本の国籍を取つたという事を知つて、私は非常にショックを受けました。つまりそういう日本人からの眼差しから逃れる為に、優作は断腸の思いで帰化をしたという事が奥さんの手記から伝わってきます。

なぜそういう風に在日の芸能人が出自を隠しながら、生きていく上で不安に駆られるのかと言うと、悪循環があると思うんですね。在日コリアンが本名で活躍するとファンを失う。つまり在日コリアンに対する蔑視的なまなざしから逃れるため、日本人のふりをしなきやいけない。日本の芸能界で活躍するためには日本の名前を名乗り、自分の出自を隠さなきやいけない。ところが、今度は隠そぐとすると、ある勢力が彼らの出自を暴こうとする。自らの出自を隠したら隠したで、在日の芸能人はいつ自分の出自が暴かれるんじやないかという恐怖感に怯えることになるわけです。

○出自を暴こうとする人々

「こうした悩みをかかえているのは在日の芸能人だけではありません。政治の世界でも似たような話があります。その典型的なのは新井将敬さんのケースだと思います。彼は一九四八年に生まれて二〇〇〇年になる直前に自殺しますから、戦後五〇年を駆け抜けってきた在日コリアンの一人です。彼は北野高校という大阪でも名門の進学校を卒業してから、京大の医学部に行くか東大で理学を勉強するかという事で思い悩んだ末、帰化申請をするわけですね。ところが、帰化がなかなか下りないので、現役の時は医学部受けてるんです。ところが浪人している時に帰化申請が下りたことで、彼は方向転換して本当にやりたい勉強をしようと東大の理学部に進学するわけで

す。韓国人だつたら就職できないから医学部に行くけど、日本人になれたから晴れて自分の好きな勉強をしようというわけです。そして、東京大学に入つて一生懸命勉強して、一九七三年に国家公務員上級試験に合格して大蔵省に入ります。そこで三〇歳の若さで税務所長になつて、その時に渡辺美智雄さんと出合うことになります。そして渡辺さんの勧めで、八二年に大蔵省を退職して、東京二区から衆議院で立候補するんですね。この人の場合は、日本の国籍を取つて、東京大学に入り、更に大蔵省と、まさに超エリートコースの人生だと思います。

ところが八二年に初出した時に、同じ選挙区で立候補を予定していた石原慎太郎さんの公設代理秘書が、なんと新井さんのポスター三〇〇枚に「北朝鮮より帰化」と書かれた黒いシールを貼り付けるというショッキングな事件が起ります。今日は、この時の映像を持つてきましたので、まず見て頂きたいと思います。非常に貴重な映像でして、当時まだ新井さんが国会議員になつていらない時にインタビューに応じて、その後に東京都知事になつた石原慎太郎さんの公設代理秘書から嫌がらせを受けた、つまり出自暴きを受けたときの新井さんの気持がよく判る映像です。この時、新井さんが、涙の記者会見をするんですね、その時に彼はTBSの番組で取材を受け次のように述べています。

「父の祖父が明治やから一〇〇年ぐらいに前に韓国の釜山という街の近くに生まれて育ちました。……品川から大田区の、五〇〇枚ぐらいあつたんですけど、その中のほとんどにシールが貼られて、どういう内容かつて言つといろんな人が言つてくるんだけど北朝鮮のスペイだと書いてるとかね。やつぱり出生というのは人間どうしようもならないもんだなど。生まれというのは、私も自分で意識して、こういう運命に生まれてくるわけじゃあるまいし、両親に生んでもらつて、命を授かって生まれたのに。両親更にそのご先祖がどのような運命を背負つてようど、やつぱり自分に、この時代に背負わなくちゃいけない。そういう気がつくづくとしてまいりました。」新井さんの出自を暴く事によつて、有権者のナショナリズムを煽つて落選させようとするような卑劣な事を同じ自民党内の人間からされるということは、非常に新井さんにとつて屈辱的な事であつたと思ひます。更にこれ

だけじゃなくて新井将敬さんの帰化前の本名とか、元々の国籍、「朝鮮」と書かれた除籍謄本のコピーが選挙区内の商店主に匿名で郵便でばらまかれるという事件も起こっています。こうした嫌がらせの結果、彼は最初の出馬では四〇〇〇〇票しかどれずに落選してしまったわけです。

○カミングアウトという闘い

結局、帰化をして日本の名前を名乗つてルーツを隠しても、どこかで出自が曝露されてしまうというような恐怖感の中で、そういう人達が活動しているということなんですね。これに対して、どういう風にして在日は闘ってきたのでしょうか。ひとつの方はカミングアウトという方法だと思います。在日の芸能人がカミングアウトを行うようになったのは、九〇年代後半になってからのことです。錦野旦さんが、まず野村進さんの『コリアン世界の旅』（講談社、一九九六年）という本の中で「自分は在日コリアンだ」という事をカミングアウトするわけですが、多くの在日系芸能人がいるなかで、彼のようなスタークラスの人がカミングアウトするのはめずらしいことだと思います。錦野旦さんから始まって最近では伊原剛さんや和田アキ子さんもカミングアウトしております。

なかでも、伊原剛さんのケースはこれまでのカミングアウトとは違うケースだと思います。彼は人気が出る直前、NHKの朝の連続テレビ小説『二人っ子』に出演し、その後テレビでカミングアウトする企画を立てて、プラウン管を通じて初めて自分が在日であることを明らかにした芸能人ですね。伊原剛さんは二〇〇一年に出演されたテレビ番組『日韓友好スペシャル』（日本テレビ）の中で次のように語っています。

「三世ですね。僕のじいちゃん、ばあちゃんが日本に渡って、僕の父母は日本で生まれて、僕が生まれて。三世ですね。自分は日本人であるけども、元を正せば韓国人。そういう感覚ですね。小さい時から親にそういう風に

育てられたから、あなたは韓国人なのよって」

伊原剛さんは、こうしてテレビ番組で初めて爽やかにカミングアウトするわけですが、当然選択肢はいろいろあって、最初この番組出演依頼が来た時に、彼は正直悩んだと言われております。と言うのはCMを沢山抱えていて、CMがキャンセルされるんじやないか、CMの出演が来なくなるんじやないかと、事務所としてはそれを一番恐れていたわけです。しかし、伊原さんの場合は、この爽やかなカミングアウトで人気が急上昇し、結果的にCM出演依頼が増えたといわれています。伊原さんがカミングアウトした時期ぐらいから韓流ブームを伴つて日本人の韓国に対する眼差しが大きく変わってきたという事もありますが、ただ韓流ブームがそのまま在日にもつながつてるとかそういう事については留保する必要があると思うんですね。

伊原さんも言っていますけど、在日コリアンというのは韓国人であると同時に日本人もあるわけで、裏を返せばある意味で韓国人でも日本人でもない、あえて言えば在日は在日であるという特殊な立場に置かれてる人達であると思います。だから出自がどこだと言われても、ルーツは朝鮮半島にあるんですけども、実態としては地域社会に根を下ろして生きている人達がほとんどではないでしょうか。だからと言って日本の国籍を取る事には大きな戸惑いがある、いろんな問題から日本の国籍を取らない。むしろ国籍にひとつアイデンティティの誇りを感じている人もいるわけです。そういう人達が、気兼ねなくさらりと伊原さんのように自分のルーツを語るような社会になつて欲しいという思いが伊原さんにあつたと思うんです。どつかで誰かが口火を切らないといけないという思いが伊原さんにあつたんじやないかと思います。

伊原さんと前後して、二〇〇五年に和田アキ子さんもカミングアウトしています。和田アキ子さんは『週刊文春』の記者を呼んで、突然、自分の過去を語りだした。これにも逸話がありまして、亡くなられたある芸能リポーターから聞いた話ですが、和田アキ子さんは、ある雑誌記者から脅迫を受けていたそうです。「〇〇を出せ、〇〇を出さなきやお前が朝鮮人である事を書く」と脅かされた。和田アキ子さんは激怒して、そんな脅迫に

私は怯える人間じゃない。だつたら私が自分からカミングアウトしてやると言つて、脅迫した記者が原稿にする前に、自分から『週刊文春』の記者を呼んで、全てを語つたという話です。「血と骨のブルース」という『週刊文春』（二〇〇五年八月一・一八日特大号）の記事には、和田さんが国籍の事についてもずいぶん悩んだ時期があつたと書いてあります。和田アキ子さんのように曝露される前に自分からカミングアウトするというようなケースもありますが、在日コリアンが出自とか本名を隠し、それを誰かが曝露するという横暴に對して怯えながら生きていく構造をなくす為にはどうすればいいのでしょうか。

在日の人達が例えればアメリカのオーノ選手であるとか、ハミルトン・チョ選手のように自分は日系なんだ、自分はコリアン系なんだよとか言えるような社会に、この国がどうしたらなれるのかという事が、一番大切なんですね。別に阪神タイガースに在日系の選手がいたつて私はいいと思うんですよ。そういう選手を、在日の人達が心から応援できるような国になつて欲しい。アメリカの大リーグでは沢山のいろんな人種や民族が集まつて、マイノリティの期待を背負つて頑張つてる選手がいっぱいいるんですね。日本のプロ野球選手には沢山の在日コリアンの選手がいて、『在日コリアン事典』というのを作つている時に、こんな人も在日だつたのかと改めて調べなおしてわかつたんですが、そういう人達のほとんどが偉大な記録を残しながらも、在日という過去を封印してプレーしてきたのは残念なことです。つまり在日の選手が、日本人に愛されるのか、それとも在日に愛されるのかという選択肢じやなくて、在日にも日本人にも愛される選手になつて欲しいと思います。

○在日コリアンの名前と出自をめぐる論争

もう一つやつかいなのは在日コリアンの名前と出自の問題です。実際にあつた事件とその裁判を事例にこの問題について考えてみたいと思います。事件は織原城一という人物がおこしたとされる強姦致死事件、裁判はこの

事件を漫画にした漫画家を訴えた「嫌韓流裁判」と呼ばれるものです。まず事件の経緯と裁判の内容について簡単にふれておきたいと思います。事件は、織原という容疑者が九二年から二〇〇〇年にイギリスの白人女性一人をマンションに連れ込んで、意識を失わせレイプし、逮捕されたというものです。漫画『嫌韓流』の作者はこの事件を漫画にする際、犯人の出自が在日という事まで暴露したことで、犯人の織原に訴えられたという話なんですね。

問題は、この『嫌韓流』という漫画の内容です。漫画の主張は反韓、反朝鮮、反在日コリアンという一方的な偏見姿勢で貫かれており、嫌韓、嫌在日を前提に原告の帰化以前の身分を記載し、原告の名譽を毀損したと織原は述べています。また、織原は元在日コリアンと記載した事に対して名誉毀損だけじゃなく、プライバシーを侵害したという理由で五〇〇〇万円の支払いを要求しています。ここで問題になるのは、犯人の出自と犯罪に因果関係あるかどうかわからないのに、帰化した人まで元在日コリアンという出自を曝露することが法的に許されるのかということです。

私は先程の永田牧師が事件起こした時にTBSのテレビ番組で朝日新聞の見解を紹介しました。朝日では犯罪と因果関係が確認できない場合は、日常生活で通名を使っている人、あるいは帰化した人についてはその出自について触れるべきではないという方針を探っています。同じような見解をテレビ番組で主張したところ、「どんでもない発言だ、犯罪者を擁護している」という事で2ちゃんねるで叩かれました。大学にも脅迫状が沢山送られました。ひどいのは猫の死体が足を切り取られて送られてきて、お前がこれ以上マスコミに出てわけわからん事言うと、お前もこの猫みたいになるぞという脅迫を受けました。明らかに言論弾圧です。

在日コリアンにもいろんな生き方があってしかるべきだと思います、この前、ある大学で集中講義を行った時、授業を全部聞き終わった後である女子学生が一人、帰らずにずっと残つてたんですね。皆が帰った後で彼女は、「在日コリアンは先生みたいな強い人ばかりじゃありません。私みたいにずっと在日である事を隠しながら

ら生きてる人がおる事をわかつて下さい」って言われたんですね。そういう人は結構沢山いて、帰化をして日本の名前を名乗つて、自分がばれないように家族とも縁を切つて、日本人と結婚する人もいるわけです。

でもそういう生き方がノーマルな生き方であるかと言うと、私はどうもノーマルには思えないのです。アメリカみたいにイタリア系とか、韓国系とか日系が堂々と自分の民族や人種を自慢したり、マイノリティグループである事を誇りに思える生き方ができるような社会にしないといけないと思います。それがこの「チョゴリと着物」という集まりのコンセプトであるのではないでしようか。「チョゴリを着たままこのマンションに入つてもらつたら困ります」という民族差別を問う裁判がかつてありましたが、きのものも着たり、チョゴリも着たりできるような多文化社会にしなければなりません。最近びっくりする事は、大阪市大の卒業式行つたらチョゴリ着てる子が結構いて、「君在日?」と聞くと、「いえ私生粹の日本人です。チョゴリが好きで卒業式チョゴリで来ました」と答える日本人学生もいる。そんな日本人もいっぱい出てきているわけですね。求められるのは、多様な生き方が認められる社会、名前の自己決定権が認められる社会ですよね。帰化した人で日本人になりたい、過去に触れられたくない人はそれでいいと思います。自然にカミングアウトできるような社会にする為に、本人の努力だけじゃなくて、それを爽やかに迎えてあげられるような日本の成熟した多文化意識というか、そういうものが非常に重要なになってくるんじやないかなっていうのが私の結論なんです。講演中に乱暴な表現とか、聞いていて不適切な表現があつたかもせんけれども、お許し下さい。私の真意を皆さんに汲み取ってくれる事を期待しております。今日のお話を今本にまとめておりますので、また本ができたら買って頂きたいと思います。今日は「清聴ありがとうございました。

司会：ありがとうございます。事務局の不手際で進行が変更になりましたとして申し訳ございません。その分丁寧な先生のお話を聞いて頂けた事と思います。質疑応答の時間を少し設けたかったのですが時間の都合もございました

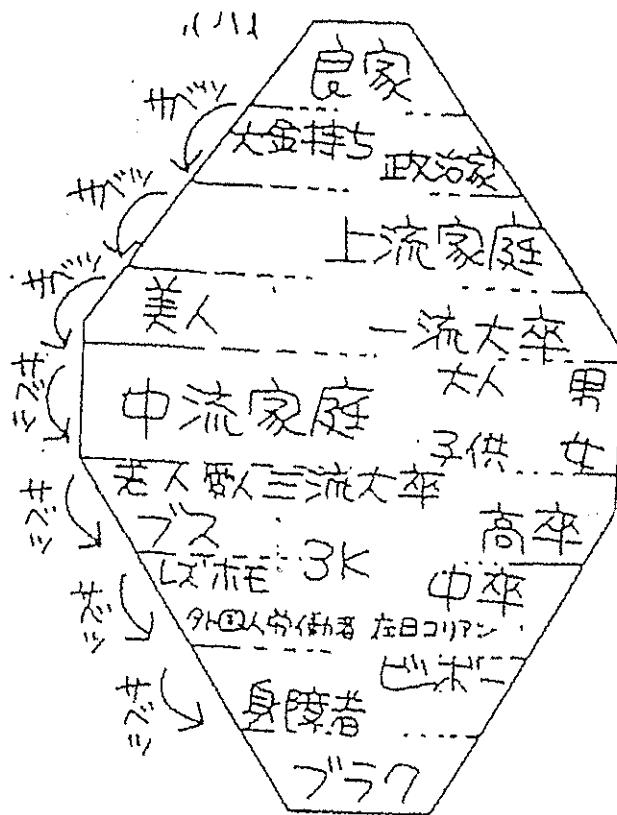
して、これまで一七回続けて参りました「チヨゴリときもの」で、常にコーディネーターとして中に入つて頂きました京都造形芸術大学の客員教授の仲尾先生から最後に一言頂きます。

仲尾 宏…どうも朴一さんありがとうございました。大変熱のこもったお話で、しかも我々馴染み深い名前がいっぱい出でますから楽しく聞かせて頂きました。結論も非常にストンと落ちるところが私にもあります。大多数の方もそう思つていらつしやると思います。私は特に付け加える事ありませんけども、用意して頂いた小林よしのり氏の漫画の中に、見取り図があつて、上は良家、下は部落とこう書いています。そしてその左、上から言うと一段目のコマにおばあさんが部落がいて良かつたね、と言つていますね。これは一体どういう意味かという事なんですが、私達多數派、マジョリティの日本人の意識として、ここでは部落という事になつてますが、民族問題でも一緒だと思うんです。何かそういう意識があるんじやないかと。例えば今日もたびたび話が出てきましたけども、純粋な日本人、純血な日本人、それに対して在日というのは、何世代前か知らないけどもとにかく混ざり物であるという意識があります。それからもうひとつは天皇家は高貴な存在という事で言われましたけれども、日本人は上品である、それに対して貧しい人や差別を受けている人や在日は下品であるという対抗意識があると思います。三つめはやはり日本人だけだつたら安心である。そこに異質な人、外国から来た人、あるいはその血を引いている人、あるいは言われなき差別を受けてきた人びとが混じると不安である。そういう意識があるんじゃないかと思います。しかしその純粋な日本人とは果たして誰なのか。この前申し上げましたように私の先祖は四代前がどこで何をしていた人かわからないんですね。日本人だつたかどうかもわかりません。それから上品か下品かで言うと私は決して上品ではない。まあ下品でもないと思つてますけれども、今のようにちよつと品がない男です。それから安心か不安か。これは誰もが例えは障害もなくて、心の迷いもあまり起きなくて、それで一生を過ごせる。周囲も皆そうだろう。という事で安心感というのがあると思うんですけども、これそ

はいきませんよね。いつ交通事故で自分が障害を持つかわからない、あるいは自分の家族の中に在日の人や、アメリカ人と結婚する人が出てくるかもしれません。あるいは私もそうでしたが家族の中に重い精神障害を持つてしまうという人もざらにいるわけです。そういう有り得ない純粹さ、上品さ、安心さを求める中に私は差別意識というものが根絶できない要素があると思うんですね。それは在日の方の生き方を見ていれば一目瞭然だという事を今回の三回のパネリストの人合計六人と、今日の朴一さんから芸能人やスポーツ界、あるいは作家などの経歴を通じてご紹介頂きました。とても私達にとっては考えるべき問題がいっぱいあるという事を改めて感じさせられた一時間五〇分でした。今日は、あるいは今年はこれで終わりますけれども、京都市国際交流協会の方ではもつともつと続けようという気持ちもおありますので、どうぞまた皆さん来年までお会いできませんけれども、今年のこのフォーラム、あるいは講演から何か血となり肉となるものを学んだとすればそれを糧として元気に生きていきましょう。それでは終わります。

司会：ありがとうございます。それでは京都市国際交流協会設立二〇周年記念講演会を終了致します。朴先生を拍手でお見送り致したいと思います。
もし「感想又は」意見「ございましたらお帰りのところで箱に入れて頂きましたら、ありがたく存じます。

図1 日本の階級構成



出所：小林（1991）『日本マニスム宣言』

（）冬紀文庫、1999年、479-30

京都市における国籍別外国人登録者数(平成21年12月末現在)

(単位:人)

国籍(出身地)	登録者数	国籍(出身地)	登録者数	国籍(出身地)	登録者数
韓国又は朝鮮	25,742	デンマーク	18	ブルキナファソ	3
中国	9,029	アルゼンチン	17	ベネズエラ	3
米国	1,026	オーストリア	14	マケドニア旧ユーゴスラビア共和国	3
フィリピン	1,005	コロンビア	14	マリ	3
フランス	335	チリ	13	アゼルバイジャン	2
英國	330	エチオピア	12	エクアドル	2
タイ	324	ハンガリー	12	カザフスタン	2
カナダ	258	ブルガリア	12	グアテマラ	2
オーストラリア	233	南アフリカ共和国	11	クロアチア	2
インドネシア	232	アルジェリア	10	サウジアラビア	2
インド	204	チエコ	10	スロベニア	2
ドイツ	196	ノルウェー	10	セルビア・モンテネグロ	2
ベトナム	189	ケニヤ	9	タンザニア	2
ブラジル	178	ジャマイカ	9	トリニダード・トバゴ	2
ロシア	140	ボリビア	9	パラグアイ	2
ネパール	128	モロッコ	9	ボスニア・ヘルツェゴヴィナ	2
イタリア	105	オマーン	7	マルタ	2
マレーシア	102	アフガニスタン	6	モルドバ	2
ニュージーランド	89	ウズベキスタン	6	イエメン	1
エジプト	87	コンゴ民主共和国	6	ウガンダ	1
ペルー	79	ホンジュラス	6	ウルグアイ	1
スウェーデン	73	マダガスカル	6	エルサルバドル	1
モンゴル	73	ギリシャ	5	カタール	1
スペイン	62	ミニカ共和国	5	キプロス	1
バングラデシュ	62	ポルトガル	5	クウェート	1
イラン	57	アンゴラ	4	コスタリカ	1
スリランカ	56	エストニア	4	コートジボワール	1
イスイス	49	カメルーン	4	サモア	1
オランダ	45	キルギス	4	ジンバブエ	1
メキシコ	44	スーダン	4	タジキスタン	1
ミャンマー	42	チュニジア	4	ニカラグア	1
ルーマニア	40	トンガ	4	バーレーン	1
イスラエル	39	ヨルダン	4	パレスチナ	1
フィンランド	30	ルクセンブルク	4	ベリーズ	1
シンガポール	26	アイスランド	3	東ティモール	1
ポーランド	26	イラク	3	モザンビーク	1
ベルギー	26	ガーナ	3	ラトビア	1
トルコ	24	キューバ	3	リビア	1
アイルランド	23	ザンビア	3	レバノン	1
ウクライナ	23	シリア	3	無国籍	12
バキスタン	22	スロバキア	3		
ラオス	22	セネガル	3		
ナイジェリア	21	セルビア	3		
カンボジア	20	ブータン	3	合計	41,295

※外国人登録者数の推移(過去5年)

平成16年	42,897
平成17年	42,618
平成18年	42,258
平成19年	41,463
平成20年	41,123

在日芸能人の名前と出自をめぐって～

Park Il

大阪市立大学教員 朴 一

日本の芸能・文学・スポーツ界で活躍する在日コリアンは少なくない。在日とカミングアウトしている有名人だけでも、都はるみ、和田アキ子、岩城滉一、松坂慶子、伊原剛志、つかこうへい、伊集院静、張本勲、森本ひちより、秋山成勲など、各界を代表する人物がいる。彼らは、芸能、文学、スポーツの世界ですばらしい成績を残し、日本の大衆文化の発展に大きな貢献をしてきた。しかし、その反面、彼らの多くが日本名の名乗り、ルーツ（出自）を隠して活躍しているため、在日コリアンとして脚光を浴びることはない。日本の社会の何かが在日コリアンの存在を見えなくしているのである。今回の講義では、日本の芸能界・スポーツ界において日本名で活躍する在日コリアンの生き様に光を当てながら、彼らの在日コリアンとしての葛藤に迫ってみたい。

0. 在日コリアンとは

：国籍にかかわらず朝鮮半島にルーツをもつ人々

1. 活躍する在日コリアン

- ・「紅白歌合戦は在日コリアンがいないと成立しない」（にしきのあきら談）
- ・阪神タイガースの躍進は、「在日3兄弟（金本、新井、桧山）」に支えられてきた。
芥川賞・直木賞作家に在日コリアンが多いのは何故か

2. 日本人のまなざし：在日コリアンは日本社会でどのようにイメージされてきたのか

- ・漫画家・小林よしのりの問題提起（小林よしのり『ゴー宣：差別論スペシャル』解放出版社）
 - ・小説家・团鬼六「一枚むけば」（『奇譚クラブ』1969年3月号）
 - ・美空ひばりの出自をめぐる日韓論争（「身空ひばりの父は韓国人の眞偽」『週刊文春』1989年8月10号）
 - ・ある週刊誌の犯罪報道から（「日本人処女30人を凌辱した在日韓国人レイプ犯の正体」『週刊文春』2005・4/21）

3. ●出自（ルーツ）という桎梏

- ・プロレスラー・力道山のケース（拙稿『在日という生き方』講談社メヂエ）
- ・俳優・松田優作のケース（松田美智子『越境者：松田優作』新潮社、2008年）

4. 出自を暴こうとする人々

- ・政治家・新井将敬のケース（河信基『代議士の自決』三一書房、1999年）
- ・安田成美のケース（「安田成美降板疑惑を一挙に解決した国賓発言」『週刊新潮』1995年3月2日号）
- ・総原城二『嫌韓流』裁判の波紋

5. カミングアウトという言い

- ・歌手・にしきのあきらのケース（野村進『コリアン世界の旅』講談社、1996年）
- ・俳優・伊原剛志のケース（伊原剛志『志して候う』アーバーブックス、2006年）
- ・歌手・和田アキ子のケース（「血と骨のブルース」『週刊文春』2005/8/11/18）
- ・プロ野球選手・森木ひちよりのケース

6. 在日コリアンの名前と出自をめぐる論争

- ・在日コリアン犯罪者の名前をどう報道すべきか
- ・日立就職差別判決が残したもの
- ・在日コリアンの通称名をめぐる議論

▼講演者プロフィール

朴一（ぼく・いる）。在日韓国人3世。同志社大学大学院博士課程修了。商学博士。専攻は、朝鮮半島地域研究、日韓・日朝関係論。現在、大阪市立大学教授。在日韓人資料館理事、国際高麗学会日本支部会長、現代韓國・朝鮮学会理事、北東アジア学会理事。

研究・学会・講演活動のかたわらテレビ・ラジオのコメンテーターとして数多くの番組に出演。主な著書に『在日といふ生き方』講談社メヂエ、『在日コリアンってなんでんねん』講談社新書、『朝鮮半島を見る眼』藤原書店などがある。



美声歌姫アキ子 「血と骨」のブルース

中村范太郎

自分が日本人じゃないと知った時は驚いた
ハングルじゃないイシメを受けた。幼少時代、
金正日みたいな冥父への愛憎からデビュー秘話まで、
高田自身が初めて明かした「芸能界の女帝」の真実

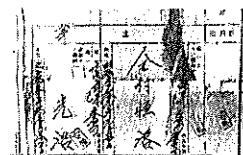
アキ子はなぜ、高田したのか
（前編）

アキ子はなぜ、高田したのか
（後編）

アキ子はなぜ、高田したのか
（前編）

アキ子はなぜ、高田したのか
（後編）

209 210



本日のオレ 憧み絶え 反発し…

バージ秘め優作ほえた

母の死を機に過去語る

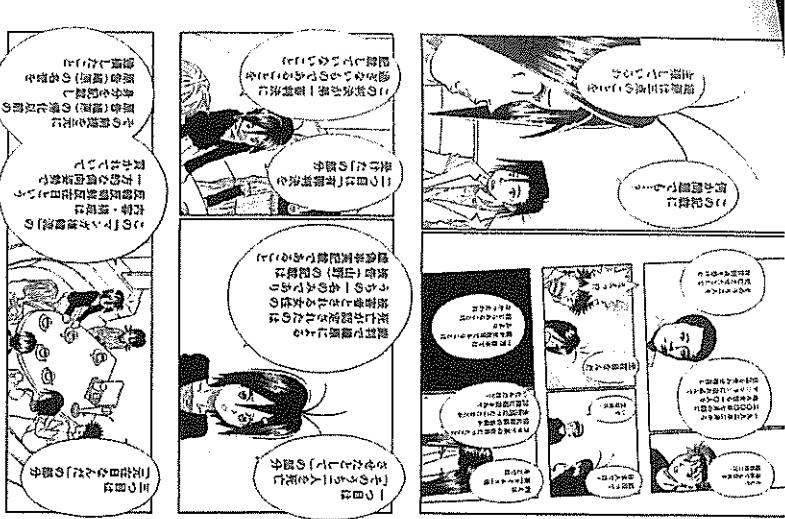
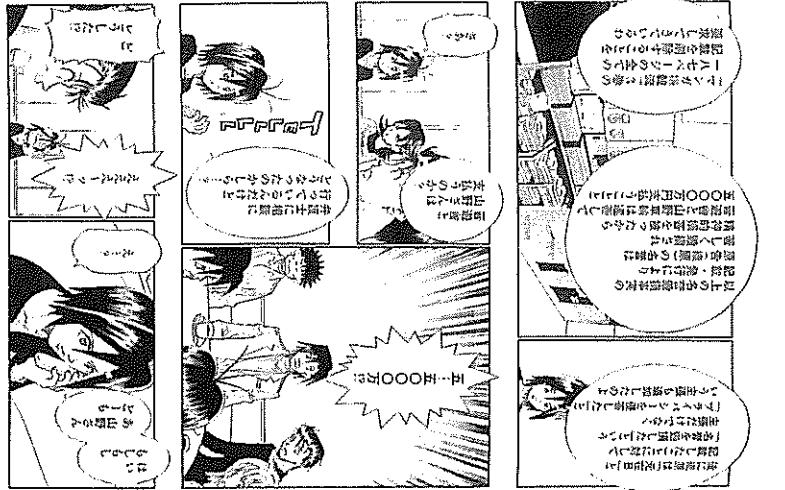


（左）『バージ』（右）『母の死』



われらが力道山
輝く二番山世
初日以来七幕一敗

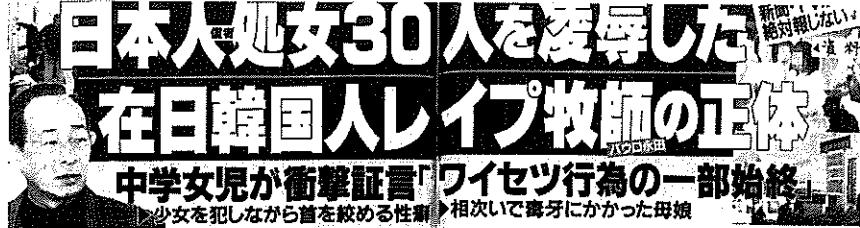




日本人處女30人を凌辱した 在日韓国人レイプ牧師の正体

中学女兒が衝撃証言 ワイセツ行為の一部始終
少女を犯しながら首を絞める性癖　相次いで寄牙にかかった母娘

→少女を犯しながら首を絞める性病→相次いで露芽にかかった母娘



20

（原載于《新亞學報》第十一期）

このように、本稿の主な構成は以下の通りである。
第一回は、主として、本稿の題材である「新規の開拓地」の紹介である。次に、その開拓地の歴史的背景を述べる。第三回は、開拓地の現状と、開拓地の開拓者たちの活動である。第四回は、開拓地の開拓者たちの活動に対する評議である。第五回は、開拓地の開拓者たちの活動に対する評議である。第六回は、開拓地の開拓者たちの活動に対する評議である。第七回は、開拓地の開拓者たちの活動に対する評議である。第八回は、開拓地の開拓者たちの活動に対する評議である。第九回は、開拓地の開拓者たちの活動に対する評議である。第十回は、開拓地の開拓者たちの活動に対する評議である。第十一回は、開拓地の開拓者たちの活動に対する評議である。第十二回は、開拓地の開拓者たちの活動に対する評議である。第十三回は、開拓地の開拓者たちの活動に対する評議である。第十四回は、開拓地の開拓者たちの活動に対する評議である。第五回は、開拓地の開拓者たちの活動に対する評議である。第十六回は、開拓地の開拓者たちの活動に対する評議である。第十七回は、開拓地の開拓者たちの活動に対する評議である。第十八回は、開拓地の開拓者たちの活動に対する評議である。第十九回は、開拓地の開拓者たちの活動に対する評議である。第二十回は、開拓地の開拓者たちの活動に対する評議である。

- 147 -

開国マメヨガスマ的に報じている

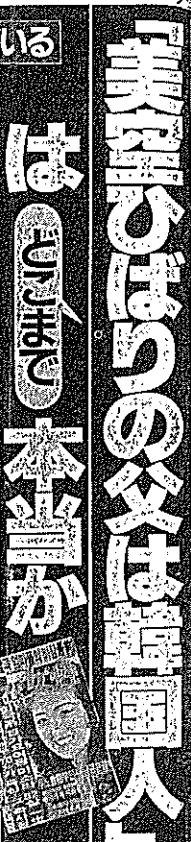


英光の死を報じる

朝日新聞社から

英光ひばりの死は、全國じゅう大々く報じられた。特筆し難い事じつとして、同國最大の獨創的「獨創女性」の死だ。ひばりさんは、全國人へ、といふべきではないが、全國の女性へ、といふべきではないか。『婦人』紙では、『婦人』紙の死だ。『婦人』紙は、全國の女性の死だ。『婦人』紙は、全國の女性の死だ。

この死は、『婦人』紙の死だ。『婦人』紙は、『婦人』紙の死だ。『婦人』紙は、『婦人』紙の死だ。『婦人』紙は、『婦人』紙の死だ。『婦人』紙は、『婦人』紙の死だ。



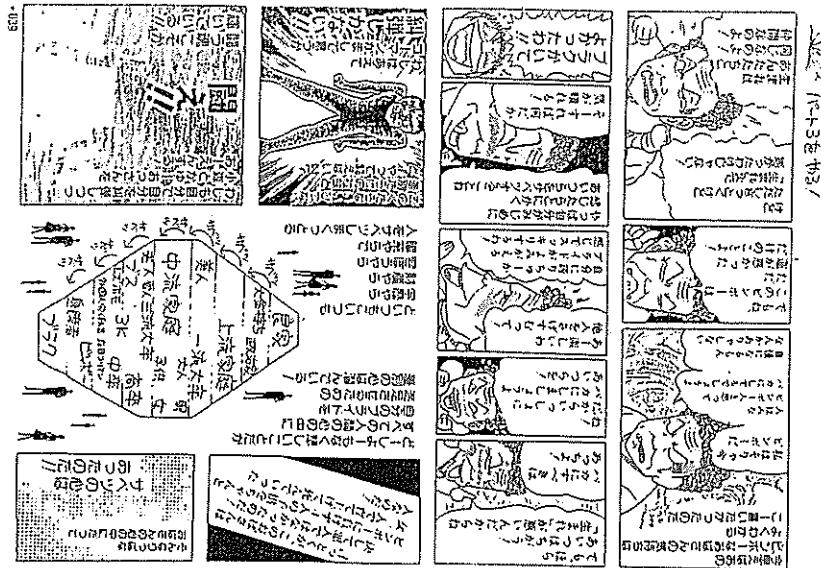
次へ

戻る

口を離さないで、日本への想い。
女性たちへ、日本の想い。
女性たちへ、日本の想い。

毎日文庫

女性自身



出所：小林義弘『中国のスム里』
1993年1月号



在日コリアンパワー 人脈図

芸能界		
歌手	俳優	その他
錦野旦	岩城滉一	康珍化(作詞家)
都はるみ	松坂慶子	
和田アキ子	宮下順子	
ケイコ・リー	大鶴義丹	
アン・サリー	伊原剛志	
ソニン	松田優作	
スポーツ界		
野球界	格闘技	その他
金田正一	力道山(プロレス)	朴康造(サッカー)
張本勲	長州力(プロレス)	孫基楨(マラソン)
新井宏昌	前田日明(プロレス)	
有藤通世	大木金太郎(プロレス)	
中上(藤本)英雄	大山倍達(空手)	
達川光男	洪昌守(ボクシング)	
金村義明	玉の海(大相撲)	
金本知憲	三重ノ海(大相撲)	
桧山進次郎	秋山成勲(柔道)	
政治・財界	文学界	その他
重光武雄(ロッテ)	立原正秋(直木賞)	崔洋一(映画監督)
林武志(朝日ソーラー)	つかこ うへい(直木賞)	
孫正義(ソフトバンク)	柳美里(芥川賞)	
韓昌祐(マルハン)	李良枝(芥川賞)	
青木定雄(MKタクシー)	梁石日	
全鎮植(モランボン)	鷺沢崩	
新井将敬(衆議院議員)	金城一紀(直木賞)	
白真勲(参議院議員)	李恢成(芥川賞)	
	玄月(芥川賞)	

※ここに掲げたのは本人及び関係者が公表、あるいはデビュー時に公表していた人物に限る。無論のこと、これ以外にもさまざまな分野において在日コリアンは幅広く活躍し、日本社会を支えている。

今年度、(財)京都市国際交流協会は設立二〇周年を迎えた。この間世界の状況や日本社会は大きく変化しました。同様に在日コリアンを取り巻く状況も徐々に変化し、新たな世代の考え方や生き方も多様化してきました。在日コリアンの歴史はすなわちそれを内包する日本の歴史と言えます。二〇年の時間を振り返るとき、日本の国際化における重要な一つのポイントとして、日本社会や在日コリアン社会がどのように変化したのか、あるいは変化しなかつたのかを「なまえ」をキーワードに今一度考えてみたいと思いました。

「なまえ」とはアイデンティティを表現する最大のものであるのか、それとも識別するためのものなのでしょうか。そのどちらの要素もあるものか、あるいはどちらでもない別のものなのでしょうか。

周囲が呼び、また自身が音や文字で発することを繰り返し「なまえ」は自己共に認識されます。そして家庭・学校・社会などとのかかわりの中で次第に本人と重なって行きます。その日常的な固有の「なまえ」を複数有するという稀有な状況が当然の事として日本社会に存在します。そして、時には法的な国籍選択と併せ、「『民族名』を本名とする」、「『民族名』を本名として日本語読みにする」、「『日本名』を本名とする」、「『日本名』を本名として朝鮮語読みにする」など、複数の名前を所有するがゆえの「なまえ」選択に直面します。

一人の人間が国籍や「なまえ」を選択する時、そこには強制も誘導も存在してはなりません。ましてや外部の善悪の判断など必要としません。重要なことは、個人がどのような人間で、またどのような「なまえ」、「生き方」を選択したのかを誇りと共に表現していくことであり、在日コリアン・日本人に限らず周囲の人間がそれを尊重し受け入れることなのではないでしょうか。

そしてさらに重要なことは、そのような複雑な状況・選択の事実が当然のように存在している現在の日本社会の在りようを多くの人が知ることであり、同時に真の多文化共生社会に近づいていくために、その構成者として各々が学び成長していくことを選択していくことではないでしょうか。

今回お話を頂きましたパネリストの皆様およびコーディネーターに改めて感謝申し上げます。また協会設立二〇周年を記念して、最終回にはご自身在日三世でいらっしゃる朴一先生より、人として互いに尊重できる成熟した社会への道をめざして、いくつもの具体的なエピソードを織り交せてお話をいただきました。重ねまして心より感謝申し上げます。ありがとうございました。

(財) 京都国際交流協会 事業課 岡村敦子

アジアの風文庫 26
「チョゴリときもの」
名前から考える

2011年2月 第1刷発行
編集・発行 財団法人 京都市国際交流協会
〒606-8536 京都市左京区粟田口鳥井町2の1
TEL. 075-752-3010
印刷 株式会社 アルファ・プリント社

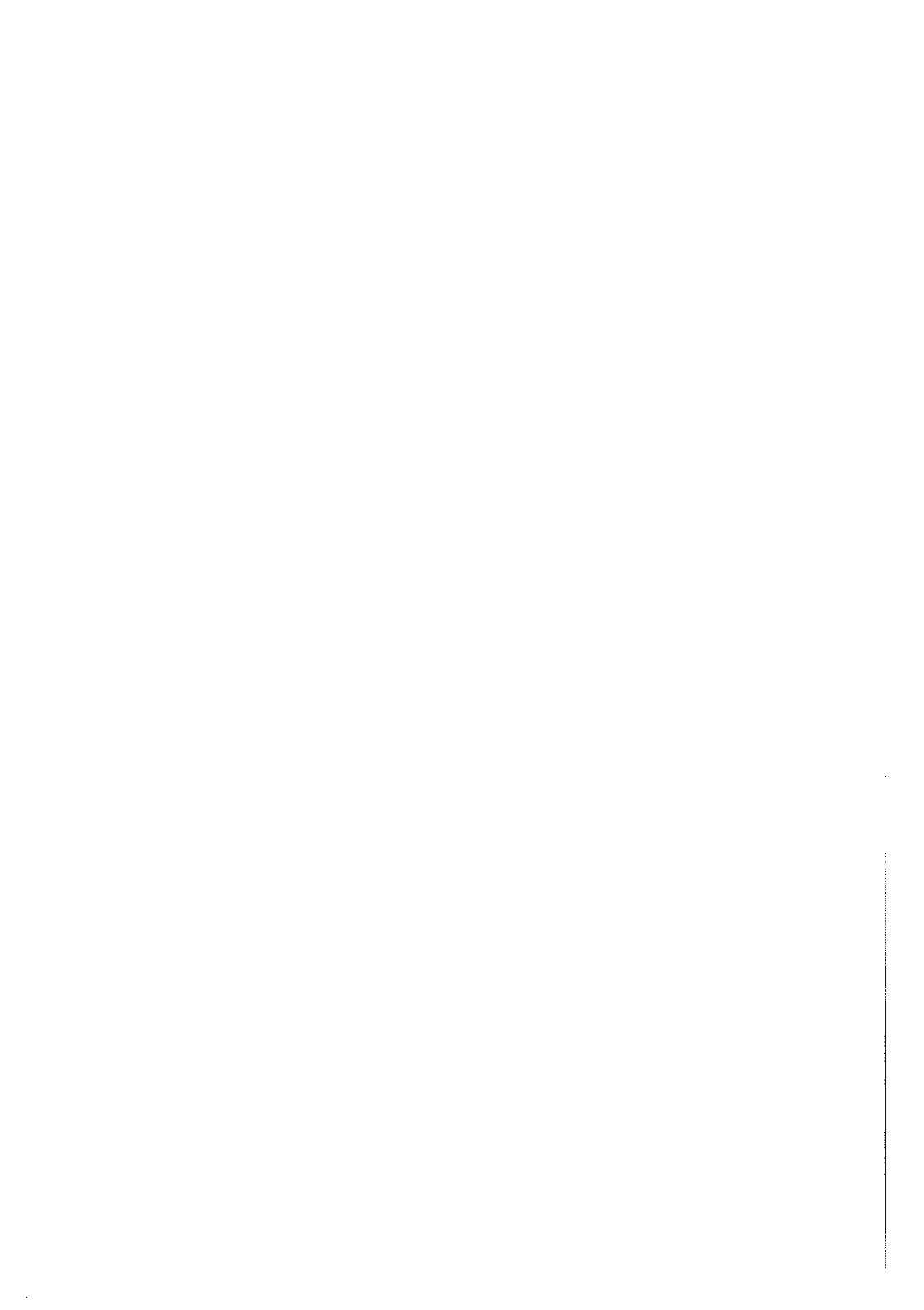




photo by 水春(photost.jp)